

# 宮城県における主要魚種の 資源動向（2025年）

宮城県水産技術総合センター  
環境資源チーム  
（2026年3月）

# 2025年宮城県主要魚種の資源動向 目次

## 1. 国際的に管理されている資源の動向

(1) クロマグロ (TAC 魚種)	1
(2) カツオ	3
(3) メバチ	5
(4) キハダ	6
(5) ビンナガ	7
(6) メカジキ	8
(7) サンマ (TAC 魚種)	9
(8) シロサケ	11

## 2. 沖合が主漁場となる資源の動向

(9) マイワシ (TAC 魚種)	13
(10) マサバ (TAC 魚種)	15
(11) ゴマサバ (TAC 魚種)	17
(12) マアジ (TAC 魚種)	18
(13) スケトウダラ (TAC 魚種)	19
(14) マダラ (TAC 魚種)	21
(15) サメガレイ (TAC 管理対象候補魚種)	23
(16) ババガレイ	25
(17) キチジ	26
(18) キアンコウ	27
(19) イラコアナゴ	28
(20) イトヒキダラ	29
(21) ユメカサゴ	30
(22) ヤリイカ	31

## 3. 沿岸が主漁場となる資源の動向

(23) スルメイカ (TAC 魚種)	33
(24) カタクチイワシ (TAC 魚種)	35
(25) ブリ (TAC 魚種※2025年4月~)	37
(26) イカナゴ	38
(27) ツノナシオキアミ	39
(28) サヨリ	40
(29) スズキ	41
(30) サワラ	42

(31)	アイナメ	43
(32)	マアナゴ	44
(33)	ケムシカジカ	45
(34)	マダイ	46
(35)	カナガシラ	47
(36)	ウマツラハギ	48
(37)	ヒラメ (TAC 管理対象候補魚種)	49
(38)	マコガレイ	51
(39)	マガレイ	53
(40)	ホシガレイ	55
(41)	ジンドウイカ	56
(42)	マダコ	57
(43)	ミズダコ	59
(44)	ガザミ	60
(45)	アカガイ	61

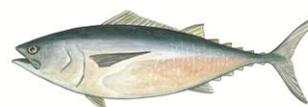
#### 4. 近年増加傾向にある暖水性魚種の資源動向

(46)	タチウオ	62
(47)	チダイ	63
(48)	アカムツ	64
(49)	トラフグ	65
(50)	ケンサキイカ	66
(51)	ホウボウ	67
(52)	アオメエソ	68
(53)	アカカマス	69
(54)	メダイ	70
(55)	アオリイカ	71

#### 5. まとめ

(56)	主要魚種の資源水準動向一覧	72
(57)	主要魚種の水揚量の推移	73

## クロマグロ (*Thunnus orientalis*)



### 生態

- ①寿命：20歳以上と考えられ、最大体長は300cm、最大体重は、400kg以上に達する。
- ②成熟：現在の資源評価では、3歳で20%、4歳で50%、5歳以上で100%を成熟割合と仮定している。
- ③産卵期：4～7月に南西諸島周辺海域を中心とした日本の南方～台湾の東沖、7～8月に日本海南西部で産卵すると考えられている。近年、夏季に三陸・常磐海域での産卵も確認されている。
- ④分布：主に北緯20～40度の温帯域に分布。熱帯域や南半球にもわずかながら分布がみられる。
- ⑤生態：仔魚期はカイアシ類等を主な餌とするが、成長に伴い魚類仔魚、小型魚類と食性を変化させる。大型魚になるとイカ類のほか、トビウオ類、キントキダイ類、カツオ等を捕食する。特定の魚種を選択的に捕食するのではなく、その海域に多い生物を機会に応じて捕食しているとされている。

### 主な漁業と漁期

まき網、はえ縄、ひき縄、竿釣り、定置網等により漁獲しているが、半数はまき網による水揚げとなっている。かつては三陸～関東沖の北西太平洋で夏期に漁獲されていたが、1980年代初頭からは日本海南西部に3～5歳魚の漁場が形成され、2010年代中盤までは日本海が主漁場となっていた。近年は再び三陸沖～関東沖の漁場でも日本海より高齢の魚が漁獲されている。

### 資源動向と水準

親魚資源量は1960年前後に第一のピークを迎え、1990年代中頃に第二のピークを迎えた。その後2010年までに減少した後、回復傾向を示し2022年の親魚資源量は14.4万トンと推定された。これは、2034年までに達成する目標を2021年に達成したことを示している。

これらのことから、親魚資源量は一般的な管理基準値と比較すると「減り過ぎ」の状態を脱却しており、近年(2020～2022年)の漁獲強度は一般的な基準値よりも低く「獲り過ぎ」の状態でもないことが示された。

2025年における本県への水揚げ量は2,406トン(水揚げ金額61億円)であり、水揚げの多くをま

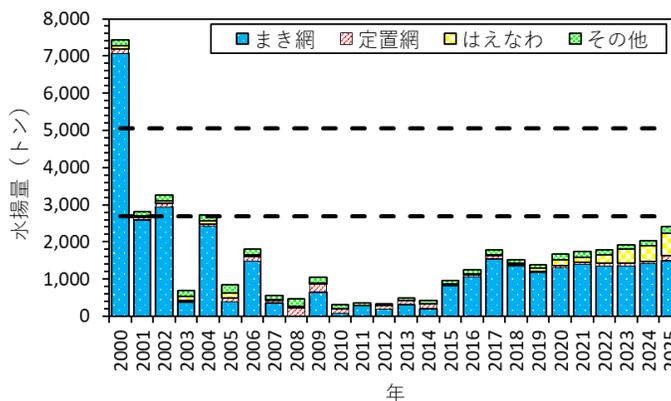


図1 宮城県へのクロマグロ水揚げ量の推移

き網（1,502 トン）が占めていた。

### トピックス

太平洋くろまぐろ資源の回復を図るため、中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）では漁獲管理を行っている。令和 8 管理年度における我が国の漁獲上限は小型魚（30kg 未満）：4,373.9 トン、大型魚（30kg 以上）：8,469.6 トンに設定された。

2018 年 7 月 1 日からは、TAC 法に基づくくろまぐろの漁獲管理が始まり、宮城県における令和 8 年度の漁獲上限は小型魚（30kg 未満）：68.2 トン、大型魚（30kg 以上）：39.1 トンとなっている。

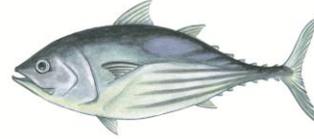
また、遊漁者に対しては、2021 年 7 月 1 日以降 30kg 未満のクロマグロを採捕することを禁止しており、意図せず採捕した場合、直ちに海中に放流することが定められた。大型魚については、2026 年 4 月以降は採捕するためには、事前に届出が必要となった。



### 参考文献

- 1) 福田 漢生・西川 水晶・松倉隆一（2025）令和 6 年度 国際漁業資源の現況 05 クロマグロ 太平洋、水産資源研究所 水産資源研究センター、  
[https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06\\_05\\_PBF.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_05_PBF.pdf)

## カツオ (*Katsuwonus pelamis*)



### 生態

- ① 寿命：約6年以上と考えられている。最大で100cm、25kgに達するとされている。
- ② 成熟：高緯度ほど成熟体長は大きくなり、熱帯域・亜熱帯域・温帯域における50%性成熟体長はそれぞれ50.1cm、53.7cm、55.9cmと推定され、その年齢は約1.5歳と考えられる。
- ③ 産卵期：熱帯域・亜熱帯域では周年産卵していることが示唆されている。  
日本近海では夏季に限定される。
- ④ 分布：太平洋では熱帯～温帯水域に広く分布する。日本近海へのカツオの来遊は、黒潮沿い・伊豆諸島沿い・伊豆諸島東沖・東沖の4つのルートが示唆されている。日本近海では、18℃の限界生息水温によって水平的にも鉛直的にも分布範囲が制限される。
- ⑤ 食性：稚魚期の餌は主に魚類仔魚だが、カイアシ類、オキアミ類や頭足類も捕食する。成長すると魚類、甲殻類、頭足類を捕食するようになる。餌生物に対する選択性は弱く、その水域にいる最も多いものや捕食しやすいものを食べていると考えられている。

### 主な漁業と漁期

日本では、1980年ごろまでは一本釣りが主な漁法であったが、以降は巻き網が中心となり、2020年においては巻き網が水揚げの8割を占め、次いで一本釣りが1割程度となっている。

本県への水揚げ時期は6月～10月が中心となっている。主な水揚げ港は気仙沼港であり、2010年代中盤までは巻き網の水揚げが多い年の割合が高かったが、ここ数年は一本釣りの水揚げの割合が増加している。

### 資源動向と水準

中西部太平洋におけるカツオ資源量は1980年代中頃から2000年代中頃ま緩やかに増加していたが、その後は減少傾向を示した(図3)。

本県における2000年以降の水揚げは2005年の100,188トンが最高値であり、2011年以降は水揚げが減少している。2025年における水揚量は8,846トン(水揚金額33億円)であり、2024年を大きく下回る水揚量に終わり、2000年以降で最低の水揚量であった。そのうち一本釣りが7,945トン、巻き網が892トンであった。

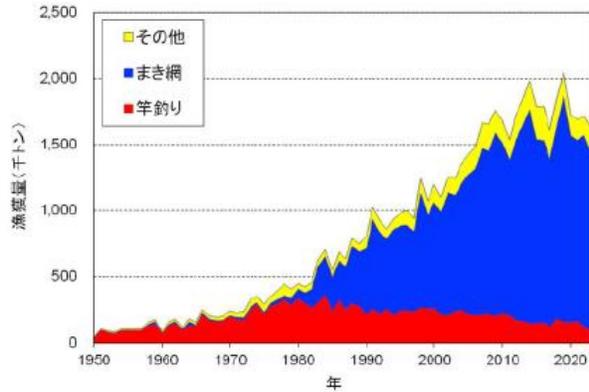


図1 中西部太平洋におけるカツオの主要漁法別漁獲量の推移(1950～2022年、WCPFC 2023より集計)(津田ら2025より引用)

## トピックス

気仙沼港における 2025 年の生鮮カツオの水揚量は 4,360 トンであり、28 年続いた生鮮カツオの水揚量日本一の記録が途絶えた。

その要因としては、日本近海へ北上回遊してくる群れが少なかったこと、さらにその群れの中で黒潮流域を超えて三陸沖まで北上する魚体重 2~3kg の魚が特に少なかったことがあげられる。

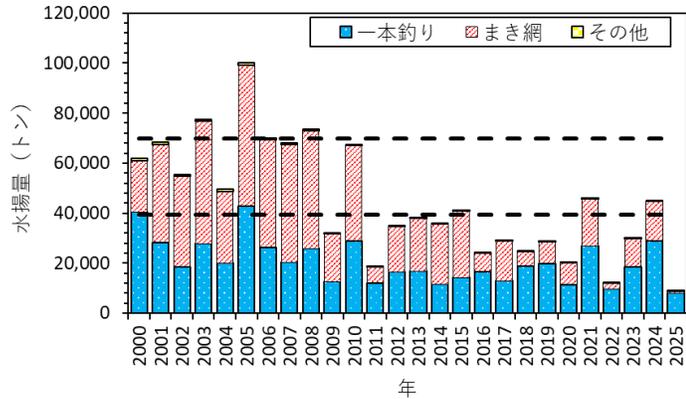


図2 宮城県へのカツオ水揚量の推移

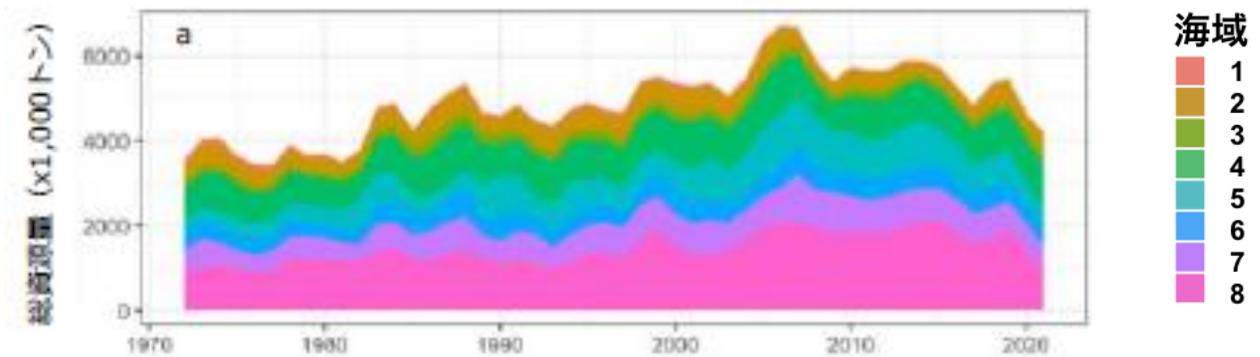


図3 各海域における総資源量の推移 (1972~2021 年、Castillo Jordán et al. 2022) (津田ら 2025 より引用)

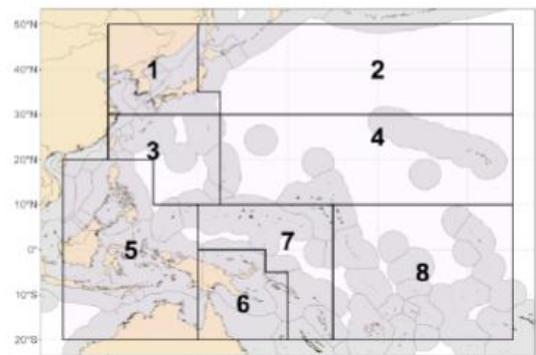
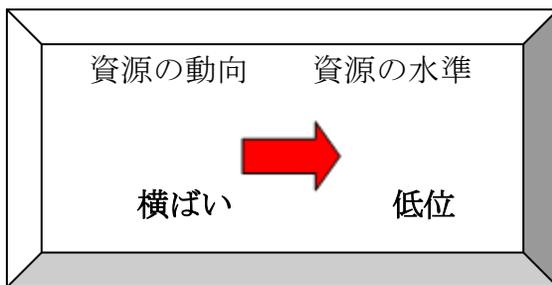


図4 資源評価に適用された海域区分 (Castillo Jordán et al.2022) (津田ら 2025 より引用)

## 参考文献

- 1) 青木 良徳・津田 裕一 (2025) 令和 6 年度 国際漁業資源の現況 30 カツオ 中西部太平洋, 水産資源研究所 水産資源研究センター, [https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06\\_30\\_SKJ-WCPO.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_30_SKJ-WCPO.pdf)

# メバチ (*Thunnus obesus*)



## 生態

- ① 寿命：10～15年と考えられている。
- ② 成熟：雌は尾叉長 92 cm で 50%、135 cm では 100% が成熟している。
- ③ 産卵期：24℃以上の水域で周年行われると考えられているが、季節性もみられる。最盛期は赤道の北側で 4～5 月、南側では 2～3 月である。
- ④ 分布：三大洋の熱帯域から温帯域にかけて広く分布する。
- ⑤ 生態：魚類や甲殻類、頭足類等幅広い分類群が出現し、餌の選好性は弱いと考えられる。他のマグロ類に比べてハダカイワシ類やムネエソ等の中深層性魚類が多い。

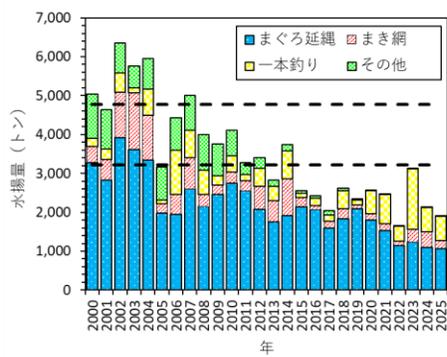
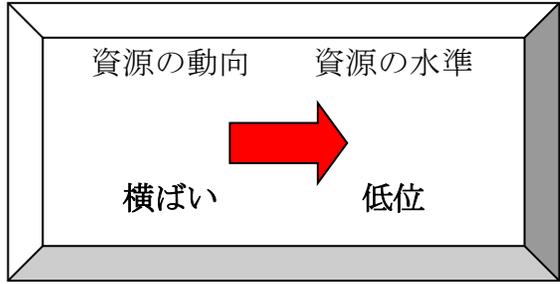


図 宮城県へのメバチの水揚量の推移

## 主な漁業と漁期

主にはえ縄とまき網によって漁獲される。1970年代までは、はえ縄が漁獲の9割を占めていたが、その後、まき網による漁獲量が増加した。竿釣り漁業での水揚げも見られ、特にインドネシアでは盛んに行われている。

本県における 2000 年以降の水揚げを見ると、まぐろはえ縄での水揚げが最も多く、次いでまき網、一本釣りと続くが、近年は一本釣りでの水揚げがまき網の水揚げを上回っている。



## 資源動向と水準

最大持続生産量 (MSY) は 16.4 万トンと推定され、2023 年の漁獲量の方が小さく、乱獲状態の可能性が低い。また、漁獲の強さが過剰でない可能性が高い。

2025 年における本県への水揚げ量は 1,915 トン (水揚金額 19 億円) であり、マグロ延縄での水揚げが 1,067 トンで半数以上を占めた。

## 参考文献

1) 井嶋 浩貴・岡本 慶・田中 寛繁 (2025) 令和6年度 国際漁業資源の現況 18 メバチ 中西部太平洋, 水産資源研究所 水産資源研究センター, [https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06\\_18\\_ALB-NPO.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_18_ALB-NPO.pdf)

# キハダ (*Thunnus albacares*)



## 生態

- ①寿命：7～10年と考えられている。最大体長は200cmを超えるとみられる。
- ②成熟：雌は、体長105cm（3歳）で50%が成熟している。
- ③産卵期：水温24℃以上の水域で周年行われる。産卵盛期は熱帯域で、西部太平洋（東経120度～180度）は12月から翌1月、より東に位置する中央太平洋（180度から西経140度）は4～5月と考えられている。
- ④分布：三大洋の熱帯域から温帯域にかけて広く分布し、夏季には北緯40度近くまで分布する。
- ⑤生態：仔魚期の餌生物はカイアシ類、枝角類が主体で、稚魚の胃内容物は主に魚類、次いで頭足類が多い。成魚は魚類を主に甲殻類、頭足類等幅広い生物を摂餌し、明確な嗜好性はないと考えられている。

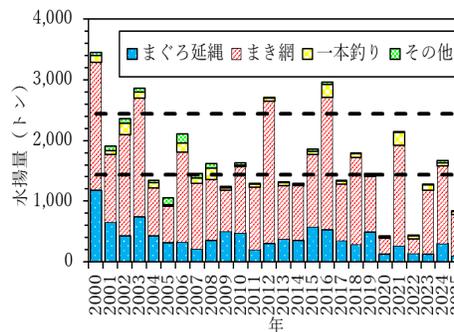


図1 宮城県におけるキハダの水揚量の推移

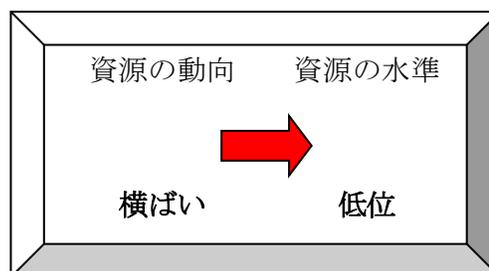
## 主な漁業と漁期

主にはえ縄、まき網及び竿釣りで漁獲される。1980年代までは、はえ縄が漁獲の半分以上を占めていたが、その後、まき網による漁獲量が増加した。竿釣りは、インドネシアで特に盛んである。本県における2000年以降の水揚げを見ると、まき網の水揚げが最も多く、次いでまぐろはえ縄、一本釣りと続く。

## 資源動向と水準

最大持続生産量 (MSY) は70万トンと推定され、2022年の漁獲量 (69.7万トン) は、ほぼMSYに達している。資源は乱獲状態の可能性が低く、漁獲の強さが過剰でない可能性が高い。

2025年における本県の水揚量は842トン (水揚金額5億円) であり、2024年を下回る水揚であった。まき網での水揚げが最も多く674トン、次いでまぐろ延縄が101トンであった。



## 参考文献

1) 長谷川 貴章・岡本 慶・田中 寛繁 (2025) 令和6年度 国際漁業資源の現況 14 キハダ 中西部太平洋, 水産資源研究所 水産資源研究センター, [https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06\\_14\\_ALB-NPO.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_14_ALB-NPO.pdf)

# ビンナガ (*Thunnus alalunga*)



## 生態

- ①寿命：16 歳以上。最大で尾叉長約 120 cm，体重約 30 kg になると考えられている。
- ②成熟：5 歳で 50%，6 歳で 100%が成熟する。
- ③産卵期：4～6 月が盛期とされているが，台湾やルソン島付近からハワイ諸島近海の水温が 24° C 以上の水域で周年産卵すると推定されている。
- ④分布：北太平洋のビンナガは，高緯度域において東西を渡洋回遊する。漁場の大部分は北緯 25 度以北の海域（索餌域に相当）にあたる。
- ⑤生態：主要な餌生物は魚類，甲殻類及び頭足類である。そのほかにも尾索類，腹足類等多くの生物種が胃内容物として出現している。

## 主な漁業と漁期

日本の竿釣り，日本と台湾のはえ縄及び米国とカナダのひき縄で漁獲される。日本では流し網やまき網でも漁獲されるが漁獲量は少ない。

本県における 2000 年以降の水揚げを見ると，一本釣りの水揚げが最も多く，次いでまぐろはえ縄，まき網と続くが，年によってはまぐろはえ縄の水揚げが一本釣りの水揚げを上回る年が見られる。

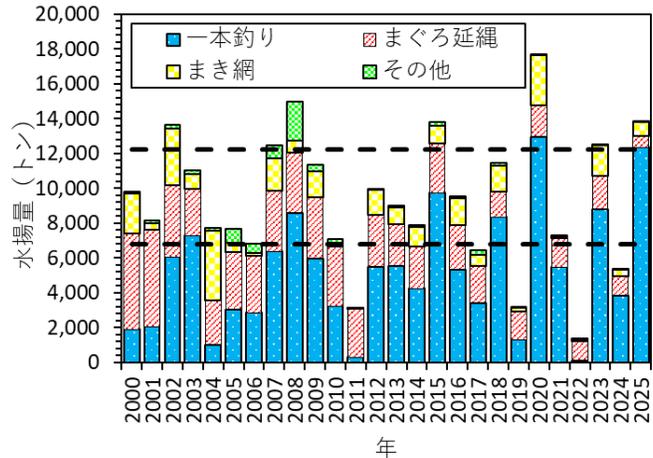
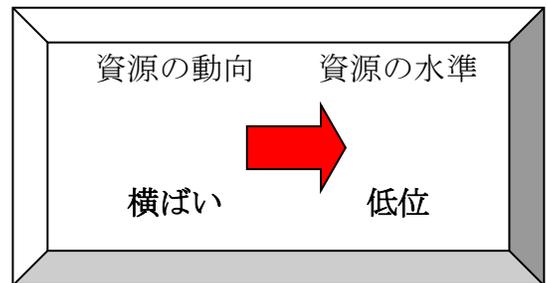


図 宮城県へのビンナガの水揚量の推移

## 資源動向と水準

北太平洋ビンナガ資源は，おそらく過剰漁獲でも，乱獲状態でもないと言われている。

本県への 2025 年の水揚量は，13,803 トン（水揚金額 48 億円）で前年の倍以上であった。



## 参考文献

- 1) 津田 裕一・青木 良徳 (2025) 令和 6 年度 国際漁業資源の現況 08 ビンナガ 北太平洋，水産資源研究所 水産資源研究センター，[https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06\\_08\\_ALB-NPO.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_08_ALB-NPO.pdf)

メカジキ (*Xiphias gladius*)

## 生態

- ①寿命：少なくとも9歳以上と考えられている。
- ②成長・成熟：吻を含めた最大の全長は4m以上、体重500kg程度に達する。全長2m、3歳ごろに成熟する。雌の方が成長が速く、より大型に成長する。
- ③産卵期：産卵は、熱帯・亜熱帯域で周年行われているが、主産卵期は4～9月頃であると考えられている。
- ④分布：夏季に親潮域から黒潮続流域の索餌海域に分布し、冬季には北緯30度以南の産卵海域に移動する。
- ⑤生態：魚類や頭足類を摂餌していることが明らかになっている。

## 主な漁業と漁期

日本・米国・台湾・韓国が主な漁業国である。日本が総漁獲量の6割程度を漁獲している。主な漁法は、夜間のはえ縄や大目流し網、突棒、マグロ類はえ縄の混獲となっている。

本県においては半数以上がまぐろはえ縄で漁獲されるが、夏季には三陸沿岸での突棒漁も行われている。

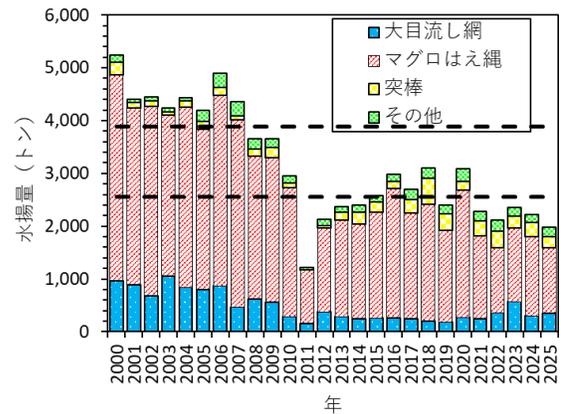


図 宮城県へのメカジキの水揚量の推移

## 資源動向と水準

産卵親魚量の水準の解析結果は、1975～2021年の全期間において、MSY レベル以上で漁獲死亡係数も減少傾向を示していることから、現在の資源量は過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない。

本県への水揚量は、2012年以降低位ながらも安定しており、2025年における本県の水揚量は1,983トンであった。そのうち、まぐろはえ縄での水揚げが最も多く、水揚量1,239トン(水揚金額25億円)であった。



## 参考文献

- 1) ユスップ マルコ・高橋 将馬・芦田 拓士 (2025) 令和6年度 国際漁業資源の現況 22 メカジキ 北太平洋, 水産資源研究所 水産資源研究センター,  
[https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06\\_22\\_SWO-NPO.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_22_SWO-NPO.pdf)

## サンマ (*Cololabis saira*)



### 生態

- ①寿命：約2歳。
- ②成熟：ふ化後6～7ヶ月で体長が約20cmに成長する。1歳魚は漁期中（8～12月）に体長29cm以上になり、最大で体長35cm、体重220g程度に達する。成熟している個体は主に体長25cm以上とされている。
- ③産卵期：9月から翌年6月。産卵海域は季節的に移動し、秋季と春季は主に黒潮・親潮移行域に形成され、水温の低い冬季は黒潮域～黒潮続流域に形成される。
- ④分布：季節的な南北回遊を行う。5～8月に北上して夏季に黒潮・親潮移行域北部・亜寒帯水域で索餌した後、8月中旬以降に南下回遊を開始し、冬季には産卵のため移行域・黒潮前線域・亜熱帯域まで回遊する。  
東西方向にも回遊を行い、漁期前の6～7月には日本のはるか沖合、東経155度～西経170度付近に多く分布する。秋以降は日本近海（西方向）に來遊する。
- ⑤生態：動物プランクトン食性。成長に伴いサイズの大きな動物プランクトンを摂餌する。

### 主な漁業と漁期

日本では、サンマの大半は北太平洋さんま漁業として棒受網漁業で漁獲される。漁場は千葉県以北の太平洋側の200海里水域内がほとんどであったが、2010年以降は公海での操業が行われ、水揚げ割合は増加している。

漁場は例年8月に北海道東部沖から千島列島沖に形成され、9月下旬から10月上旬に三陸沖まで南下し、11月から12月の漁期終盤には常磐沖から房総沖にまで達する。

本県においては10月上旬から12月にかけて棒受網による水揚げが行われ、県内水揚げの9割以上を占めている。

### 資源動向と水準

北太平洋漁業委員会（NPFC）での資源評価では、日本、中国、韓国、台湾及びロシアのデータを使用した資源評価モデルが用いられている。解析の結果、資源量は2000年代中頃以降減少し、2020年以降は僅かに増加しながらも低水準を維持している。漁獲割合（漁獲量／資源量）は、2000年代中頃以降に増

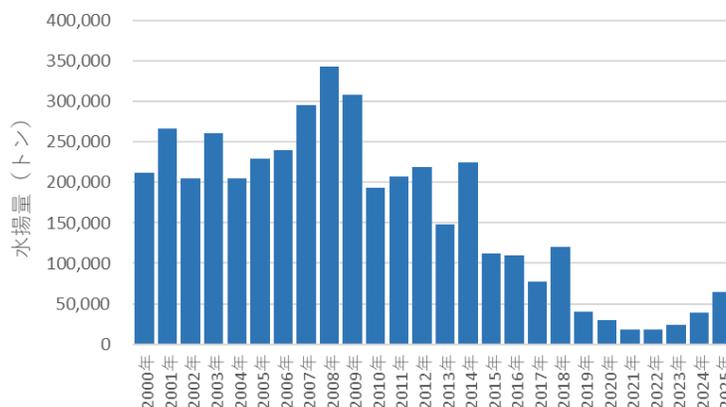


図1 全国のさんま棒受網によるサンマの水揚げ量の推移

加し MSY 水準を大きく上回っていたが、近年は減少傾向を示している。

全国のおさんま棒受網の水揚量を見ると（図 1）2012 年以降徐々に減少する傾向が続き、2022 年を最低として徐々に増加し、2025 年は 64,738 トンとなった。

本県におけるサンマ棒受網の水揚量は、2000 年から 2010 年までは 4 万トンから 10 万トンの範囲で平均では 6.5 万トン程度であった。

2011 年から 2018 年は 1.3 万トンから 5.1 万トン、平均で 2.7 万トンに減少した。

2019 年以降は 1 万トン未満が 2024 年まで続き、2025 年に 7 年ぶりに 1 万トンを超え、14,697 トン（水揚金額 37 億円）となった。

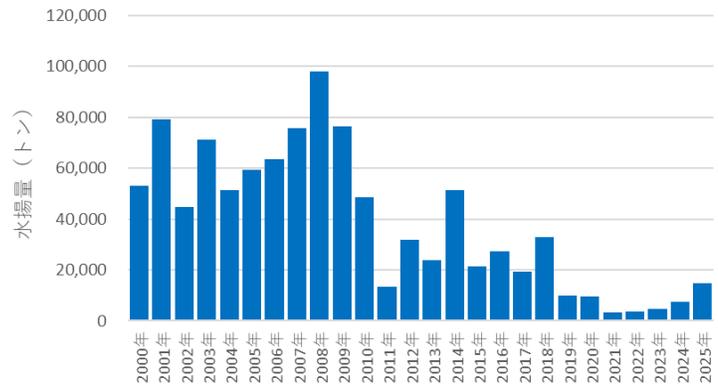


図 2 宮城県へのさんま棒受網によるサンマの水揚量の推移



参考文献

- 1) 中山 新一朗・巢山哲・宮本 洋臣・富士 泰期・橋本 緑・納谷 美也子 (2025) 令和6年度 国際漁業資源の現況 81 サンマ 北太平洋、水産資源研究所 水産資源研究センター、  
[https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06\\_81\\_SAP.pdf](https://kokushi.fra.go.jp/R06/R06_81_SAP.pdf)
- 2) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所広域性資源部 (2025) 令和6年度水産資源調査・評価推進委託事業および水産庁補助事業（サンマ研究関係分）成果報告書 第74回 サンマ資源・漁海況検討会議報告.
- 3) 全国さんま棒受網漁業協同組合 (2025) .「さんまの水揚量 (年)」  
[https://www.samma.jp/tokei/catch\\_year.html](https://www.samma.jp/tokei/catch_year.html) (参照 2026-2-3)

サケ (*Oncorhynchus keta*)

## 生態

- ① 寿命：2~8 年程度であるが、通常、3~5 年で河川を遡ったのち、産卵して一生を終える。河川で孵化したのち海洋を回遊し、母川に戻って産卵し一生を終える溯河性魚類である。
- ② 成熟：成熟すると共に母川に向けて回帰する。通常 4 年魚の回帰が最も多い。
- ③ 産卵期：主に秋季から冬季にかけて遡上し、産卵する。人工繁殖下では、採卵時期と同様の時期に、母川に遡上する傾向がある。
- ④ 分布：関東以北から北米オレゴン州までの北太平洋、日本海北部、オホーツク海、ベーリング海に分布する。
- ⑤ 生態：稚魚期は小型動物プランクトン（小型カイアシ類等）、成魚期は、甲殻類（オキアミ類、カイアシ類）等の中型動物プランクトンが主要な餌生物。沿岸から沖合へと移動したのち、北洋を索餌回遊しつつ成長し、成熟して母川へと回帰する。

## 主な漁業と漁期

定置網が主要漁業であり、刺網等でも漁獲される。主に来遊時期の秋季から冬季にかけて、漁獲される。河川遡上後は、各増殖団体によって、孵化放流事業のために捕獲される。

## 資源動向と水準

サケ（日本系シロサケ）の資源は低位水準にある。多獲地域である北海道を中心に回帰率は、大きく変動しながら低下している。

日本に来遊するサケ資源は、その多くが、孵化放流事業により稚魚を大量に放流することで造成されたものである。サケの来遊数は、試験研究に基づいた孵化放流手法の実践により飛躍的に増加し、1996 年には、全国で 8,900 万尾と最多を記録した。その後は次第に減少し、2000 年に 4,400 万尾となったものの、2004 年には 7,700 万尾まで増加した。以降の来遊数は増減を繰り返したが、2010 年度以降に減少傾向が顕著となった。2016 年度~2021 年度は 2 千万尾~3 千万尾の来遊になっている。2022 年度は 2016 年以降はじめて 3 千万尾を超えた。

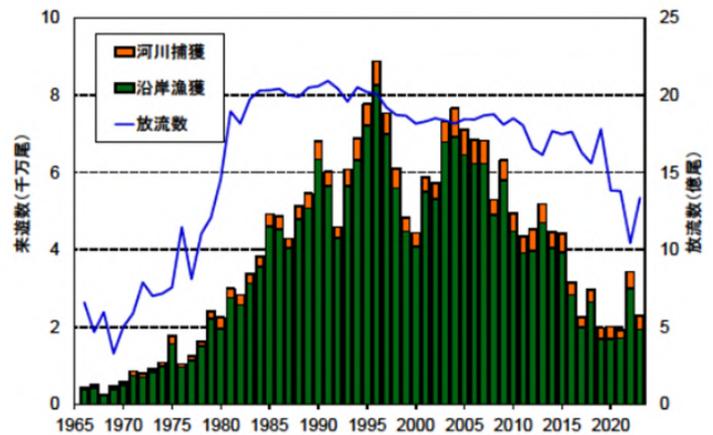
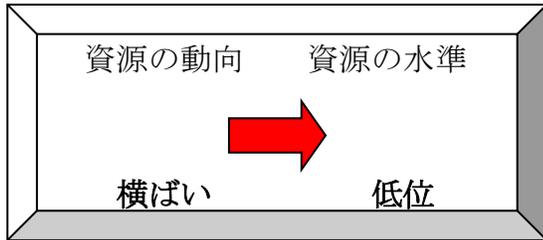


図 1 サケの来遊数(沿岸漁獲数と河川捕獲数の合計値)と放流数の推移(渡邊ら 2024 参照)

宮城県の来遊数は、2008年度に344万尾と最多を記録したが、以降は増減の変動を繰り返しながら減少傾向にあり、2025年の来遊数は、3.6千尾（前年比41%）、水揚金額は4百万円で過去最低となった。



### トピックス

サケの資源は低位水準にある。回帰率は、近年低下傾向であり、来遊数は減少している。減少要因としては、海洋環境等の変動等によって、以下の変化が起きたことが指摘されている。①シロサケ稚魚の好適水温帯の継続期間の短縮・形成時期の変化、②黒潮系の暖水塊や津軽海峡を抜ける対馬暖流の影響が強くなり、サケ稚魚のオホーツク海への回遊を阻害、③親潮の弱化による栄養塩や動物プランクトンの沿岸域への供給量の減少や季節ごとの組成変化に伴う稚魚の餌環境の悪化。

更に、幼魚と親魚の適水温域の縮小が報告されている。①幼魚がオホーツク海へと移動する時期の適水温エリアが減少し、②北太平洋における適水温エリアも減少傾向にある。

【将来的な回復見込み】：水産庁では、「過去のデータや従来のパターンでは説明できない変動が海洋環境やシロサケ資源に起きている」と報告している。更に、「現在、起こっている資源変動や環境変化が、今後、元に戻るともこのまま続くとも確定できず、今を乗り切ったとしても、今回と同様かそれ以上の不漁が発生する可能性も否定できない状況」としている。

【将来展望】：近年の来遊数が減少していることから、来遊規模が縮小する中での増殖団体の運営、孵化場の統合等が模索されている。

### 参考文献

- 1) 渡邊久爾・水本寛基・本多健太郎・佐藤俊平（2024）サケ（シロザケ）日本系—令和5年度国際漁業資源の現況．水産研究・教育機構, 1-10.  
[https://www.kokushi.fra.go.jp/R05/R05\\_61\\_CHU.pdf](https://www.kokushi.fra.go.jp/R05/R05_61_CHU.pdf)
- 2) 帰山雅秀（2019）サケ属魚類の持続可能な資源管理にむけた生態学的研究．日水誌、**85**(3)、266-275.
- 3) 水産庁漁政部〔検討会事務局〕（2021）不漁問題に関する検討会とりまとめ, 37pp,  
[https://www.jfa.maff.go.jp/j/study/attach/pdf/furyou\\_kenntokai-19.pdf](https://www.jfa.maff.go.jp/j/study/attach/pdf/furyou_kenntokai-19.pdf)
- 4) 高橋 悟（2013）サケの採卵時期の違いによる親魚の回帰時期と回帰年齢．SALMON情報, **7**, 16-18.
- 5) 真木長影・寺島裕晃・中村啓美（1997）：サケ（シロサケ）．現代おさかな事典（伊勢直人編），NTS, 東京, 341-345.

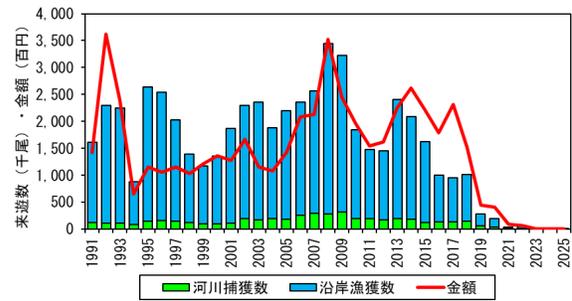


図2 宮城県におけるサケの来遊数(沿岸漁獲数と河川捕獲数の合計値)と金額の推移

# マイワシ (*Sardinops melanostictus*)



## 生態

- ①寿命：7歳程度。近年は資源増加にともない成長の鈍化がみられる。
- ②成熟：1歳で成熟が始まり、2歳でほとんどの個体が成熟する。資源高水準期には成長速度が低下して成熟が遅れる。
- ③産卵期：11月～翌年6月で、産卵盛期は2月～4月。産卵場は四国沖から関東近海の黒潮内側域でみられるが、本県沿岸でも4月～7月頃に産卵することがある。
- ④分布：北西太平洋の日本沿岸から沖合まで広く分布する。
- ⑤生態：仔稚魚期は小型の動物プランクトンを捕食し、成長に伴い大きなプランクトンを捕食するようになる。成魚は鰓耙が発達し、動物プランクトンだけではなく珪藻類も濾過摂食する。

## 主な漁業と漁期

主にまき網、定置網で漁獲。主漁期は北上回遊を対象とした5月～7月と南下回遊群を対象とした10月～12月であるが、近年はマイワシの南下回遊の遅れや親潮の弱勢の影響でマイワシ未成魚が本県沿岸域で越冬するようになり、12月～7月が主漁期となっている。本県沿岸域では水温が7℃を下回ると常磐以南海域へ南下して漁獲されなくなる。

## 資源動向と水準

マイワシ太平洋系群の資源量は、1970年代に増加し、1980年代は1000万トン以上の高い水準で推移したが、1990年代に入って減少した。2010年以降に良好な加入が続いたことと漁獲割合が減少したことから、資源量は増加し、2023年の資源量は426.4万トンと推定されている。

2025年の水揚量は52,693トン、金額は24億円であった。定置網CPUEは2014年を除いて水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は24.1t/隻で過去最高となった。

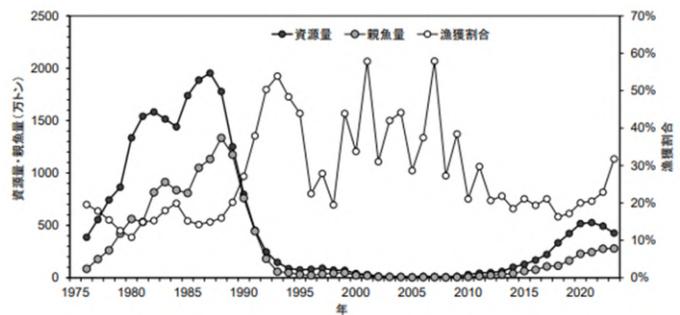
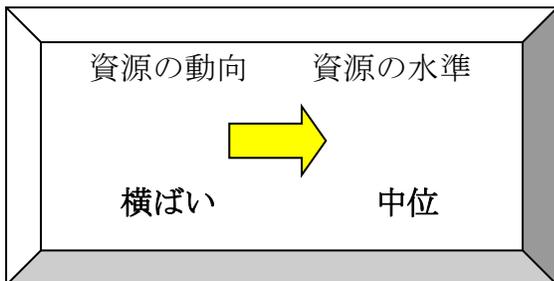


図1 マイワシ太平洋系群の資源量、親魚量および漁獲割合の推移(古市ら 2025 参照)

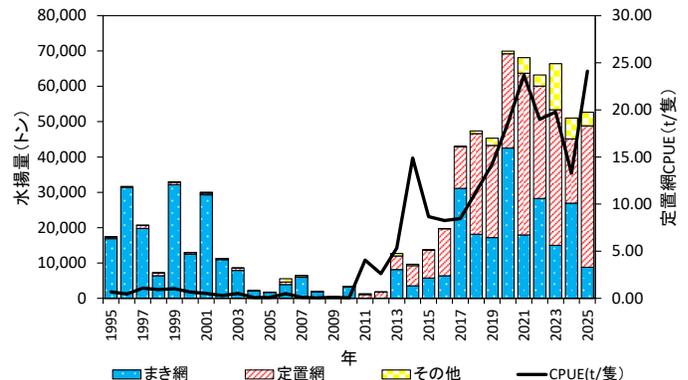


図2 宮城県におけるマイワシの水揚量の推移

## トピックス

近年のサンマの不漁（資源量の減少、漁場の沖合化等）により、本県所属の小型サンマ船が経営不振となっている。そのため2020年12月から小型サンマ船に対し、資源量が豊富なマイワシの特別採捕許可が出され、2024年度は4,010トンの水揚げがあった。

## 参考文献

- 1) 古市 生・由上龍嗣・東口胤成・上村泰洋・西嶋翔太・渡部亮介・井須小羊子（2025）令和 6（2024）年度マイワシ太平洋系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価、水産庁・水産研究・教育機構、東京, 68pp,  
[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details\\_2023\\_01.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_01.pdf).
- 2) 増田義男（2014）宮城県における定置網によるマイワシの漁獲動向及び生物特性。宮城水産研報, **13**, 1-5.
- 3) 増田義男・古市生（2023）宮城県沿岸域におけるマイワシの来遊と越冬。黒潮の資源海洋研究, **24**, 71-76.

マサバ (*Scomber japonicus*)

## 生態

- ①寿命：7、8歳程度で最高11歳の記録がある。
- ②成熟：1歳で成熟が始まり、2歳でほとんどの個体が成熟する。資源高水準期には成長速度が低下して成熟が遅れる。近年は資源増加に伴う種内・種間密度の餌料競合により年齢別平均体重の低下が見られているが、2022年以降はやや回復傾向にある。
- ③産卵期：1月～6月で、主産卵場の伊豆諸島海域の産卵盛期は3月～4月。本県沿岸でも5月～7月頃に産卵することがある。
- ④分布：北西太平洋の日本沿岸から千島列島沖合まで広く分布する。
- ⑤生態：仔魚期はカイアシ類の卵とノープリウス、稚魚期は小型動物プランクトン（小型カイアシ類、夜光虫、尾虫類、サルパ等）幼魚と成魚は海域により異なるが、甲殻類（オキアミ類、カイアシ類）、魚類（カタクチイワシ、ハダカイワシ類）、サルパ中心。三陸沖ではツノナシオキアミ、カタクチイワシが主要な餌生物。成魚は主に春季に伊豆諸島海域で産卵し、夏～秋は三陸沖～北海道沖へ索餌回遊する。

## 主な漁業と漁期

主にまき網、定置網、底びき網で漁獲。主漁期は北上回遊を対象とした5月～6月と南下回遊群を対象とした11月～2月。本県沿岸定置網には北上期は7.2~13.6℃、南下期は8.6~10.8℃の水温帯で来遊する。近年マサバ資源増加に伴う南下回遊の遅れや親潮の弱勢等の影響でマサバ未成魚及び成魚が本県沖合の海底で越冬するようになり、底びき網による漁獲が増えている。

## 資源動向と水準

マサバ太平洋系群の資源量は、1970年代には300万トン以上の高い水準にあったが、1980年代は200万トン以下に、1990年代に100万トン以下にさらに減少し、2001年に15.3万トンにまで落ち込んだ。2004年漁期の高い加入量によって資源量は70万トンを超え、その後も比較的高い加入量と漁獲圧の低下によって、2000年代初めの最低水準を脱して増加した。2013年級群の極めて高い加入（卓越年級群の発生）によって、資源量は増加し、2013年漁期は251万トンに急増した。2023年漁期は122万トンと推定されている。

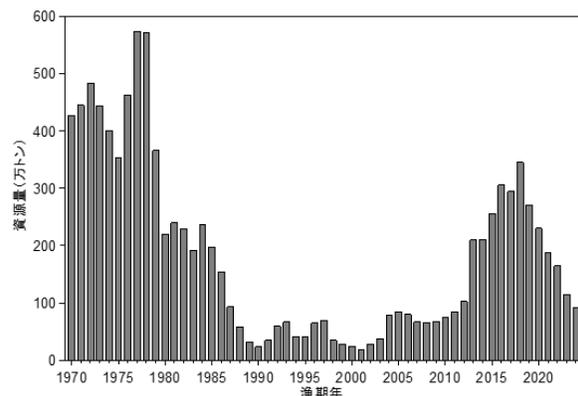


図1 1970年以降のマサバ太平洋系群資源量の推移(由上ら2025参照)

本県のさば類の水揚量も 2013 年から 2016 年までは増加傾向で推移していたが、2017 年以降は減少傾向となり、2025 年の水揚量は 13,802 トン、水揚金額は 28 億円であった。定置網 CPUE は水揚量の増減と同様の推移となり、2025 年は 644 kg/隻で震災の影響のあった 2011 年と 2012 年を除いて過去最低であった。

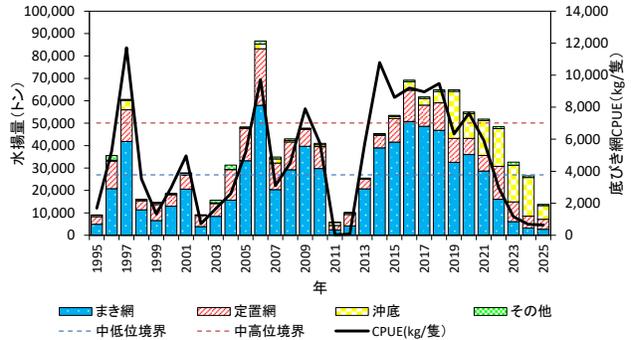
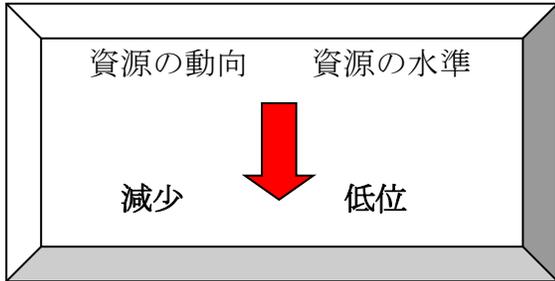


図 2 宮城県におけるさば類（マサバとゴマサバの合計値）の水揚量の推移

※上下 2 本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



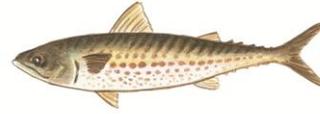
### トピックス

近年本県の水揚量は伸び悩んでいる。これは近年マサバ資源の増加に伴う回遊経路の沖合化によって南下回遊時期が遅れている、マサバの成長が遅れている、サバが漁場の海底に潜るようになってまき網で巻くことができない、まき網船による漁獲管理がきちんと行われている、震災後陸上の冷蔵・冷凍加工施設の処理能力が低下したことなど、様々な要因が考えられる。

### 参考文献

- 1) 由上龍嗣・西嶋翔太・上村泰洋・井須小羊子・古市 生・渡部亮介・東口胤成・齋藤 類・石川和雄 (2025) 令和6 (2024) 年度マサバ太平洋系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価, 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 96 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_05.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_05.pdf).
- 2) Kamimura, Y., M. Taga, R. Yukami, C. Watanabe and S. Furuichi (2021) Intra- and inter specific density dependence of body condition, growth, and habitat temperature in chub mackerel (*Scomber japonicus*). ICES J. Mar. Sci., 78, 3254-3264.
- 3) 増田義男・片山知史 (2015) 宮城県におけるマサバ, ゴマサバの漁獲動向と生物特性. 宮城県水産研究報告, 14, 27-39.
- 4) 増田義男・雁部総明・岡村悠梨子 (2021) 宮城県沖で底びき網によって混獲されるマサバについて. 東北底魚研究, 41, 31-39.
- 5) 多賀真 (2020) マサバ太平洋系群の資源増加に伴う北部太平洋大中型まき網のさば類漁況・漁場の変化. 茨城水試研報, 47, 1-15.

## ゴマサバ (*Scomber australasicus*)



### 生態

- ①寿命：6歳程度で最高11歳の記録がある。
- ②成熟：2歳以上、尾叉長30cm以上で成熟・産卵する。
- ③産卵期：足摺岬以西では12月～翌年6月で、伊豆諸島海域の産卵盛期は3月～4月。
- ④分布：マサバに比べて暖水性、沖合性が強く、成魚の主分布域は黒潮周辺域。資源量の増大と東北～北海道海域の表面水温の上昇に伴い、2001年以降では越冬後の1、2歳魚が夏秋期に三陸北部や道東海域まで索餌回遊して漁場形成するようになった。
- ⑤生態：仔稚魚期では主に小型の浮遊性甲殻類やいわし類の仔魚（シラス）などを捕食する。幼魚期以降ではこれらの他に小型魚類やいか類も捕食する。

### 主な漁業と漁期

主にまき網、定置網、底びき網で漁獲されるが、本県では底びき網と定置網での漁獲が多い。主漁期は夏秋期。

### 資源動向と水準

ゴマサバ太平洋系群の資源量は、1995～2003年にかけて25.4万～37.8万トンの範囲で安定して推移したが、2004年、2009年漁期の高い加入量により、2009、2010年漁期は70万トンを超える極めて高い水準に達した。2011年～2020年以降は減少傾向であったが、その後徐々に増加して2023年漁期は19.1万トンとなっている。

本県のゴマサバの水揚量は、マサバの混獲程度となっているため、水揚量の推移はマサバを参考にされたい。

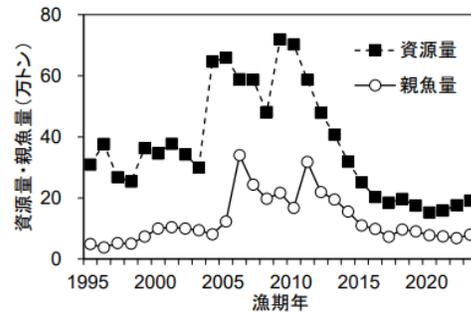


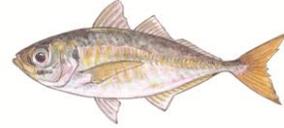
図1 1995年以降のゴマサバ太平洋系群資源量の推移(上村ら2025参照)



### 参考文献

- 1) 上村泰洋・由上龍嗣・西嶋翔太・古市 生・井須小羊子・渡部亮介・東口胤成 (2025) 令和6 (2024) 年度ゴマサバ太平洋系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価, 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 77 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_07.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_07.pdf).

# マアジ (*Trachurus japonicus*)



## 生態

- ① 寿命：近年の研究から 10 歳以上になることがわかってきた。北の海域ほど成長が遅く、高齢魚が多い。宮城県の漁獲物では 17 歳という報告がある。
- ② 成熟：1 歳（尾叉長 18 cm）で 50%、2 歳（尾叉長 24 cm）で 100% 成熟する。
- ③ 産卵期：豊後水道、紀伊水道外域では冬～初夏、相模湾では春～初夏。宮城県沿岸では夏季（7 月～9 月）に産卵が見られる。
- ④ 分布：マアジ太平洋系群は、太平洋沿岸域に分布し、東シナ海を主産卵場とする群と本州中部以南の地先で産卵する群がいると考えられている。本州中部以東では発生群の異なる群れが混在する。
- ⑤ 生態：仔稚魚は大型の動物プランクトンを摂食し、幼魚以降では魚食性が強くなる。

## 主な漁業と漁期

主にまき網、定置網で漁獲されるが、本県では定置網の漁獲が多く、主漁期は夏秋期。

## 資源動向と水準

本県のマアジの水揚量は、震災前は低位～高位水準で年変動があった。震災後は 2013 年にピークとなったが、2014 年から 2021 年にかけて減少した。2022 年以降再び増加し、2025 年の水揚量は 954 トン、水揚金額は 4 億円であった。資源動向は増加、資源水準は高位と判断される。定置網 CPUE は水揚量の増減と同様の推移となり、2025 年は 306 kg/隻であった。

## 参考文献

- 1) 井本順一・安田十也・渡井幹雄・日野晴彦・木下順二・木皿祐雅・河野悌昌・高橋正知 (2025) 令和 6 (2024) 年度マアジ太平洋系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価, 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 55 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_03.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_03.pdf).
- 2) Katayama S., H. Yamada, K. Onodera and Y. Masuda (2019) Age and growth from Oita and Miyagi Prefectures of Japanese jack mackerel *Trachurus japonicus*. Fisheries Science, 85, 475–481.

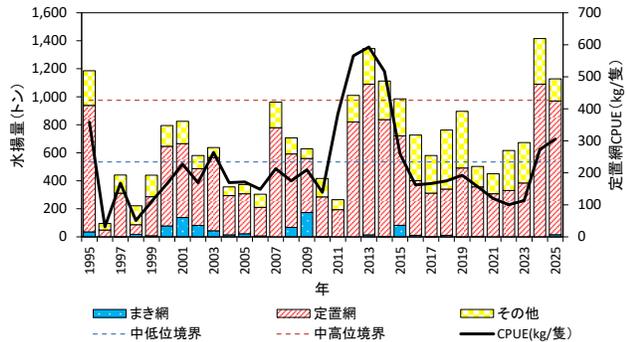
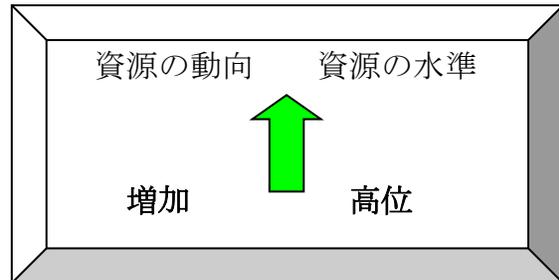


図 1 宮城県におけるマアジの水揚量の推移。※上下 2 本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



## スケトウダラ (*Gadus chalcogrammus*)



### 生態

- ①寿命：明らかとなっていないが、道東海域の漁獲物には稀に 20 歳を超える個体が含まれている。ベーリング海での最高齢は 28 歳と推定されている。
- ②成熟：スケトウダラ太平洋系群では、おおむね 3 歳で成熟を開始し、4 歳で大部分の個体が成熟する。
- ③産卵期：主産卵場である噴火湾周辺海域における産卵期は 12 月～翌年 3 月で、産卵盛期は 1、2 月である。金華山周辺海域にも産卵場が存在すると考えられているが、本県に分布する資源の大部分は噴火湾周辺海域で発生した個体である。
- ④分布：スケトウダラ太平洋系群は、常磐から北方四島にかけての太平洋岸に分布している。
- ⑤生態：餌生物は、主にオキアミ類を始めとする浮遊性甲殻類であるが、小型魚類、イカ類、底生甲殻類および環形動物なども摂餌している。

### 主な漁業と漁期

沖合底曳網のほか、刺網や定置網などの沿岸漁業でも漁獲されている。本県では沖底による漁獲が主体であり、主漁期は 2 月～5 月である。

### 資源動向と水準

スケトウダラ太平洋系群の資源量（0 歳以上の総重量）は、1981～2011 年漁期には 91.0 万～142.7 万トンの範囲で安定して推移していたが、2012 年漁期以降は減少傾向にある（図 1）。本県の水揚量は、2000 年～2015 年までおよそ 4 千トン～6 千トンで推移していたが、2016 年以降およそ 2 千トン前後の漁獲にとどまり、2022 年には再び急増し、およそ 6 千トンの水揚げがあった。この要因としては、2022 年に強勢であった親潮の影響が考えられる。2023 年以降は親潮が弱勢で、2024 年の水揚量は 92 トンと過去最低を記録した。2025 年の水揚量は 698 トン、金額は 4,425 万円であった。沖底 CPUE は水揚量の動向と同様の推移となり、2025 年は 374 kg/隻であった。

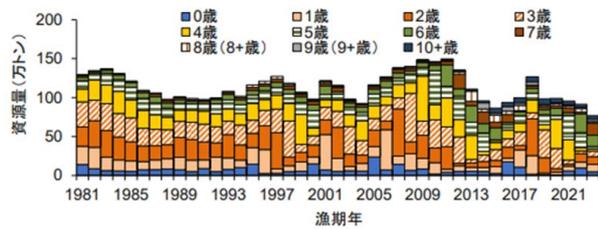


図 1 スケトウダラ太平洋系群の年齢別資源重量の推移。（境ら 2024 参照）

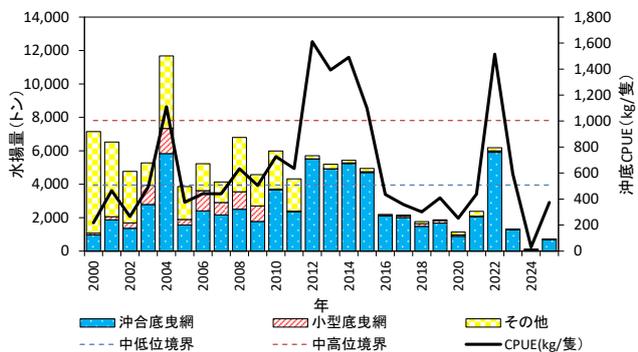
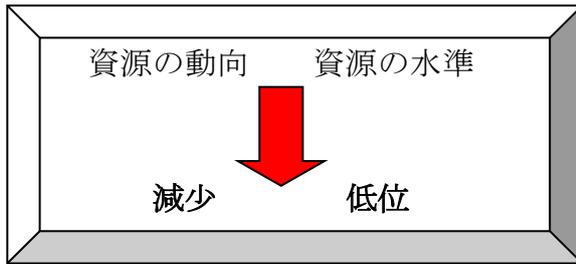


図 2 宮城県におけるスケトウダラの水揚量の推移。

※上下 2 本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



参考文献

- 1) 境磨・千村昌之・千葉悟・濱邊昂平・佐藤隆太・桑原凧沙・伊藤正木・濱津友紀・鈴木勇人（2025）令和6（2024）年度スケトウダラ太平洋系群の資源評価．我が国周辺水域の漁業資源評価、水産庁・水産研究・教育機構，東京，87pp，  
[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_12.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_12.pdf)
- 2) 児玉純一・永島宏・小林徳光（1988）金華山周辺海域に生息するスケトウダラ資源について．第9回東北海区底魚研究チーム会議会議報告，24－31．
- 3) 小林時正（1985）スケトウダラ東北海区群と北海道近海群の関係．漁業資源研究会議 北日本底魚部会報，22，39－54．
- 4) 稲田伊史・村上眞裕美（1993）東北海区のスケットウダラとマダラの資源変動と底層水温．北海道立水産試験場研究報告，42，1－13．

マダラ (*Gadus macrocephalus*)

## 生態

- ①寿命：成長は非常に早く、最高齢 8 年で体長 90 cm、体重 10 kg に達する。
- ②成熟：1990 年代後半以降の東北北部における 50% 成熟体長は雄で 46.2 cm、雌で 48.3 cm である。震災後には晩熟化の傾向が見られ、1996～2020 年の平均成熟率は 3 歳で 28%、4 歳で 77% となっている。
- ③産卵期：冬季になると産卵親魚は水深 100 m 以浅に移動し、砂泥帯に沈性卵を産む。産卵場は宮城県仙台湾や青森県八戸沖のほか、三陸沿岸各地に小規模なものがあると考えられている。
- ④分布：マダラは北部太平洋沿岸に広くみられ、我が国周辺では日本海から東シナ海北部、北日本太平洋およびオホーツク海に分布する。仔稚魚や産卵回遊期以外の分布水深は 40～550 m で季節的な浅深移動を行う。
- ⑤生態：餌生物は浮遊生活期にはカイアシ類幼生、魚卵、および十脚目幼生、若魚期にはオキアミ類、成魚期には魚類・頭足類・大型甲殻類である。

## 主な漁業と漁期

沖合底びき網で最も漁獲される。主漁期は産卵のために沿岸へ来遊する 1 月～5 月。

## 資源動向と水準

マダラ太平洋北部系群の資源量は 1996～2011 年漁期には 2.3 万～6.1 万トンで推移していたが、震災以降増加し、2013 年には 7.9 万トンとなった。2014 年以降は減少し、2016～2018 年漁期には 2 万トン前後になり、2023 年漁期は 2.3 万トンとなった。資源水準は低位、動向は横ばいと判断される。

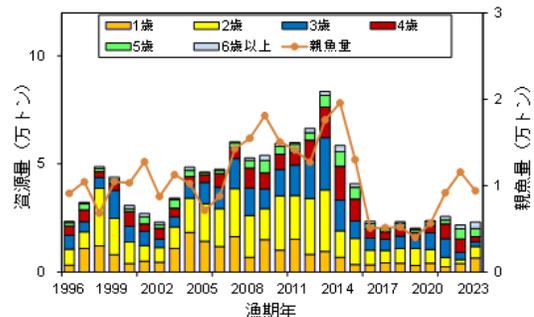
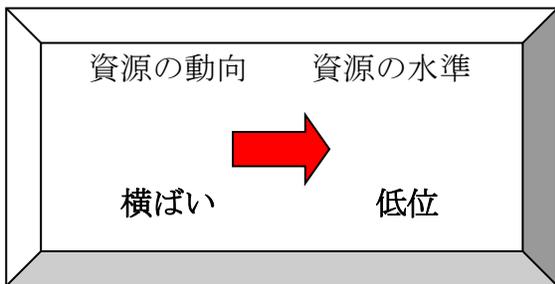


図 1 マダラ太平洋北部系群の資源量と親魚量 (藤原ら 2025 参照)

宮城県におけるマダラの水揚量は、1998年にピークの2.5万トンの水揚げがあり、その後減少して2000年に0.6千トンとなった。2003年以降再び増加して2005年にピークの2.6万トンとなったが、2010年にかけて減少傾向となった。2011年は東日本大震災の影響で水揚げが減少した。2013年以降マダラ太平洋北部系群資源の増加にともなって、2014年まで増加したが、2015年以降は減

少傾向となり、2016年以降は1万トン以下の低位で推移している。2025年の水揚量は1995年以降過去最低の854トン、水揚金額は2億円となった。沖底CPUEは水揚量の増減と同様の推移となり、2025年は77 kg/隻で過去最低であった。

トピックス

宮城県では毎年6月に仙台湾の6定点において、着底トロール網によるマダラ新規加入量調査を行っている。年変動が大きい、2019年～2021年のマダラ新規加入量が非常に少なくなった。また、海洋熱波状況下による異常な高水温となった2023年と2024年は0歳魚の採捕はなかった。マダラ資源の減少や海水温上昇などによる産卵親魚の来遊量の低下、稚仔の餌となる動物プランクトンの減少などによる加入後の生残率の低下など複数の要因が影響しているものと考えられる。

参考文献

- 1) 藤原邦浩・鈴木勇人・森川英祐・時岡駿・三澤遼・富樫博幸・永尾次郎・櫻井慎大 (2025) 令和6 (2024) 年度マダラ本州太平洋北部系群の資源評価.東京, 52 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_34.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_34.pdf).
- 2) 服部 努・北川大二・成松庸二・佐伯光広・片山知史・藤原邦浩・小谷健二・本田学志 (2002) 2001年の底魚類現存量調査結果. 東北底魚研, **22**, 82-98.
- 3) Narimatsu Y., S. Kakehi, S. Ito, Y. Okazaki, R. Inagawa and T. Yano (2015a) Impact of the Great East Japan Earthquake tsunami on growth and survival of Pacific cod, *Gadus macrocephalus*. Can. J. Fish. Aquat. Sci., **72**, 1629-1638.
- 4) Narimatsu Y., T. Sohtome, M. Yamada, Y. Shigenobu, Y. Kurita, T. Hattori and R. Inagawa (2015b) Why do the radionuclide concentrations of Pacific cod depend on the body size? In: Impact of the Fukushima nuclear accident on fish and fishing grounds, ed. K. Nakata and H. Sugisaki, Springer Japan, Tokyo, pp. 123-138.
- 5) 児玉純一・永島宏・和泉祐司 (1990) 金華山海域に生息するマダラについて. 東北海区底魚研究チーム会議報告, 東北区水産研究所, **11**, 43-46.
- 6) 増田義男・渡邊一仁 (2013) 宮城県における東日本大震災後の漁業実態の変化について～底魚類を中心に～. 東北底魚研究, **33**, 94-100.

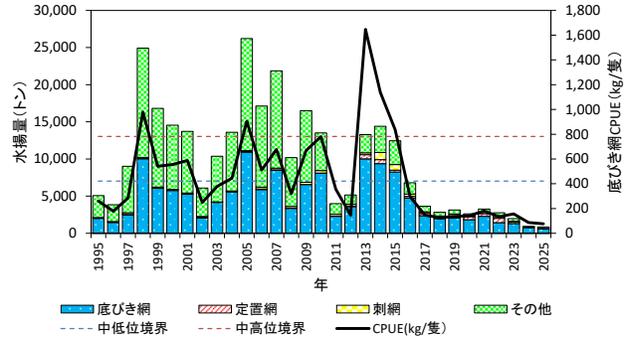


図2 宮城県におけるマダラの水揚量の推移  
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

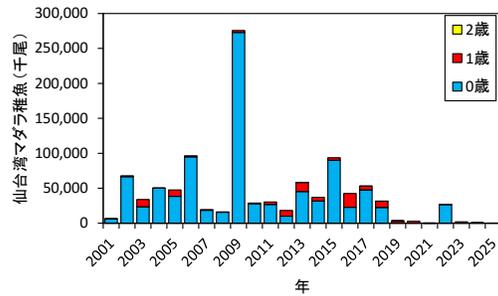


図3 仙台湾のマダラ新規加入量の推移

サメガレイ (*Clidoderma asperrimum*)

## 生態

- ①分布：日本各地の水深 150～1,000 m の砂泥底に生息し北日本で分布密度が高い。成長に伴い 1,000m 以深の深場に移動し、産卵期には 500～1,000 m の産卵場に集群すると考えられている。
- ②年齢・成長：雌雄で成長差がみられ、3 歳以上では雄よりも雌の成長が早い。最高齢は雌で 22 歳、雄で 15 歳、全長 45 cm を超える個体の大部分は雌で占められている。
- ③成熟・産卵：成熟サイズは雄で全長 25 cm 以上(2 歳で一部が、3 歳以上でほとんどが成熟)、雌で全長 40 cm 以上(3 歳で一部が、4 歳でほとんどが成熟)、産卵盛期は 1～2 月。
- ④食性：主にクモヒトデを摂餌している。

## 主な漁業と漁期

ほとんどが沖合底びき網（沖底）で漁獲され、主な漁期は沖底が 300 m 以深で操業する 3～5 月の春季。東日本大震災以前は常磐・房総沖でサメガレイを漁獲していたが、震災以降は本県沖合海域での操業が中心となっている。

## 資源動向と水準

水揚量は、1999 年～2010 年までは 148 トン～322 トンの中高位水準で推移していたが、2011 年～2024 年までは 51 トン～165 トンの低中位で推移した（図 1）。2025 年は急激に増加し、水揚量は 717 トン、水揚金額は 1.3 億円となった（図 1）。沖底 CPUE も水揚量の増減と同様の推移となり、2025 年は 427 kg/隻で過去最高の高水準であった（図 1）。2025 年の急激な水揚量の増加は、現時点で原因が不明であるため、本県の水揚量の推移に基づく資源動向と水準の判断は行うべきではないと考えた。そこで、本種太平洋北部系群の資源評価で使用されている金華山海区以南の沖底 CPUE の標準化により得られた資源量指

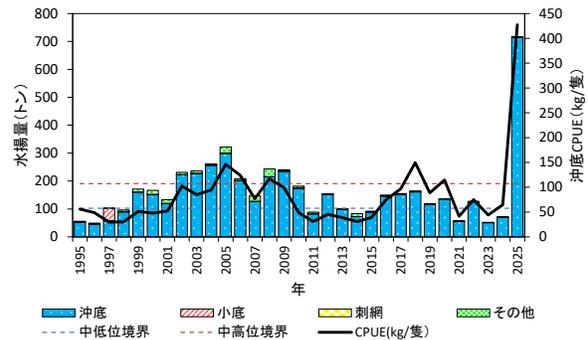


図 1 宮城県におけるサメガレイの水揚量の推移  
※上下 2 本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

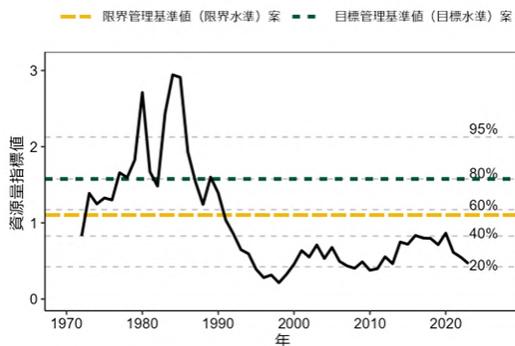
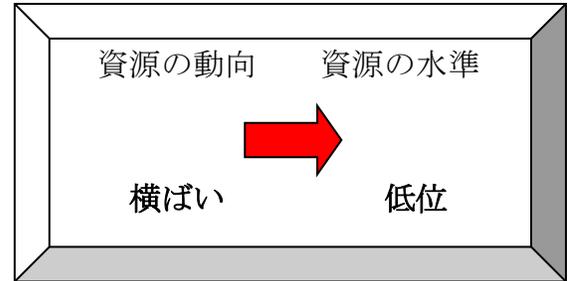


図 2 金華山海区以南の沖底 CPUE の標準化によって得られた資源量指標値（鈴木ら 2025 参照）

標値によって、資源動向と水準の判断を行ったところ、資源動向は横ばい、水準は低位と判断された（図 2）。2025 年の水揚量の急激な増加が、若齢魚の大規模な加入であり、本種太平洋北部系群の資源の増加に繋がるのかについて、今後注視していく必要がある。



### 参考文献

- 1) 服部努・上田祐司・成松庸二・伊藤正木(2008)東北海域におけるサメガレイ分布域の長期変化. 水産海洋研究, 72, 14-21
- 2) 稲川亮・服部努・渡邊一仁・成松庸二・伊藤正木(2012)東北地方太平洋沖におけるサメガレイの成長様式及び漁獲物の年齢構成. 日水誌, 78, 1118-1126.
- 3) 三河正男(1953)東北海区における底魚類の消化系と食性に就いて. 第2報サメガレイ・ババガレイ. 東北水研研報, 2, 26-36.
- 4) 佐伯光広(2001)三陸・常磐沖合で漁獲されたサメガレイの生態と資源管理について. 宮城水産研報, 1, 93-102.
- 5) 坂本一男(1984)サメガレイ. 東北区水産研究所海洋資源年報, 第4底魚資源編, 26-32.
- 6) 鈴木勇人・藤原邦浩・富樫博幸・森川英祐・時岡駿・三澤遼・永尾次郎・櫻井慎大 (2025) 令和6 (2024) 年度サメガレイ太平洋北部系群の資源評価.東京, 25 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_64.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_64.pdf)
- 7) 鈴木勇人・藤原邦浩・富樫博幸・森川英祐・時岡駿・三澤遼・永尾次郎・櫻井慎大 (2025) 令和7 (2025) 年度サメガレイ太平洋北部系群の資源評価 (簡易版).東京, 3 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/09/simple\\_2025\\_64.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/09/simple_2025_64.pdf)

# ババガレイ (*Microstomus achne*)



## 生態

- ①分布:北海道全沿岸、青森県～対馬の日本海沿岸、青森県～千葉県外房の太平洋沿岸、神奈川県三崎、愛知県。生息水深 50～450m で、200～350m で漁獲が多い。
- ②年齢・成長:東北太平洋沿岸部では、雌雄ともに 2 歳で体長 16cm、3 歳で 20cm、4 歳で 23cm に達する。また最高齢は雄で 18 歳、雌で 23 歳まで確認されている。
- ③性熟・産卵:東北太平洋岸の産卵期は 3～4 月で、雌は体長 30cm で 20～80%が成熟する。
- ④食性:多毛類、腔腸動物、甲殻類。

## 主な漁業と漁期

ほとんどが沖合底曳網で漁獲される。漁獲量は 2～6 月に多い傾向にある。

## 資源動向と水準

他の異体類と類似し、震災後に漁獲量が増加しており、2014 年は 2000 年以降最大となる 439 トンを記録した。以降、漁獲は減少したものの、近年の漁獲量は安定しており、2025 年の水揚量は 157 トン、金額は約 1 億円であった。沖底 CPUE は沖底の水揚量の動向と同様の推移となり、2025 年は 34 kg/隻で過去最高の水準であった。平均漁獲量を指標に資源水準は中位、資源動向は横ばいと判断された。

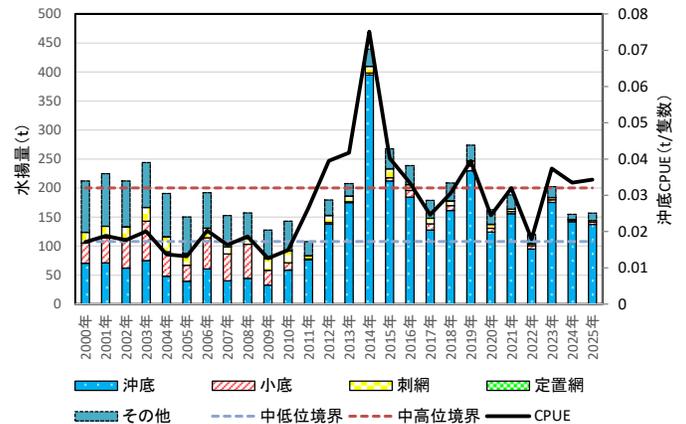
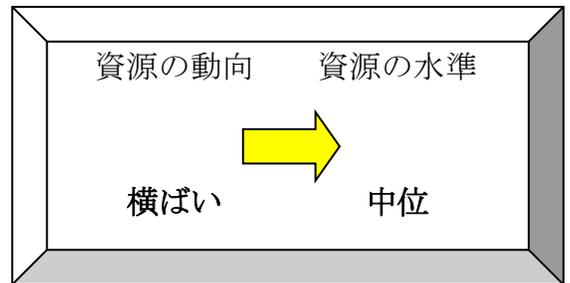


図 1 宮城県におけるババガレイの漁法別水揚量の推移



## 参考文献

- 1) 中坊徹次、土居内龍(2013) カレイ科. pp.1675-1683. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会.
- 2) 石戸芳男(1993) 東北海区におけるババガレイ卵の分布. 東北水研研究報告, 55, 37-51.
- 3) 早乙女忠広(2011) 福島沿岸におけるババガレイの漁場形成と底質の関係. 東北底魚研究, 31, 24-30.
- 4) 谷瀬香保、後藤友明(2020) 東北太平洋沖ババガレイにおける年齢査定手法の確立. 東北底魚研究, 40, 12-15.

# キチジ (*Sebastolobus macrochir*)



## 生態

- ①寿命：成長は十分に解明されていないが、20歳程度には達すると考えられている。
- ②成熟：50%成熟体長は、雌が15cm、雄が9cm。
- ③産卵期：1～4月。
- ④分布：駿河湾以北の太平洋岸沖、北海道・千島列島の太平洋岸沖、オホーツク海及びベーリング海に広く分布する。
- ⑤生態：エビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類、魚類を補食する。

## 主な漁業と漁期

本県では主に沖合底びき網で漁獲される。主漁期は3～6月と9月。

## 資源動向と水準

本県のキチジの水揚量は、100～400トン台で推移し、2000年台は300トンを超えていたが、2013年以降は100トン台で推移していた（図1）。2022年は沖合でのキチジ狙いとなったことから351トンにまで増加した。2023年と2024年は減少して96トン～104トンで推移したが、2025年は再び増加し、水揚量は277トン、水揚金額は3.9億円となった（図1）。沖底CPUEは近年高い傾向にあり、2025年は439kg/隻であった。近年沖合底びき網は、近海でのスルメイカやサバを漁獲しているためにキチジに対する漁獲圧は低下しており、資源量と水揚量の推移は一致しない。また、取り残し資源量が多く、資源水準は高位にある（図2）

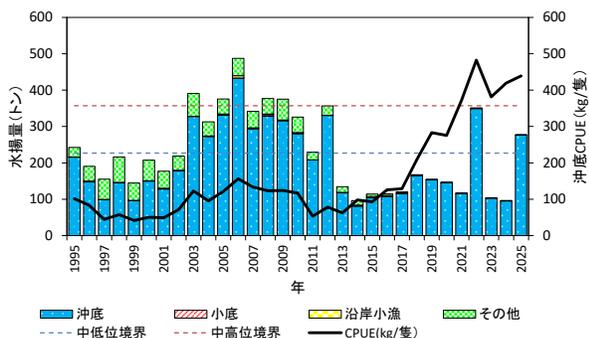


図1 宮城県におけるキチジの水揚量の推移※  
上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

1) 時岡 駿・藤原邦浩・富樫博幸・鈴木勇人・森川英祐・三澤 遼・永尾次郎・櫻井慎大 (2025) 令和6(2024)年度キチジ太平洋北部系群の資源評価. 東京, 41 pp. [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_40.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_40.pdf).

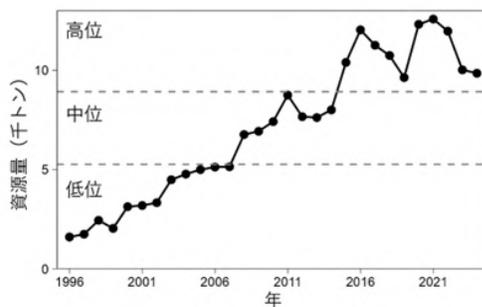
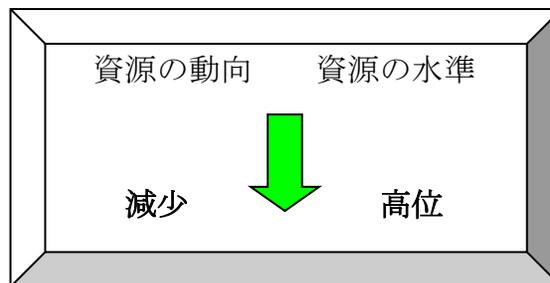


図2 キチジ太平洋北部系群の資源量の推移の推移 (時岡ら 2025 参照)



# キアンコウ (*Lophius litulon*)



## 生態

- ①寿命：雌は 23.6 歳、雄は 19.9 歳。
- ②成熟：仙台湾における最小成熟体長は雌が 59.2 cm、雄が 33.9 cm。雌のほうが大型になる。
- ③産卵期：仙台湾周辺では 5～7 月。
- ④分布：北海道以南の沿岸各地、中国や朝鮮半島の沿岸、黄海・東シナ海に分布する。関東地方以北の太平洋岸では、青森県～千葉県沿岸に分布し、水深 30～400 m の大陸棚～陸棚斜面に分布する。
- ⑤生態：魚類やイカ類を捕食する。

## 主な漁業と漁期

本県では沖合底びき網と小型底びき網による漁獲が多い。主漁期は沖底の休漁期を除いた 9 月～翌年 6 月でほぼ周年漁獲される。

## 資源動向と水準

水揚量は、1996 年～2004 年までは 300 トン前後の中位～高位水準で推移し、2007 年～2013 年までは 200 トン以下の低位水準で推移した (図 1)。2014 年以降増加し、2025 年は過去最高の 570 トン、水揚金額は 2 億円であった。沖底 CPUE は水揚量の増減と同様の推移となり、2025 年は 140 kg/隻で過去最高であった。

## 参考文献

- 1) 三澤遼・時岡駿・藤原邦浩・富樫博幸・鈴木 勇人・森川英祐・永尾次郎・櫻井慎大 (2025) 令和6 (2024) 年度キアンコウ太平洋北部系群の資源評価。東京, 27 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_36.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_36.pdf).
- 2) 小坂昌也 (1966) キアンコウの食生活。東海大学海洋学部紀要, 1, 51-71.
- 3) 竹谷裕平・高津哲也・山中智之・柴田泰宙・中屋光裕 (2017) 青森県周辺海域におけるキアンコウの背鰭第一棘による年齢査定法の検証。日水誌, 83, 9-17.

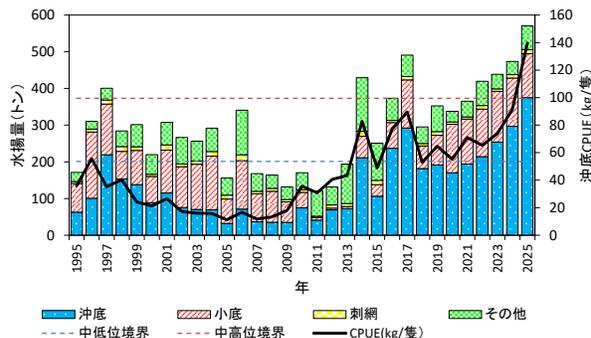
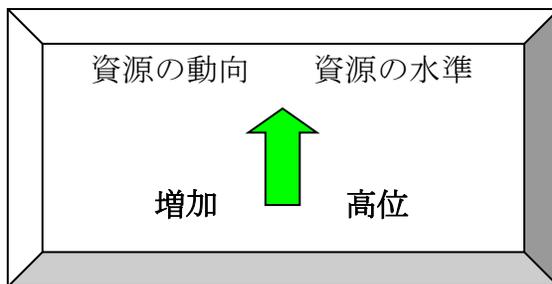
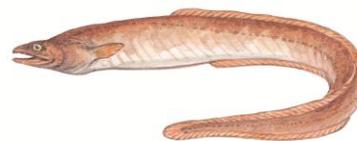


図 1 宮城県におけるキアンコウの水揚量の推移  
 ※上下 2 本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



## イラコアナゴ (*Synphobranchus kaupii*)



### 生態

- ①成長：雄のほうが成長は早いものの雌がより大型化し、最大肛門前長は雄で 20 cm、雌で 24 cm。
- ②成熟・産卵：雄は 4 歳、雌は 5 歳から成熟するが、東北地方太平洋岸では産卵間近の個体は観察されていない。
- ③分布：東北海域では水深 500～700 m に多く分布する。
- ④生態：ハダカイワシ類やイトヒキダラを捕食する。

### 主な漁業と漁期

本県ではほぼ沖合底びき網によって漁獲される。漁期は沖底の休漁期（7 月～8 月）を除いて周年漁獲される。マアナゴの廉価品として利用される。全国的なマアナゴの漁獲量の減少により、本種への需要が高まっており、近年単価が上昇傾向にある。

### 資源動向と水準

イラコアナゴの水揚量は、1990 年代後半から 2003 年までは 1 千トン未満で推移していたが、2004 年から急増し、2007 年にピークの 4,037 トンとなった。その後減少傾向となっている。2025 年は 714 トン、金額は 2 億円であった。資源の水準・動向は低位水準で横ばい傾向と判断される。

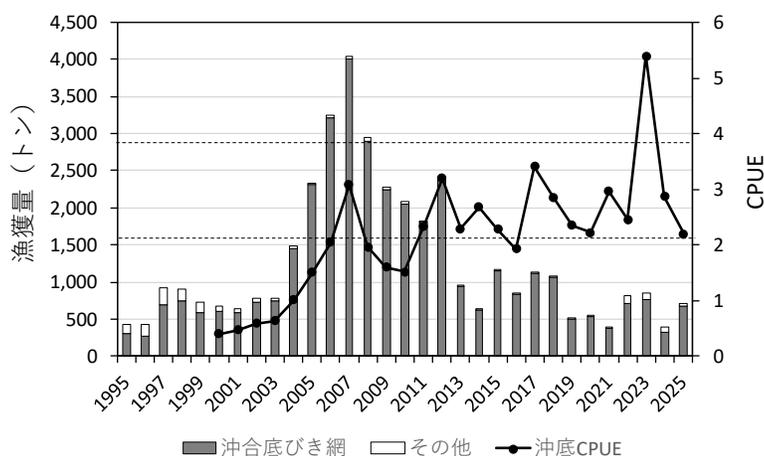
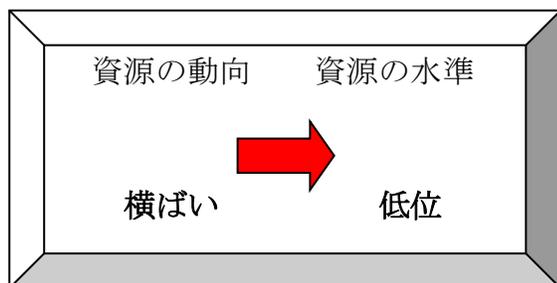


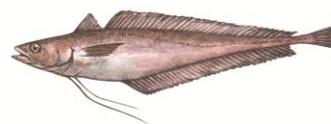
図1 宮城県におけるイラコアナゴの水揚量の推移  
※高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした。



### 参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター・青森県産業技術センター水産総合研究所・岩手県水産技術センター・宮城県水産技術総合センター・福島県水産資源研究所・福島県水産海洋研究センター（2021）イラコアナゴ,令和2（2020）年度資源評価調査報告書. 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 6 pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2020/report/202005.pdf>
- 2) 渡邊一仁（2014）宮城県で漁獲されるアナゴ類について. 宮城水産研報告 14, 35－40.

# イトヒキダラ (*Laemonema longipes*)



## 生態

- ①寿命：雄で18歳、雌で24歳。
- ②成熟・産卵：2～4月を中心に関東・東北地方南部の太平洋沿岸から東方の外洋域（黒潮～黒潮続流域）で産卵する。
- ③分布：駿河湾から東北地方太平洋沖・北海道太平洋沿岸を経て、オホーツク海およびベーリング海西部までの陸棚斜面域（水深約300～1,500m）に分布する。宮城県～茨城県沖は稚魚の成育場として、重要な役割を果たしていることが示唆されている。
- ④生態：オキアミ類やカイアシ類などの甲殻類、ヤムシ類、ハダカイワシ科魚類を主に捕食する。

## 主な漁業と漁期

本県ではほぼ沖合底びき網によって漁獲される。漁期は沖底の休漁期（7月～8月）を除いて周年漁獲される。すり身の原料として利用される。

## 資源動向と水準

イトヒキダラの水揚量は、震災前の2010年までは6千トン～2万トン台で推移していたが、震災後は2011年以降1.2千トン以下で推移している（図1）。2025年の水揚量は631トン、水揚金額は0.2億円であった。資源の水準・動向は資源評価結果から中位・横ばい（図2）。沖底CPUEは水揚量の増減と同様の推移となり、2025年は3,374kg/隻であった。

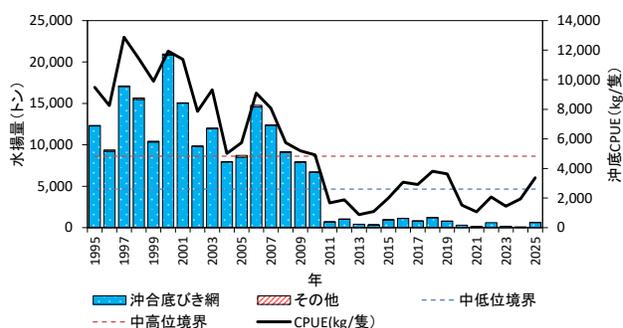


図1 宮城県におけるイトヒキダラの水揚量の推移。※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

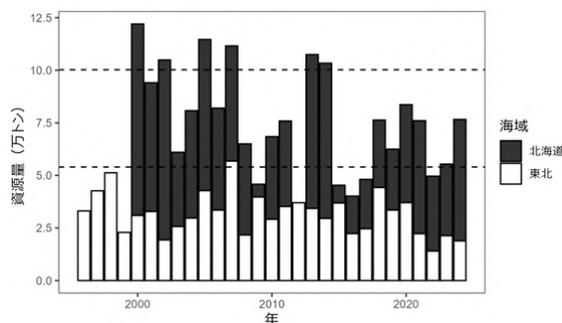
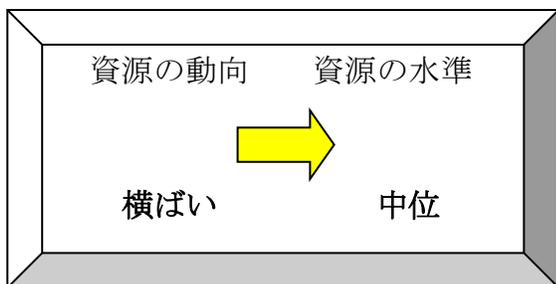
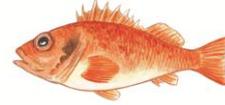


図2 イトヒキダラ太平洋系群の1月時点の資源量の推移と資源水準。破線は高・中位と中・低位水準の境界を示す。（鈴木ら 2025）

## 参考文献

- 1) 鈴木勇人・藤原邦浩・富樫博幸・三澤 遼・森川英祐・時岡 駿・永尾次郎・櫻井慎大（2025）令和6（2024）年度イトヒキダラ太平洋系群の資源評価.東京, 28 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_29.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_29.pdf).

ユメカサゴ (*Helicolenus hilgendorfi*)

## 生態

- ①寿命：明らかにされていないが、益子ら（2016）により 10 歳魚が確認されている。
- ②成熟：体長は 1 歳で 10.6 cm、2 歳で 14.9 cm、3 歳で 18.8 cm、4 歳で 22.0 cm ほどになるとされている。宮城県海域では、全長 25 cm を超えるような大型個体でも生殖腺はほとんど発達していないため、本県で再生産が行われている可能性は低い。
- ③産卵期：仔稚魚の採集例や卵巣卵の発育状況から、1～3 月頃とされている。
- ④分布：青森県～薩摩半島の太平洋沿岸、伊豆諸島、秋田県、山形県、富山県、若狭湾～九州北西岸の日本海沿岸、東シナ海大陸縁辺域に分布する。
- ⑤生態：ハダカイワシ類などの魚類、ホタルイカ類などの頭足類およびアミ、オキアミ類、コシオリエビ類やサクラエビ類などの甲殻類の捕食が確認されている。

## 主な漁業と漁期

主に底曳網で漁獲され、2009 年以降は沖合底曳網の割合が 70%以上になっている。宮城県における主漁期は 9 月～11 月頃である。

## 資源動向と水準

本県の水揚量は 2009 年～2010 年にかけて一時的な増加傾向を示したが、その後は減少傾向で推移した。2017 年～2021 年にかけて増加傾向で推移したが、2022 年以降減少傾向であったものの、2025 年の水揚量は 58 トン、金額は 0.2 億円であった。沖底 CPUE は沖底の水揚量の動向と同様の推移となり、2025 年は 23 kg/隻で過去最高の水準であった。

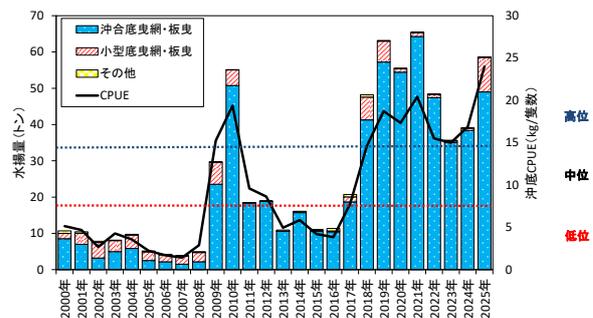
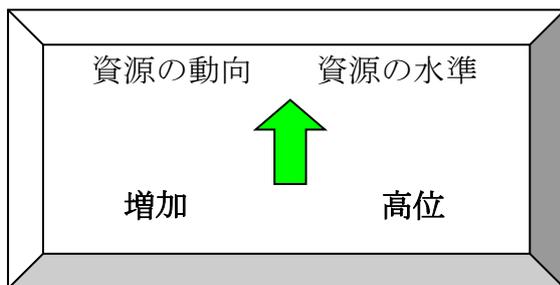


図 1 宮城県におけるユメカサゴの水揚量の推移

## 参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター・青森県産業技術センター水産総合研究所・岩手県水産技術センター・宮城県水産技術総合センター・福島県水産海洋研究センター・茨城県水産試験場 (2022) ユメカサゴ太平洋北部 (青森～茨城). 令和3 (2021) 年度資源評価調査報告書. 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 1-2pp, <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/report/2021140.pdf>.
- 2) 益子剛・百成渉・片山知史 (2016) 茨城県沖で漁獲されるユメカサゴについて (II)、東北底魚研究, **36**, 11-16.
- 3) 三浦瑠菜 (2023) 宮城県海域で漁獲されるユメカサゴの生物特性. 東北底魚研究, **43**, 96-100.

## ヤリイカ (*Heterololigo bleekeri*)



### 生態

- ① 寿命：1年。雄は雌に比べて大きくなり、雄の外套長は300 mm以上に達するのに対し、雌の最大外套長は220 mm程度である。また、雌をめぐる他の雄と戦って繁殖する大型のコソト雄とペアに割り込み繁殖する小型のスニーカー雄という異なる繁殖戦術をとる2種類の雄がいる。近年の研究によって、各雄がどちらの繁殖戦術をとるかは、生まれた日によって決まることが明らかとなった。
- ② 成熟：12月以降成熟個体が見られるようになる。
- ③ 産卵期：1月から8月の長期に及び、主産卵時期は2月から5月。本県沿岸でも産卵する。
- ④ 分布：ヤリイカ太平洋系群は、岩手県以南の本州太平洋岸沖、四国および九州沿岸に分布する。太平洋北部のヤリイカは、宮城県～千葉県までの南北方向へ移動回遊していることが示唆されている。
- ⑤ 生態：外套長50 mmまではカイアシ類、60～150 mmまではカイアシ類に加えてオキアミ類及びアミ類、170 mm前後からは魚類を捕食する。

### 主な漁業と漁期

本県では沖合底びき網主体に、小型底びき網、定置網等によって漁獲される。主漁期は10月～3月。

### 資源動向と水準

ヤリイカ太平洋系群の漁獲量は2012～2014年に急増し、4,000トンを超えた。2015年と2016年はやや減少したが、2017年以降は再び3,000トンを超え、2023年の漁獲量は3,868トンとなった。北部海域における標準化CPUEは2011年まで横ばいで推移した後、2011年から2013年にかけて増加した。その後標準化CPUEは全年平均値と同程度まで低下したものの、2017年以降は再び上昇した(図1)。2023年の標準化CPUEは平均比2.22倍と高い値を示したことから、資源水準は高位、動向は横ばいと判断される。

宮城県におけるヤリイカの水揚量は、年変動があるが、2017年以降は1,500トンを超える高水準で推移し、2019年以降日本一となっている(図2)。2025年の水揚量は前年より減少して1,037トン、水揚金額は10億円となった。沖底CPUEは水揚量の増減と同様の推移とな

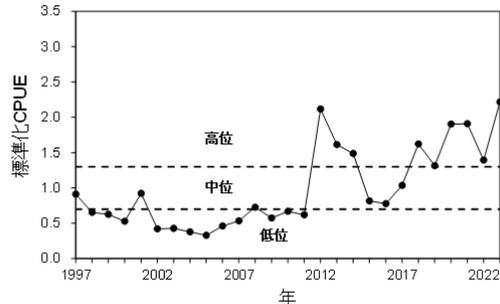
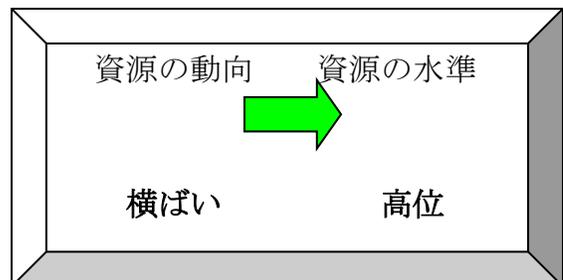


図1 ヤリイカ太平洋系群の北部海域における標準化CPUEと水準区分  
 ※標準化CPUEは平均値が1となるよう規格化した値。破線は資源水準の境界を示す。(時岡ら2025参照)



り、2025年は579 kg/隻の高水準となった。

トピックス

本県のヤリイカ盛漁期（11月～翌年1月）における漁獲量は、9月の仙台湾（38°23'N、141°33'E）の底水温及び10月の底びき網漁船のヤリイカ CPUE（kg/隻）を使って予測が可能となっている（図3）。

参考文献

- 1) 時岡駿・藤原邦浩・富樫博幸・鈴木勇人・森川英祐・三澤遼・永尾次郎・櫻井慎大（2025）令和6（2024）年度ヤリイカ太平洋系群の資源評価。東京，25 pp，  
[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_80.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_80.pdf).
- 2) 増田義男・小野寺恵一・片山知史（2017）宮城県沿岸域で漁獲されたヤリイカの日齢と成長。水産海洋研究，81，36-42.
- 3) 服部 努・柴田泰宙・成松庸二・伊藤正木（2015）宮城県から千葉県沖におけるヤリイカの移動回遊経路の推定。東北底魚研究，35，170-175.
- 4) 増田義男（2015a）宮城県沿岸で漁獲されたヤリイカの孵化時期の推定。東北底魚研究，35，138-145.
- 5) 増田義男（2015b）宮城県におけるヤリイカの漁獲動向。東北底魚研究，35，146-154.
- 6) 高橋清孝（2022）海水温上昇による仙台湾と三陸沿岸の魚種交替。JAFIC Technical Review No.1，12pp.
- 7) Hosono S., Y. Masuda, S. Tokioka, T. Kawamura and Y. Iwata (2024) Birthdate determines alternative reproductive tactics of males in a coastal squid. Proc R Soc B, 291, 20240156.

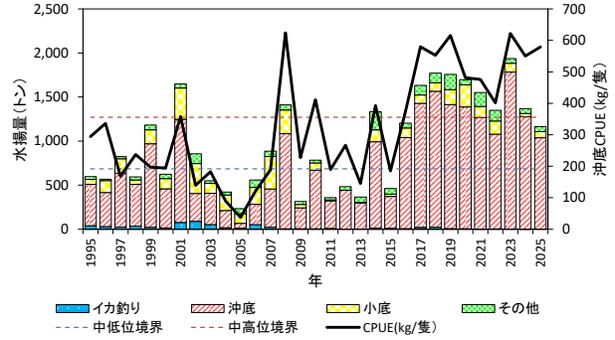


図2 宮城県におけるヤリイカの水揚量の推移。※ 上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

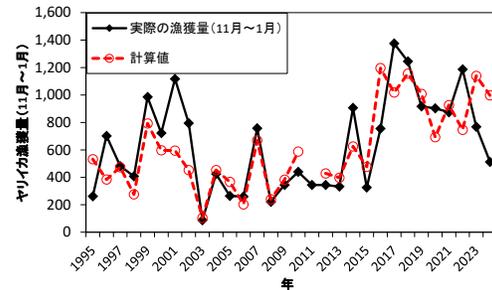


図3 1995年～2023年漁期におけるヤリイカ盛漁期の漁獲量（黒実線）と重回帰分析から得られた計算値（赤色点線）の関係。

# スルメイカ (*Todarodes pacificus*)



## 生態

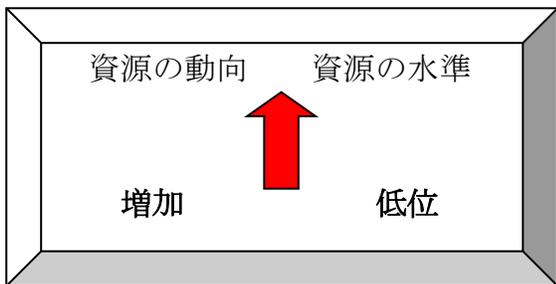
- ①寿命：1年。
- ②成熟：雄はふ化後6～7ヶ月以降、雌はふ化後7～8ヶ月以降。
- ③産卵期：主産卵時期は12月から翌年3月。本県沿岸では夏～秋季にリンコトウチオン幼生が見られることがあり、ごく一部であるが同時期に産卵していると考えられる。
- ④分布：スルメイカは日本周辺に広く生息しており、そのうちスルメイカ冬季発生系群は主に冬季に東シナ海で発生し、太平洋を北上、冬季に日本海を南下するが、一部は太平洋側を南下し、秋～冬に本県沿岸で漁獲される。
- ⑤生態：沿岸では小型魚類、沖合では甲殻類を捕食する。

## 主な漁業と漁期

主にイカ釣りによって漁獲されるが、本県では1980年代半ば以降沖合底びき網主体に漁獲される。主漁期は初夏（6月）と秋～冬季（9月～1月）であるが、近年は夏漁が不漁となり、9月以降の南下回遊期が主体となっている。

## 資源動向と水準

スルメイカ冬季発生系群の資源量は、1981年～1988年は40.0万トン以下で推移していたが、1989年以降増加して1996年には103.8万トンに達した。その後は大きく変動する年があるものの、概ね50万～100万トンで推移していたが、2015年以降大きく減少に転じ、2025年は32.5万トンと推定された。資源水準は低位、動向は増加と判断される。



宮城県におけるスルメイカの水揚量は、1990年台にピークの4.3万トンの水揚げがあった。近年はスルメイカ資源の減少により1千トン台の低水準で推移していたが、2020年はやや回復して3.0千トンとな

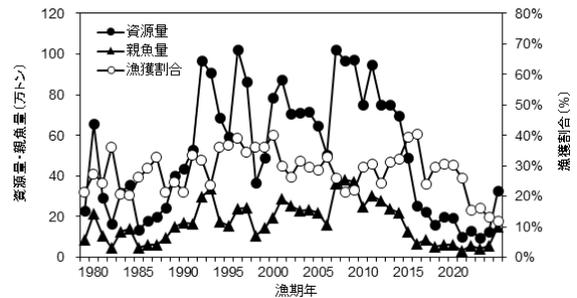


図1 スルメイカ冬季発生系群の資源量と親魚量と漁獲割合

※2025年漁期の値は予測資源量と現状の漁獲圧に基づく値（岡本ら2024参照）

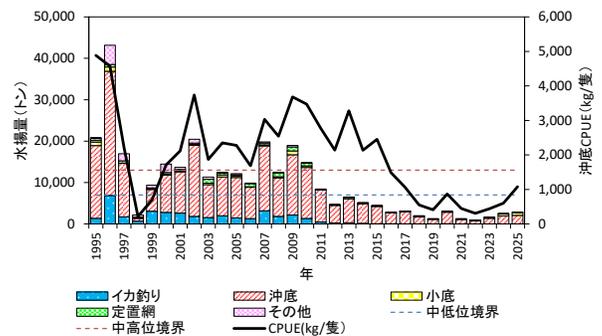


図2 宮城県におけるスルメイカの水揚量の推移※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

った。しかし、2021年は再び減少し、2022年はついに1千トンを超えて940トンで過去最低となった。その後徐々に増加し、2025年の水揚量はTACによる漁獲制限が行われる中、2,789トンとなり、水揚金額は、魚価高による影響もあって、15億円となった。沖底CPUEは水揚量の増減とほぼ同様の推移となっており、2023年以降徐々に増加し、2025年は1,080 kg/隻となった。

### トピックス

スルメイカの資源量は、海洋環境の変化によって変動することが知られている。1990年以降の海洋環境は再生産に好適な環境が継続してきたが、2015年以降産卵場の水温環境が不適（高水温化）となり、さらに漁獲圧が高めであったことから、親魚量が大きく減少した。2019年以降産卵場の環境は近年では比較的良好であったが、その後も親魚量が低下した状況が継続している。

宮城県での漁場形成（好不漁）条件は下記の表のとおりであり、冷水の影響があると好漁となる。近年本県の沿岸水温は上昇傾向にあることから、本県沿岸にスルメイカ漁場は形成されにくい状況（水温が高いため、宮城県沿岸に滞留せずに早期に北上してしまい、南下も遅れる）が続いていると考えられる。一方、2025年に好漁となったのは、黒潮の大蛇行の終息による稚スルメの来遊増加に加え、気温の上昇によって夏秋季の表面水温は20℃を越えたものの本県沖合の200m以深に5℃以下の冷水が入り込んだために、スルメイカが滞留しやすい状況であったためと考えられる。

好漁年	中漁年	不漁年
・7月～9月の表面水温が20℃以下。 ・100～150m深に5℃以下の冷水が入り込む。	・7月～11月の表面水温が20℃以下。 ・200m以深に5℃以下の冷水の入り込みが観察されない。	・7月以降表面水温が20℃以上。 ・水深150m以深に冷水の入り込みが観察されない。

※永島・佐藤（1987）より抜粋

### 参考文献

- 1) 岡本俊・宮原寿恵・松井萌・森山丈継・西澤文吾・島倉 陽・西嶋翔太・高崎健二・瀬藤 聡 (2025) 令和6 (2024) 年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価.東京、66 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_18.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_18.pdf).
- 2) 永島宏・佐藤孝三（1987）宮城県におけるスルメイカの漁況と海況の関係. 昭和 61 年度イカ類資源・漁海況検討会議報告, 64－74.
- 3) 雁部総明 (2019) 底びき網調査からみたスルメイカの水深別分布の変化. 東北底魚研究, **39**, 6-10.
- 4) 増田義男・時岡 駿 (2026) 宮城県沖で底びき網によって漁獲されるスルメイカについて. 令和 6 年度イカ類資源評価協議会報告, (印刷中) .
- 5) 岡本 俊・松井 萌・宮原寿恵・森山丈継・西澤文吾・倉島 陽・高崎健二・瀬藤 聡 (2025) 令和 7 (2025) 年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価 (簡易版) .東京、5 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/12/simple\\_2025\\_18.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/12/simple_2025_18.pdf)

カタクチイワシ (*Engraulis japonicus*)

## 生態

- ①寿命：4年。
- ②成熟：0歳では成熟せず、1歳で成熟する。
- ③産卵期：産卵はほぼ周年行われる。宮城県沿岸では5月～10月に産卵し、夏季（6月～8月）に多く産卵する。
- ④分布：九州から北海道に至る太平洋の沿岸域から、沖合の黒潮域、黒潮続流域、黒潮親潮移行域および親潮域に及び、東経170度付近まで分布が認められる。
- ⑤生態：動物プランクトンなどを摂餌する。

## 主な漁業と漁期

成魚はまき網、定置網等で漁獲され、仔魚はシラス船びき網によって漁獲される。本県では定置網による漁獲が多い。また、2016年6月にかたくちいわし（しらす）1そうびき機船びき網漁業が許可され、2017年以降カタクチシラスが水揚げされるようになった（漁業許可期間の7月～11月）。成魚の主漁期は5月～12月で、沖合加入群が5月～7月に北上回遊し、10月～12月に南下回遊する。沿岸加入群（仙台湾滞留群）は8月～9月に来遊する。

## 資源動向と水準

カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、レジームシフトによって資源が変動し、冷水レジームの1980年代は低位水準で、暖水レジームとなった1990年代以降増加し、2000年代に高位水準となった。2013年以降は減少傾向となっていたが、2019年以降は増加傾向にあり、2023年は26.2万トンと推定された（図1）。なお、本系群の評価には、シラスを含めずに資源量の推定を行っており、資源水準は低位、動向は横ばいと判断される。

本系群のシラス漁獲量は、0.8万～3.6万トンで推移しており、概ね2.2万トン程度で安定している（図2）。シラス漁場は本系群の産卵場や分布域全体から見ればごく一部の海域であることから、基本的にはシラス漁業が太平洋系群の資源に与える影響は限定的であると考えられる。

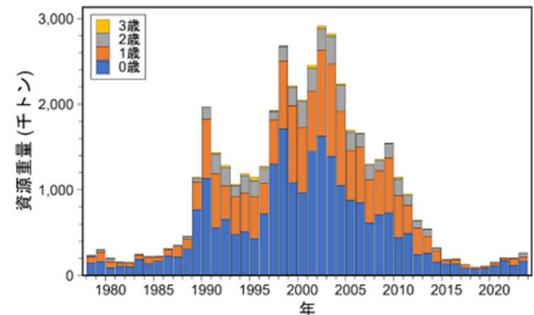


図1 カタクチイワシ太平洋系群の年齢別資源重量の推移（木下ら 2024 参照）。

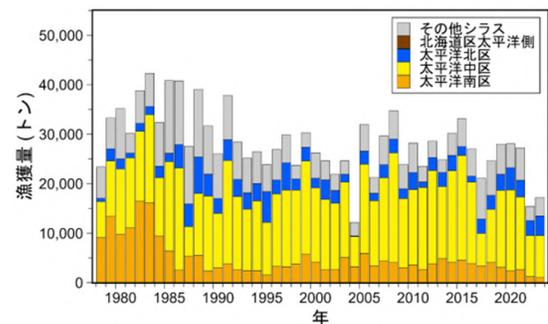
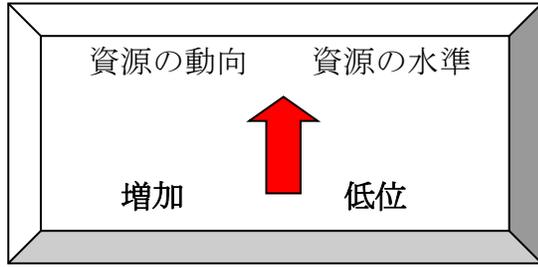


図2 カタクチシラスとその他のシラスの漁獲量の推移（木下ら 2025 参照）。



宮城県におけるカタクチイワシの水揚量は、1998年にピークの33.6千トンの水揚げがあり、その後減少して2002年に4.8千トンとなった（図3）。2003年以降再び増加して2010年まで増減を繰り返しながら4.8千トン～17.5千トンで推移した。2011年以降は7千トン以下で推移し、2018年に過去最低の273トンとなった。2019年以降は増加傾向にあり、2025年の水揚量は1,298トン、金額は2億円であった。定置網CPUEは2011年を除いて水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は2,123 kg/隻で過去2番目の低水準であった。

トピックス

宮城県では、2017年以降仙南の共同漁業権内でシラス船曳き網が行われ、これまでに43～207トンの水揚げがあった（図4）。カタクチシラス漁業は、アカガイ貝桁漁業、刺網漁業、トラフグ底はえ縄漁業等との兼業で行われており、アカガイの出荷自主規制日数が長期化した年は、延べ操業隻数が増加し水揚量が増加する傾向がある。

成魚の水揚量は2019年以降増加しているため、カタクチシラス漁業が行われても現状の漁獲圧では、仙台湾のカタクチイワシ資源に与える影響は小さいと考えられる。一方で、本県の定置網によるカタクチイワシ成魚の水揚量と産卵量は正の相関関係があることから（図5）、今後カタクチイワシ成魚の資源量が増加すれば、本県沿岸での産卵量も増加し、カタクチシラス漁は量的に安定的な漁業となる可能性がある。

参考文献

- 1) 木下順二・安田十也・渡井幹雄・井元順一・日野晴彦・木皿祐雅・上村泰洋・西嶋翔太・河野悌昌・高橋正知（2025）令和6（2024）年度カタクチイワシ太平洋系群の資源評価.東京, 103pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_24.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_24.pdf).
- 2) 長岡生真（2024）仙台湾におけるカタクチシラスの漁獲動向. 黒潮の資源海洋研究, 25, 97-100.

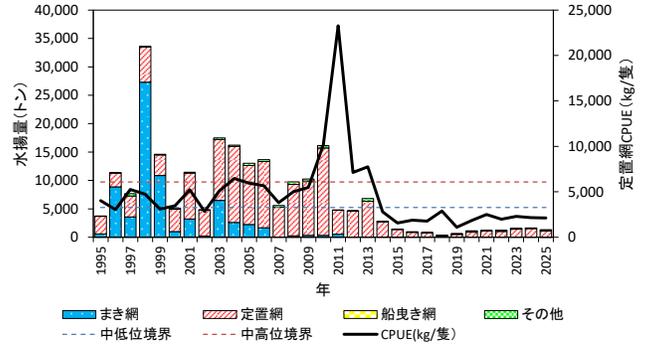


図3 宮城県におけるカタクチイワシの水揚量の推移

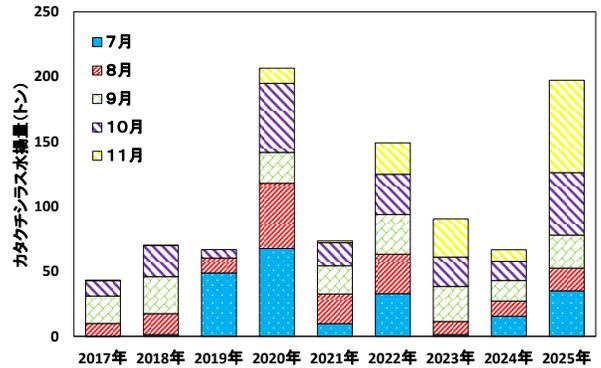


図4 宮城県におけるカタクチシラス水揚量の推移

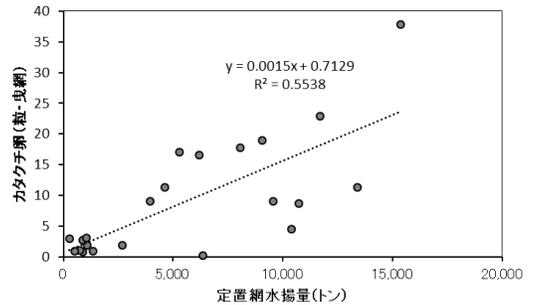
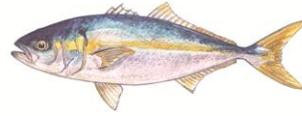


図5 宮城県の定置網によるカタクチイワシ成魚の水揚量と産卵量の関係

## ブリ (*Seriola quinqueradiata*)



### 生態

- ①寿命：7歳程度。
- ②成熟：満2歳前後から生殖腺が急に発達する。日本海から東シナ海へ大規模な産卵回遊を行うのは3~4歳以上と考えられている。
- ③産卵期：1月から始まり、太平洋側では5月頃まで、日本海側では7月頃まで。
- ④分布：北西太平洋の日本沿岸から沖合まで広く分布する。
- ⑤生態：稚魚はカイアシ類を中心とした動物プランクトンを捕食し、成長すると、カタクチイワシやアジ等の浮魚類のほか、底魚類も捕食する。

### 主な漁業と漁期

本県ではまき網、定置網での漁獲が中心であったが、2021年以降はほぼ定置網の水揚げでとなっている。主漁期は7月~12月である。

### 資源動向と水準

ブリの資源量は、2005年まで14.1万~17.3万トンの範囲で横ばいに推移した。2006年以降、増加傾向となり、2017年は最高値の36.6万トンであった。2018年以降は32.9~36.4万トンの範囲で横ばいに推移した。

本県の水揚量は、2017年に6,472トンと最高値となり、2025年の水揚げは1,577トンであった。近年は、非常に水揚げが多かった2010年代後半に比べ、低位で推移している。2025年の水揚金額は4.6億円であった。

### 参考文献

- 1) 倉島陽, 西澤文吾, 古川誠志郎, 宮原寿恵, 松井萌, 森山丈継, 盛田祐加, 岡本俊, 佐々千由紀, 和川拓, 八木達紀, 市野川桃子 (2024) 令和6(2024)年度ブリの資源評価. 我が国周辺水域の漁業資源評価, 水産庁・水産研究・教育機構, 東京,

[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_45.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_45.pdf)

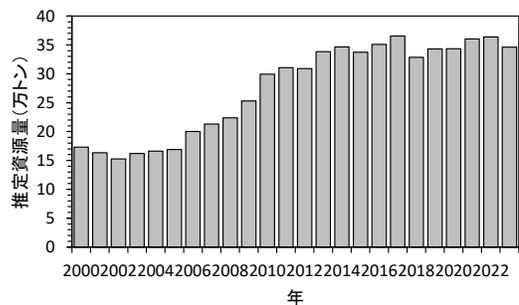


図1 ブリ資源量の推移 (倉島ら 2024 参照)

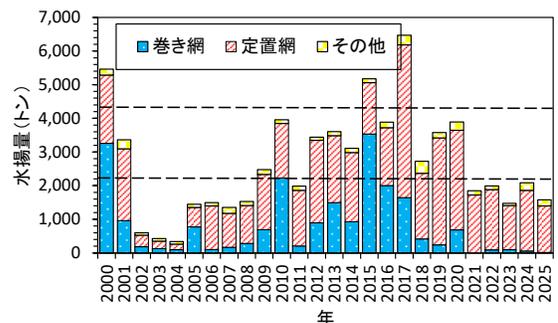
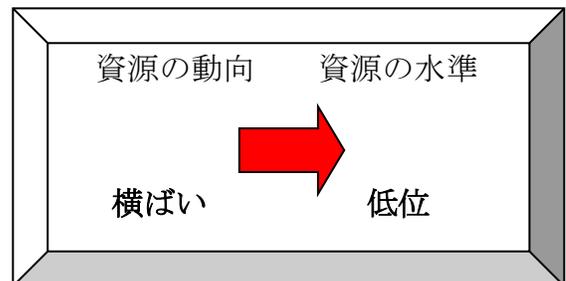


図2 宮城県におけるブリの水揚量の推移



イカナゴ (*Ammodytes japonicus*)

## 生態

- ① 寿命：5歳以上。
- ② 成熟：1部は1歳で、大部分は2歳以上で成熟する。
- ③ 産卵期：12～1月。
- ④ 分布：沖縄を除く日本各地。
- ⑤ 生態：夏眠する。仔魚では植物プランクトンやカイアシ類ノープリウス幼生を、成長に伴い *Paracalanus* 属や *Calanus* 属等のカイアシ類のコペポデイドや成体を捕食する。

## 主な漁業と漁期

当歳魚（コウナゴ）は火光利用敷網、成魚（メロード）はすくい網で共に春季に漁獲される。

## 資源動向と水準

漁獲量は、1995年以降、数千トンから1万トン程度で推移していたが、成魚では2017年、当歳魚では2019年に急激に減少した。当歳魚の2019年以降の減少は環境中のカイアシ類の減少に伴う餌料環境の悪化が要因として考えられている。2022年は3年ぶりに35トン（当歳魚）の水揚げがあったが、2023年以降は休漁となっている。

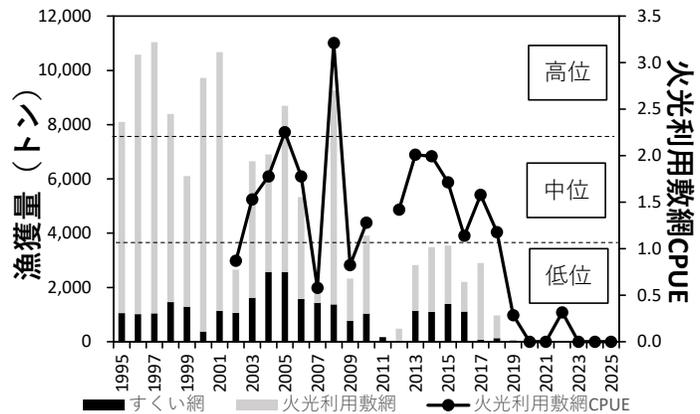
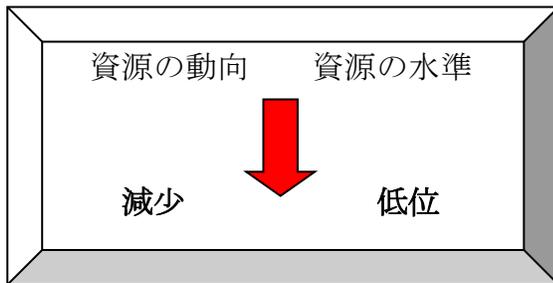


図1 宮城県におけるイカナゴの漁獲量の推移

※高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした。



## 参考文献

- 1) 橋口晴穂・西川哲也・魚住香織・古澤一思・森敦史・今尾和正・反田實 (2021) 播磨灘におけるイカナゴ当歳魚の胃内容物重量指数の経年的低下とその要因. 水産海洋研究 85, 24-32.
- 2) 佐藤智希 (2004) 女川湾に優占する仔魚期魚類の食性に関する研究. 博士論文, 東北大学, 宮城
- 3) 石川哲郎・田所和明 (2025) 仙台湾のカイアシ類群集とイカナゴ加入との関係. 日本水産学会誌 91, 389-402.

# ツノナシオキアミ (*Euphausia pacifica*)



## 生態

- ① 寿命：～2歳。
- ② 成熟：成熟個体の漁獲が少ないため、情報が少ない。
- ③ 産卵期：春期を盛期とする周年。
- ④ 分布：三陸沖から北太平洋に広く分布。
- ⑤ 生態：本種を餌とする生物は多岐に渡り、沿岸部の生態系を支える重要な餌生物である。

## 主な漁業と漁期

春季に親潮と共に南下し、日中に浮上した成体の群を船曳網により漁獲する。

## 資源動向と水準

漁獲量は親潮の接岸と密接な関連が有り、親潮が中程度の規模で南下する年には沿岸水温が好適となり漁獲量が増加する。近年は親潮が南下しないため漁獲量が低位になっていると考えられる。1994年以降、漁業者は自主調整基準を設定し資源管理に取り組んでいるが、震災後に漁獲量は減少し、近年は上限を大きく下回っている。2024年は親潮が宮城県内に波及せず、はじめて水揚げゼロとなったが、2025年春季は親潮が波及し、4,282トン、4.3億円の水揚げとなった。

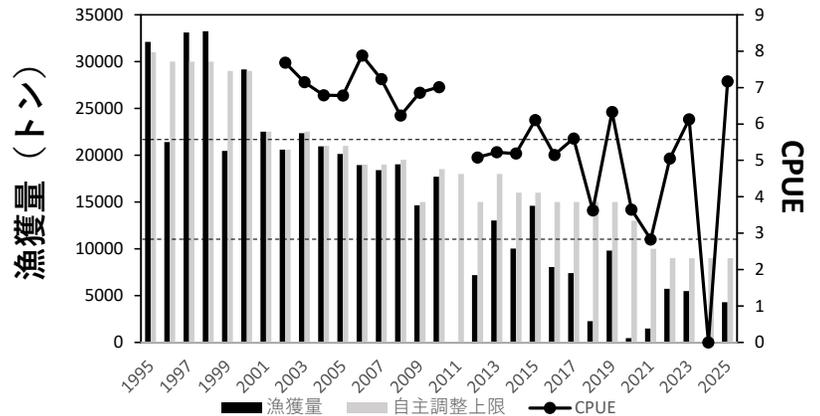


図1 宮城県におけるツノナシオキアミの漁獲量の推移。横線は高位・中位・低位の境界を示す。

※高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした。



1) Taki K (2006) Studies on fisheries and life history of *Euphausia pacifica* HANSEN off northeastern Japan. Bull. Fish. Res. Agen. No. 18, 41-165.

## サヨリ (*Hemiramphus sajori*)



### 生態

- ①寿命：2歳と考えられている。
- ②成熟：早いものでは満1歳で成熟する。最大で40cm程度になる。
- ③産卵期：春から初夏にかけ、藻場、流れ藻、浮遊物に産卵する。
- ④分布：日本各地の沿岸から台湾、朝鮮半島沿岸まで分布する。
- ⑤生態：小型甲殻類や動物プランクトンを捕食する。

### 主な漁業と漁期

全国的に、主にさより2そうびき網で漁獲される。本県ではさより2そうびき網（県知事許可漁業）のほか、刺し網での漁獲も見られる。12月～2月の冬の時期にかけて水揚げが多くなっている。

### 資源動向と水準

2000年以降の本県における水揚量は、水揚げの少なかった2004年、2017年、2018年を除き10トン程度で推移していたが、2019年以降水揚量は20トン前後まで急増、2023年の水揚げは30トンで過去最高となった。

2024年の水揚げは13トンと昨年に比べ減少したが、単年の結果であり、2023年まで水揚げは増加していたことを踏まえ、本県におけるサヨリ資源は増加傾向にあると判断した。2025年の水揚量は46トン、金額は約0.9億円であった。2そうびき網CPUEは年によってばらつきがあり、2025年は92kg/隻であった。

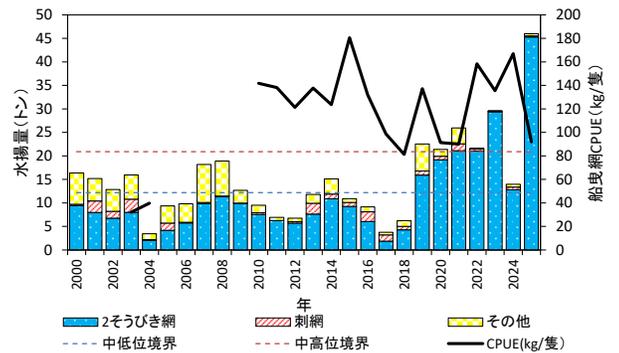
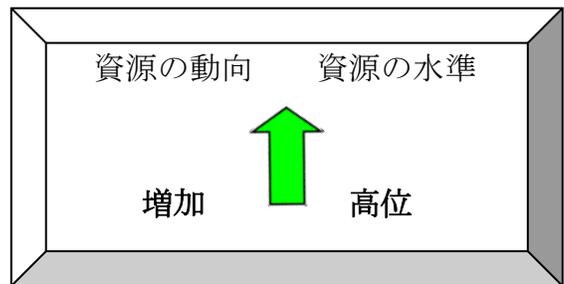


図1 宮城県におけるサヨリの水揚量の推移



### 参考文献

- 1) 茨城県水産試験場（2022）茨城県産重要魚種の生態と資源 「サヨリ」  
[https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/suishi/teichaku/documents/r3\\_sayori.pdf](https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/suishi/teichaku/documents/r3_sayori.pdf)
- 2) 辻敏宏・貞方勉（2000）我が国におけるサヨリ漁業の実態，石川県，pp.1-11

# スズキ (*Lateolabrax japonicus*)



## 生態

- ① 寿命：7歳以上。
- ② 成熟：仙台湾に生息する1歳以上のスズキは、夏に接岸し、主として礁を中心とする地帯で魚類・エビ類を主食として成長を続け、多くは4年魚の終りの12月に初めて産卵を行う。
- ③ 産卵期：水温の下降期および最低期にあり、仙台湾では12月中旬～1月上旬。
- ④ 分布：北海道南部以南の日本各地沿岸、朝鮮半島沿岸、台湾、中国沿岸の外洋域から汽水域、淡水域まで広く分布する。
- ⑤ 生態：日の出と日没時に食欲がピークとなり、視覚で小魚やエビ・イカ等、特に動く餌に興味を示す。餌料生物としては、未成魚期でアミ類、エビ類、稚魚、イカナゴ、キシエビ、成魚期でアユ、カタクチイワシ、マアジ、マイワシ、マサバ、ヒラメ、クルマエビ、サヨリ等。

## 主な漁業と漁期

底曳網、刺網、巻網、一本釣り、定置網により漁獲され、主に刺網による漁獲が多い。主漁期は5～6月と11月。

## 資源動向と水準

スズキの水揚量は、2010年に290トンを超えたが、2011年～2015年までは100トン未満の低位水準で推移した。なお、2011年は東日本大震災の影響で水揚げが減少した。また、2012年4月12日から2015年11月20日まで放射性セシウムの基準値を上回ったことから出荷制限措置が講じられたことで水揚量が少ない。2016年以降は300トン前後と高位水準で推移し、2024年は610トンで過去最高を更新した。資源水準は高位、動向は増加と判断される。2025年の水揚量は340トン、金額は2.5億円であった。小底CPUEは水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は116kg/隻で過去2番目の高水準であった。

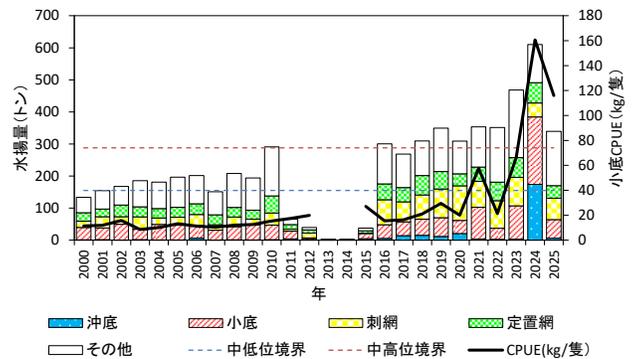
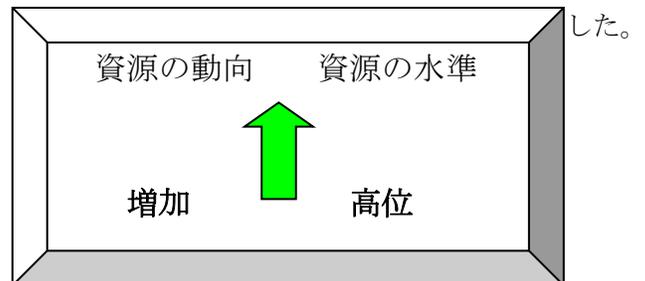


図1 宮城県におけるスズキの水揚量の推移  
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。



## 参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 35-40.
- 2) 畑中正吉・関野清成 (1962) スズキの生態学的研究-II スズキの成長, 日水誌, 28, 857-861.

# サワラ (*Scomberomorus niphonius*)



## 生態

- ①寿命：6歳程度。
- ②成熟：雌雄ともに1歳魚の一部が成熟し、2歳以上では大部分が成熟する。
- ③産卵期：3～6月。本県で産卵しているかについては不明。
- ④分布：日本周辺では東シナ海から日本海、紀伊半島以西の太平洋および瀬戸内海に分布する。  
日本海北区と宮城県定置網の漁獲量に正の相関(1995年～2018年)があることから、日本海の海況変動に伴う回遊経路の変化により、日本海から津軽海峡を通過して春季と秋季に本県沿岸水域へ来遊するサワラが増加したものと考えられる(戸嶋ら2013)。
- ⑤生態：生活史を通じて魚食性が非常に強い。

## 主な漁業と漁期

主要漁業は、過去はまぐろ延縄が多かったが、近年は定置網が多くを占める。水揚量が多い年は、春期と秋期が主漁期となる傾向にあるが、水揚量が少ない年は明確なピークが見られない時もある。

## 資源動向と水準

サワラの水揚量は、2003年以降定置網による水揚げが増加しているが、年によって増減が激しく、2023年は88トンと低水準であったが、2024年は大きく増加し266トンであった。資源水準は高位、動向は増加と判断される。2025年の水揚量は74トン、金額は1.1億円であった。定置網CPUEは2014年を除いて水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は58kg/隻であった。

## 参考文献

- 1) 平岡優子・黒田啓行・藤波裕樹・田邊智唯・(2024) 令和5(2023)年度サワラ日本海・東シナ海系群の資源評価.東京, 28pp.  
[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details\\_2023\\_58.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_58.pdf).
- 2) 濱崎清一(1993) 東シナ海・公開に分布するサワラの年齢と成長. 西水研県報, 71, 101-110.
- 3) Shoji, J., T.Kishida and M.Tanaka (1997) Piscivorous Habits of Spanish Mackerel Larvae in the Seto Inland Sea, 63, 388-392.
- 4) 戸嶋孝・太田武行・児玉晃治・木所英昭・藤原邦浩(2013) 漁獲状況および標識放流試験からみた近年の日本海におけるサワラの分布・移動. 京都府農林水産技術センター海洋センター研究報告, 35, 1-11.

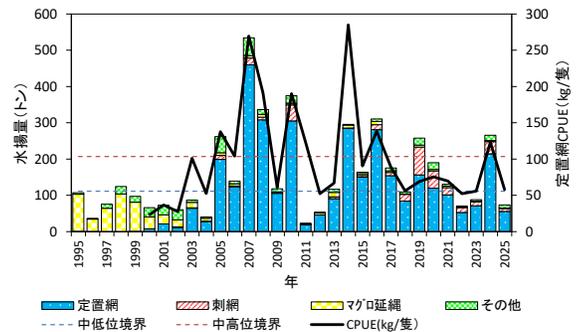
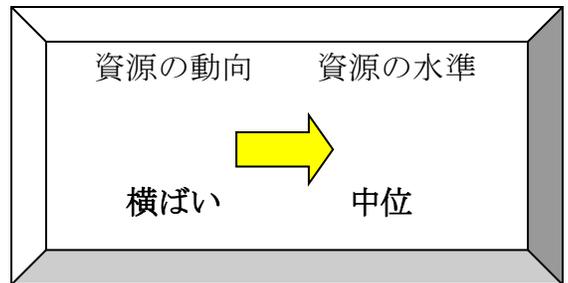


図1 宮城県におけるサワラの水揚量の推移  
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。



## アイナメ (*Hexagrammos otakii*)



### 生態

- ①寿命：常磐北部海域における市場調査をもとに得たデータでは10歳程度の個体が確認されている。
- ②成熟：オスは満1歳、メスは満2歳で一部が成熟する。多回産卵型で、産卵後オスが卵塊を保護する。仙台湾における最大到達体長は390 mmと推定されている。
- ③産卵期：産卵期は11～1月で、盛期は12月頃とされている。
- ④分布：水深200 m以浅の沿岸域に広く分布する。
- ⑤生態：甲殻類や魚卵などを主に捕食する。

### 主な漁業と漁期

宮城県では刺網や沿岸小漁のほか、様々な漁業種で漁獲される。宮城県における主漁期は4月～6月頃である。

### 資源動向と水準

本県におけるアイナメの水揚量は、2000年～2004年まではおよそ120トン以上で安定して高位水準を維持していた。しかし、2004年～2005年にかけて減少し、2011年に大幅に減少した。2012年以降増加傾向に回復したが、2018年以降再び減少傾向となった。2025年の水揚量は51トン、金額は0.7億円であった。

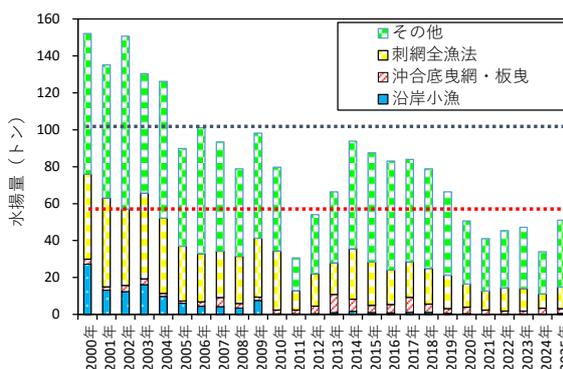


図1 宮城県におけるアイナメの水揚量の推移。点線は高位・中位・低位の境界線を示す。

### 参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター・岩手県水産技術センター・宮城県水産技術総合センター・福島県水産海洋研究センター(2021) アイナメ太平洋北部(岩手・福島).令和2(2020)年度資源評価調査報告書.水産庁・水産研究・教育機構,東京,7 pp,  
<http://abchan.fra.go.jp/digests2020/trends/202001.pdf>
- 2) 小林徳光・小林一郎・菊地喜彦・佐藤孝三(1990)仙台湾におけるアイナメの年齢と成長.宮城水試研報,13,1-9.
- 3) 泉茂彦(1999)常磐北部海域におけるアイナメの成長と成熟.福島水試研報,8,41-49.
- 4) 関河武史・高橋豊美・高津哲也(2002)北海道木古内湾におけるアイナメ *Hexagrammos otakii*の年齢と成長.水産増殖,50,395-400.





## マアナゴ (*Conger myriaster*)

### 生態

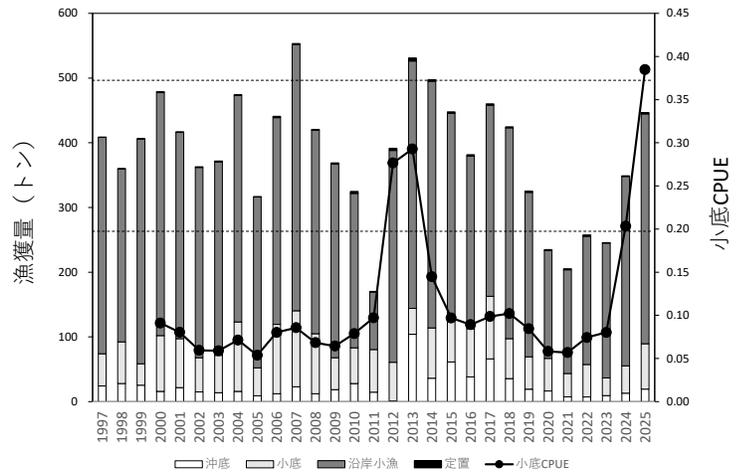
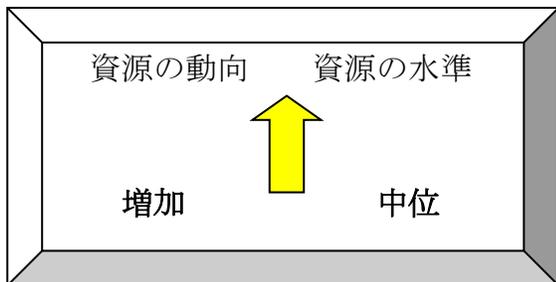
- ① 寿命：不明。仙台湾では6歳まで確認されている。
- ② 成熟：成熟個体の漁獲が少ないため、情報が少ない。
- ③ 産卵期：6～9月。
- ④ 分布：沖縄を除く日本沿岸のほぼ全域。
- ⑤ 生態：マアナゴの産卵については不明な点が多いが、産卵場の一つが沖ノ鳥島南方の九州パラオ海嶺付近で確認されている。孵化後、葉形仔魚として黒潮に輸送され宮城県海域まで来遊する。黒潮が強勢であった2023年には葉形仔魚の大量来遊が確認された。変態直後の稚魚はカイアシ類などの甲殻類稚仔、多毛類などの小型の底生生物を捕食し、成長するとエビ類や底生魚類などを捕食するようになる。

### 主な漁業と漁期

様々な漁法で漁獲されるが、宮城県漁業表浜支所の筒漁業の割合が高い。主漁期は5月～12月。

### 資源動向と水準

2020～2022年は新型コロナウイルス感染症による商取引の減少等の影響で200トン台に減少したものの、おおむね300～500トン程度で推移している。2024年以降漁獲量は増加傾向にあり、2025年は447トン、5億円の水揚げであった。



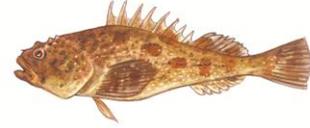
水平の点線は高位・中位・低位の境界線を示す。

※高位・中位・低位の判断は年平均漁獲量(±30%)を基準とした

### 参考文献

- 1) Mu X, Zhang C, Zhang C, Xu B, Xue Y, Ren Y (2018) Age determination for whitespotted conger *Conger myriaster* through somatic and otolith morphometrics. PLoS ONE 13(9): e0203537.
- 2) 水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター (2021) 令和3年度マアナゴ伊勢・三河湾の資源評価. <http://abchan.fra.go.jp/digests2021/index.html>
- 3) 石川哲郎, 鈴木貢治, 矢倉浅黄, 長岡生真, 小山光久, 木村博明, 高橋正晴, 芳賀晴也, 高松秀樹 (2024) 2023年に石巻湾で確認されたマアナゴ葉形仔魚の大量来遊. 日本水産学会誌, 90, 355-357.

# ケムシカジカ (*Hemitripterus villosus*)



## 生態

- ① 寿命：不明。
- ② 成熟：3月から5月が索餌盛期で、9月頃まで索餌期が続く。秋季から冬季には成熟、産卵期に向かう。
- ③ 産卵期：11月から12月。
- ④ 分布：東北地方および石川県以北の沿岸、黄海、日本海北部、オホーツク海、ベーリング海など北太平洋に広く分布する。
- ⑤ 生態：イカナゴ、ギンポ類、エゾイソアイナメ、クサウオ、キシエビ特にイカナゴが重要な餌生物である。イカナゴが夏眠に入ると、捕食できなくなり、キシエビがこれに替わる餌生物となる。

## 主な漁業と漁期

主に底曳網、刺網により漁獲される。主漁期は秋。

## 資源動向と水準

ケムシカジカの水揚量は2002年に100トン以上の水揚量を示したが、2014年以降は30トン以下の低位水準で推移していた。2025年の水揚量は2.6トン、金額は40万円であった。沖底CPUEは2014年以降、減少傾向にあったものの、2023年から増加に転じている。

直近5ヶ年の水揚動向から、資源動向、水準は横ばい、低位と判断された。

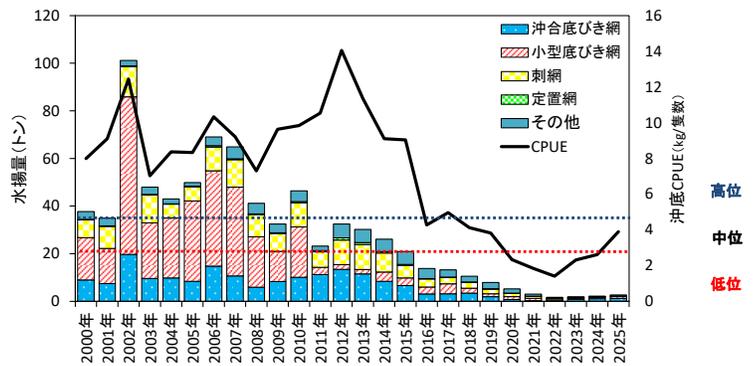
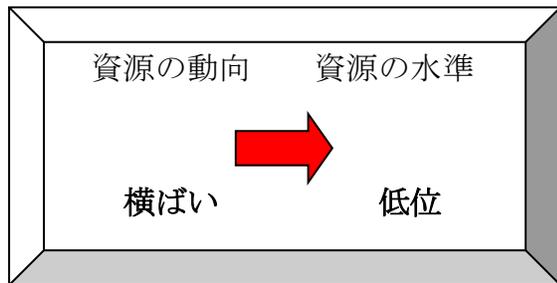
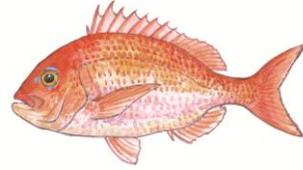


図1 宮城県におけるケムシカジカの水揚量の推移  
 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 135-138.

マダイ (*Pagrus major*)

## 生態

- ① 寿命：普通 25 歳、稀に 35 歳とされるが、神奈川水試の飼育記録では 30 歳以上。
- ② 成熟：産卵場へ成魚が来遊する時の水温は 14℃前後が多く、この水温が出現する時期は海域によって異なる。南方の海域ほど早く、北方では遅い傾向がある。
- ③産卵期：生息域の水温が 14～15℃に上昇すると産卵が始まり、21～23℃になると産卵を停止する。
- ④分布：北海道東部・北部や琉球列島を除く日本列島周辺の沿岸域、朝鮮半島南部、東シナ海、南シナ海、台湾に分布する。日本沿岸では黒潮および対馬暖流の沿岸域を中心に分布し、特に大陸棚が発達した東シナ海やほぼ全域が浅海域の瀬戸内海で最も多く、大陸棚が局所的に広がる日本海西部でも多い。大陸棚が未発達な太平洋や日本海北部沿岸域では少ない。
- ⑤生態：当歳魚の餌料は主にアミ類、ヨコエビ類、多毛類等で、1 歳魚以上ではエビ類、カニ類、シャコ類などの甲殻類、ヒトデ類、魚類等の大型の底生生物が主体となる。

## 主な漁業と漁期

主に底曳網、刺網、延網、一本釣り、定置網により漁獲される。主漁期は 5~6 月と 11 月。

## 資源動向と水準

マダイの水揚量は、2013 年に 400 トンを超えたが、2016 年以降は 200 トン前後の中位水準で推移した。2021 年以降再び増加傾向であり、2024 年の水揚量は 536 トンで過去最高を更新した。2025 年の水揚量は 425 トン、金額は 1.9 億円であった。定置網 CPUE は 2011 年を除いて水揚量の動向と同様の推移となり、2025 年は 108 kg/隻であった。

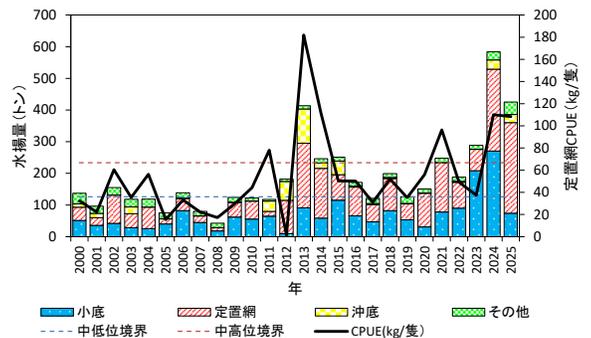


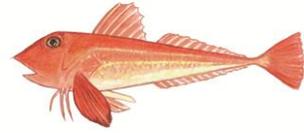
図1 宮城県におけるマダイの水揚量の推移  
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界  
中位と低位の境界を表す。



## 参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 71-75.

# カナガシラ (*Lepidotrigla microptera*)



## 生態

- ①寿命：宮城県海域のカナガシラの最高年齢は雄が11歳、雌が12歳。
- ②成熟：成熟年齢は3歳で、成熟とともに成長が停滞する。雌のほうが大きくなる。
- ③産卵期：宮城県海域や陸奥湾では産卵盛期は6月から8月。
- ④分布：北海道南部以南から東シナ海まで分布する。
- ⑤生態：餌生物の大部分はマルソコシラエビ、ヨコエビ類、エビ・カニ類。

## 主な漁業と漁期

主に底曳網、刺網、定置網により漁獲される。主漁期は5～6月。

## 資源動向と水準

カナガシラの水揚量は、2000年代前半は40トン以下の低位水準で推移していた。2012年以降水揚量が増加し、2017年は300トンを超える高位水準を示した。2018年以降減少傾向となったが、2022年以降は増加傾向となり、2025年の水揚量は217トン、金額は0.1億円であった。沖底CPUEは沖底の水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は76kg/隻で過去最高の水準であった。直近5ヶ年の水揚動向から、資源動向、水準は増加、高位と判断された。

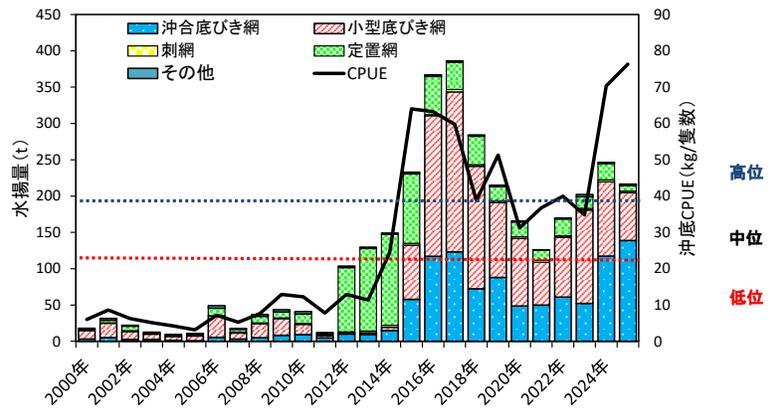
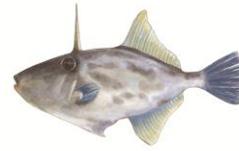


図1 宮城県におけるカナガシラの水揚量の推移  
 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

- 1) 藤岡崇・高橋豊美・前田辰昭・中谷敏邦・松島寛治 (1990) 陸奥湾におけるカナガシラ成魚の生活年周期と分布. 日水誌, 56, 1553-1560.
- 2) 岡村悠梨子・片山知史・奥野雄貴・杨 曦彤・増田義男 (2021) 宮城県沿岸におけるカナガシラの漁獲量の増加と生活史特性. 水産増殖, 69, 177-184.

# ウマヅラハギ



## (*Thamnaconus modestus*)

### 生態

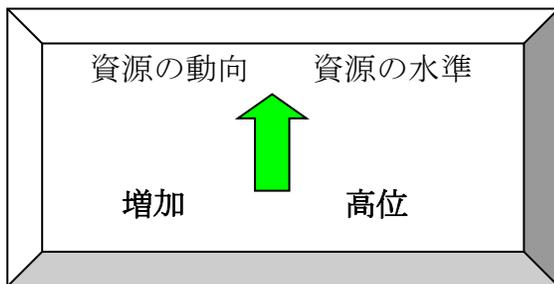
- ①寿命：10年。
- ②成熟：2歳から成熟個体が出現し、4歳以上で90%以上が成熟する。
- ③産卵期：我が国沿岸各地では夏季に産卵する。
- ④分布：我が国周辺、東シナ海、黄海に分布する。
- ⑤生態：カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類など幅広い食性を示す。

### 主な漁業と漁期

本県では地方名「ギハ」や「ギハギ」と呼ばれ、主に定置網によって漁獲される。主な漁期は4月～5月頃と11月～12月頃で年2回ピークがみられる。

### 資源動向と水準

ウマヅラハギの水揚量は、1995～2002年までは80トン～170トン台の中位～高位水準で比較的稳定して推移していた。2003年～2016年までは年によって異なるものの、2006年と2010年を除いて中低位水準で推移した。2017年以降は2020年を除いて中位水準で推移し、2024年の水揚量は95トンである。2025年の水揚量は77トン、金額は1億円であった。定置網CPUEは2011年を除いて水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は108kg/隻であった。



### 参考文献

- 1) 五味伸太郎・酒井猛・井関智明・増淵隆仁（2025）令和6（2024）年度ウマヅラハギ日本海・東シナ海系群の資源評価。我が国周辺水域の漁業資源評価，水産庁・水産研究・教育機構，東京，23pp，[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_72.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_72.pdf)。

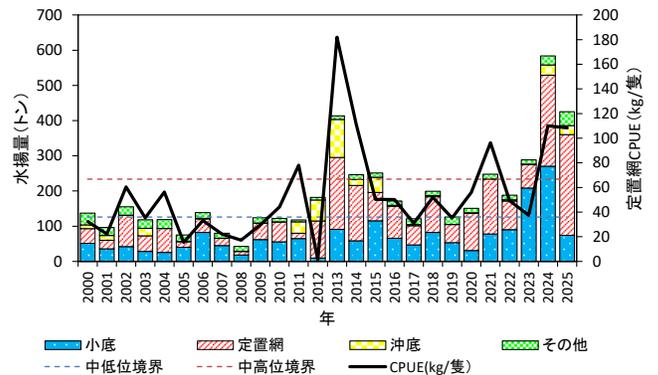


図1 宮城県におけるウマヅラハギの水揚量の推移。

※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す

# ヒラメ (*Paralichthys olivaceus*)



## 生態

- ①分布：日本沿岸のほぼ全域。東北海域では主に水深 30～150 m 以浅の陸棚域に分布し、産卵期には水深 20～50 m 以浅の粗砂及び砂礫地帯に移動。本県沿岸は太平洋北部系群に分類。
- ②成熟・産卵：東北海域での成熟サイズ及び年齢は、雄では全長 35 cm で 2 歳以上、雌では全長 44 cm で 3 歳以上。仙台湾から常磐海区では 5～9 月が産卵期。
- ③成長及び寿命：2 歳以上で雌が雄を上回り、2 歳の場合雄で全長約 35 cm、雌で 44 cm。雌で 12 歳、雄で 10 歳が捕獲されている。
- ④食性：着底後の稚魚はアミ類、全長 10 cm 以上でカタクチイワシ、マイワシ、イカナゴなどの魚類を捕食する。

## 主な漁業と漁期

小型底曳網及び刺し網による漁獲が多い。漁業は周年行われているが、6 月と 10 月頃に漁獲量が増加する。

## 資源動向と水準

本県の 2000～2023 年の平均漁獲量（2011 年及び 2012 年を除く）から判断した資源水準は中位で、資源動向は横ばいと判断した（図 1）。2025 年の水揚量は 707 トン、金額は 5.9 億円であった。沖底 CPUE は沖底の水揚量の動向と同様の推移となり、2025 年は 57 kg/隻であった。

ヒラメ太平洋北部系群の資源量は東日本大震災後急増し 2014 年には 1 万トンを超えたが、その後減少に転じた。2022 年は 6,556 トンと推定されている（図 2）。

本種は 1990 年代から盛んに種苗放流が行われているほか、本県では資源管理措置として小型魚（牡鹿半島以北では 30cm 未満、仙台湾では 35cm 未満）の漁獲制限を設けている。

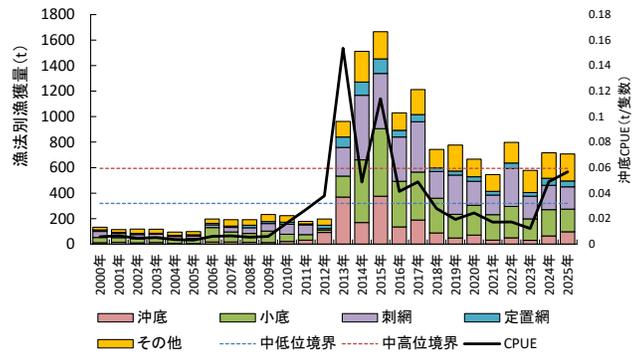


図 1 宮城県におけるヒラメの漁法別水揚量の推移

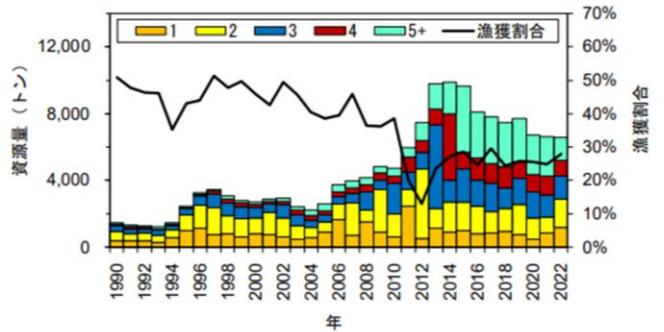
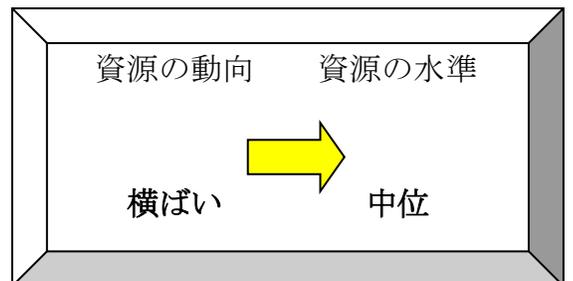


図 2 ヒラメ太平洋北部系群の資源量（富樫ら 2023 参照）



参考文献

- 1) Temperature influence on larval growth and metamorphosis of the Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* in the laboratory. Bull. Japan. Soc. Sci. Fish., 52, 977-982.3wq11
- 2) 北川大二・石戸芳男・桜井泰憲・福永辰廣(1994)三陸北部沿岸におけるヒラメの年齢, 成長, 成熟. 東北水研研報, 56, 69-76.
- 3) 富樫博幸・成松庸二・鈴木勇人・森川英祐・時岡駿・三澤遼・金森由妃・永尾次郎・櫻井慎大 (2024) 令和5 (2023) 年度ヒラメ太平洋北部系群の資源評価. 東京, 17 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details\\_2023\\_60.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/details_2023_60.pdf)
- 4) 宮城県(平成23年)宮城県資源管理指針

マコガレイ (*Pseudopleuronectes yokohamae*)



生態

- ① 寿命：仙台湾では雌で14歳、雄で9歳との報告がある。
- ② 成熟：雄は全長20.0～21.9 cm (2歳)、雌は全長28.2 cm (2歳)で成熟する。
- ③ 産卵期：産卵期は12～翌1月で、1産卵期1回型の産卵様式である。
- ④ 分布：北海道から九州。
- ⑤ 生態：多毛類やイソギンチャク目の一種、二枚貝の水管、ラスバンマメガニを捕食する。

主な漁業と漁期

刺網と小型底曳網による漁獲が大部分を占める。主な漁期は産卵期の12～翌2月と、索餌時期かつヒラメの代替品として単価の高い5～7月。水揚量の8割は牡鹿半島以南の仙台湾で水揚げされている。近年は過去最低レベルの漁獲量であり、2025年の水揚量は58トン、金額は0.5億円であった(図1)。

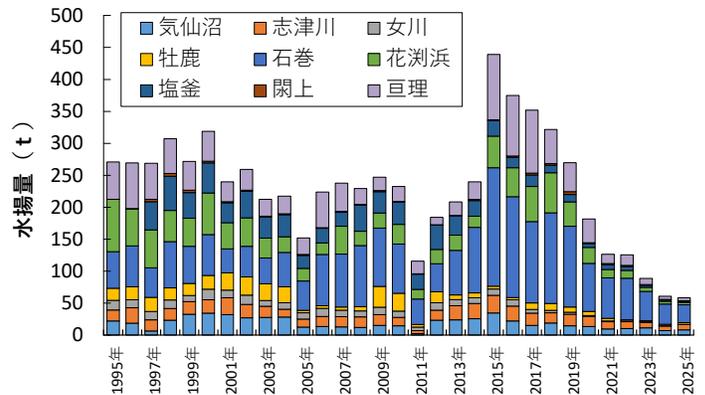


図1 宮城県におけるマコガレイの市場別水揚量の推移

資源動向と水準

VPAによる資源量推定結果によると、1996～2004年の資源量は300トン程度で推移していた。震災翌年以降は、増加傾向を示し、2014年には2,600トン程度まで増加したが、その後は減少に転じている。過去の資源量の平均値を指標とし、現在の資源量水準は低位、最近5年間の漁獲動向から減少傾向と判断した。

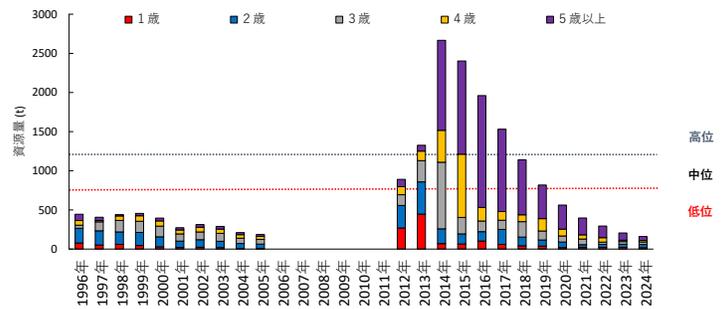
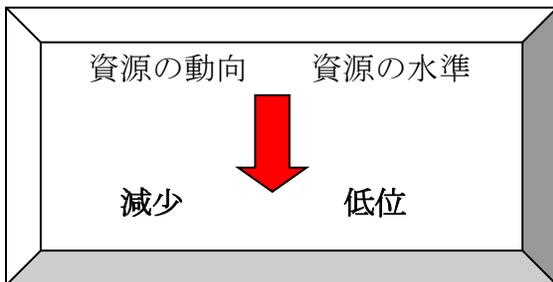


図2 仙台湾におけるマコガレイの資源量の推移



### トピックス

2008年2月に資源回復計画を策定し、産卵場における保護区の設定（仙台湾）や、刺網による産卵期の休漁、目合制限、小型魚の保護（全長20 cm、牡鹿半島以北）や産卵後親魚の再放流等に取り組んでいる。

### 参考文献

- 1) 大森蓮夫 (1974) 仙台湾における底魚の生産構造に関する研究 I. 日本水産学会誌, **40** (11), 1115-1126.
- 2) 菊地喜彦・小林徳光・永島宏・小林一郎・児玉純一・佐藤孝三 (1990) 仙台湾におけるマコガレイの分布について. 宮城県水産試験場研究報告, **13**, 30-42.
- 3) Hatanaka, M., and Iwahashi, S., (1952) Studies on the populations of the flatfishes in Sendai Bay III. The biology of *Limanda yokohamae* (Günther). Tohoku journal of agricultural research, **3**(2), 303-309.
- 4) 佐伯光広・菊地喜彦 (2000) 宮城県沿岸域における異なる海域間で漁獲されたマコガレイの成長, 産卵期及び遺伝的差異について. 宮城県水産研究開発センター研究報告, **16**, 61-70.
- 5) 佐藤羊三郎 (1972) マコガレイ（日出シロシタガレイ）の水槽内自然産卵について. 水産増殖, **19**, 183-186.
- 6) 高橋清孝・尾形政美・雁部総明・佐伯光広 (2006) 仙台湾におけるマコガレイ親魚の保護による資源管理. 宮城県水産研究報告, **6**, 21-26.

# マガレイ (*Pseudopleuronectes herzensteini*)



## 生態

- ①分布・回遊：仙台湾南部 30 m 以深の粒度の粗い砂質での漁獲が多い。冬期は沿岸、秋期は沖合という季節的浅深移動をする（山廻邊 2007）。
- ②年齢・成長：von Bertalanffy の成長式から推定された雌雄別全長は雌雄で成長差があり、雄は 6 歳で体長約 30 cm、雌は 6 歳で体長約 40 cm に達する。
- ③成熟・産卵：産卵期は 1～6 月と長期に及ぶが、最盛期は 3～4 月と考えられている（佐伯 2002）。
- ④被捕食関係：甲殻類や多毛類、魚類などさまざまな餌生物を餌として利用している。

## 主な漁業と漁期

主な漁期は 9～11 月であり、沖合底曳網及び小型底曳網による漁獲が多いが、近年は小型底曳網の漁獲が大部分を占める。2018 年以降漁獲量は減少傾向であり、2025 年の水揚量は 18 トン、金額は 270 万円であった。小底 CPUE は水揚量の動向と同様の減少傾向であり、2025 年は 11 kg/隻であった。（図 1）。  
 ※水揚データの都合上、CPUE は 2022 年以降で表示した。

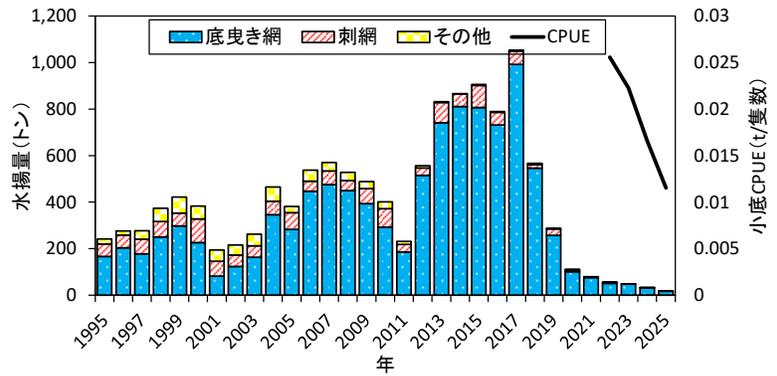


図 1 宮城県におけるマガレイの漁法別水揚量の推移

## 資源動向と水準

仙台湾の資源動向については、VPA による資源量推定結果 (M を雄 0.25、雌 0.21 と仮定。Pope の近似式を仮定) より (図 2)、震災翌年以降、2013 年に約 1,900 トン程度であった資源量は、それ以降減少に転じている。過去の漁獲量の平均値の±30%を指標とすると、直近 2022 年漁期は暫定値ながら、資源水準は低位であり、最近 5 年間の漁獲動向から減少傾向にあるとした。

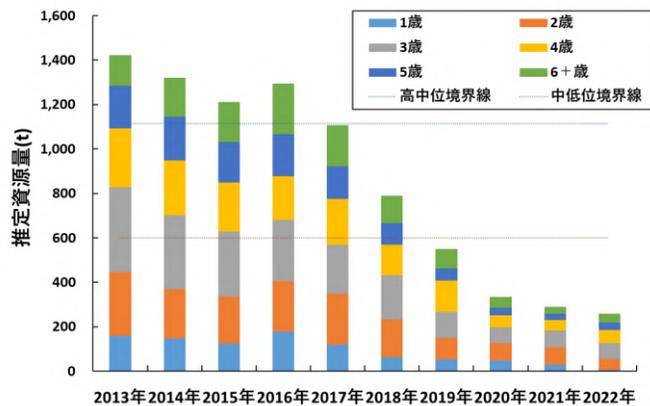
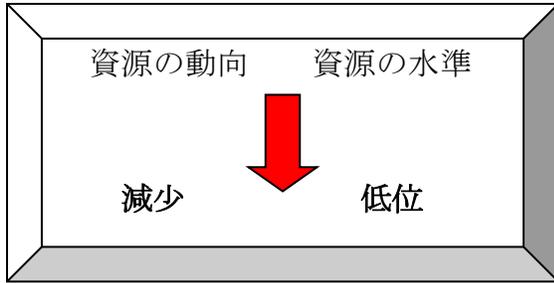


図 2 仙台湾におけるマガレイの推定資源量の推移



参考文献

- 1) 岡村悠梨子・鈴木貢治 (2020) 仙台湾におけるマガレイの資源量推定. 宮城県水産研究報告, 20, 1-7.
- 2) 佐伯光広 (2002) 宮城県におけるマガレイの資源生態と近年の資源動向. 東北底魚研究, 22, 34-36.
- 3) 山廻邊昭文 (2007) 福島県における近年のマガレイの漁獲と加入量変動. 福島県水産試験場研究報告, 14, 1-9.

# ホシガレイ (*Verasper variegatus*)



## 生態

- ①分布・回遊：北海道以南の日本各地に生息する。水深 10 m 以浅から水深 150 m の砂底で漁獲される。
- ②年齢・成長：雌雄で成長差がみられ、最大全長は雄より雌の方が大きい。他の異体類と比べ成長が極めて早く、満 2 歳で 40 cm に達する個体も見られる。高齢魚では最大で全長 60 cm、6 kg に達する。
- ③成熟・産卵：産卵期は概ね 12~2 月で、雄では 1 歳の秋から成熟、雌では 2 歳の秋から成熟が見られる。産卵場は、仙台湾においては水深 100~150 m の海域と考えられている。
- ④食性：着底直後から甲殻類を専食する。

## 主な漁業と漁期

刺網、沖合底曳網、小型底曳網で漁獲される（図 1）。6 月から 7 月の初夏が例年漁獲のピークである。2025 年の水揚量は 6.6 トン、金額は 2.4 億円であった。小底 CPUE は 2000 年から 1~2 kg 前後で推移したが、2025 年は増加増加に転じている。

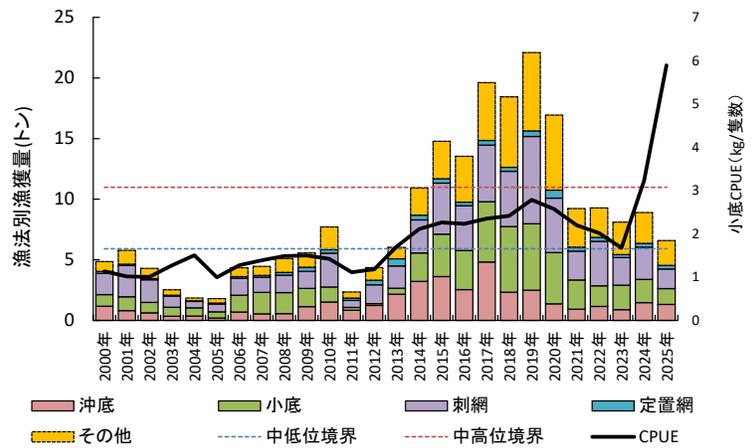
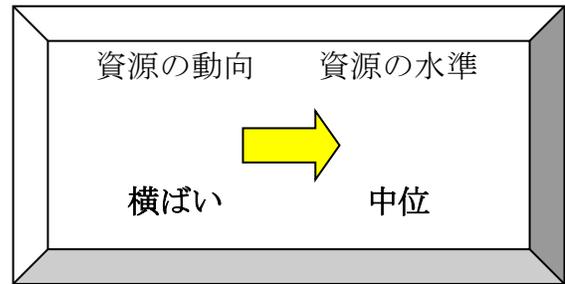


図 1 宮城県におけるホシガレイの漁法別水揚量の推移

## 資源動向と水準

本種は稚魚放流が行われており、震災後には漁獲が増加した。過去の漁獲量の平均値の±30%を指標とした漁獲動向としては、直近数年については減少傾向にあり、漁獲水準としては中位と判断された。



## 参考文献

- 1) 根本芳春・藤田恒雄・渡邊昌人(1999)ホシガレイに関する研究-I. 福島水試研報, 8, 5-16.
- 2) 島村信也・安岡真司・水野拓治・佐々木恵一・根本芳春(2007)ホシガレイに関する研究-II 漁業実態と福島県沿岸における生活史. 福島水試研報, 14, 69-90.
- 3) 渡邊一仁(2011)宮城県におけるホシガレイの漁獲動向と放流効果. 東北底魚研究, 31, 105-112.
- 4) 雁部総明(2014)VPA 解析結果からみたホシガレイの資源動向について. 東北底魚研究, 34, 31-37.

# ジンドウイカ (*Loliolus japonicus*)



## 生態

- ①寿命：雄が8か月、雌が9か月。
- ②成熟：ほぼ周年成熟個体が見られるが、春から秋にかけて成熟個体の割合が多い。小型成熟群（冬春生まれで夏秋成熟・産卵）と大型成熟群（夏秋生まれで冬春成熟・産卵）の2群が存在する。
- ③産卵期：ほぼ1年中行われ、主産卵期は5月～9月。
- ④分布：北海道南部以南の琉球列島を除く日本各地、黄海・東シナ海～南シナ海（ベトナム）の浅海域に分布する。本県では小型底びき網の重要な漁獲対象種である。
- ⑤生態：仙台湾では小規模な深浅回遊を行い、9月～2月に沖合へ離岸し（最大水深170m程度まで）、4月以降浅い海域へ接岸する。

## 主な漁業と漁期

本県では地方名「ヒイカ」や「小イカ」と呼ばれ、小型底びき網主体に沖合底びき網、定置網等によっても漁獲される。周年漁獲されるが、主な漁期は10月～3月頃。

## 資源動向と水準

水揚量は、2016年までは300トン～700トン台の中位～高位水準で比較的安定して推移していたが、2017年以降減少し、2019年以降は横ばい推移していたが、2024年は大きく減少し、水揚量は67トンで過去最低となった。2025年の水揚量は77トン、金額は0.6億円であった。小底CPUEは2011年を除いて水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は52kg/隻で過去2番目の低水準であった。

## 参考文献

- 1) 武智 博 (1989) 仙台湾に分布するジンドウイカの資源構造. 東北大学博士論文. 175 pp.
- 2) 増田義男・岡村悠梨子 (2022) 仙台湾におけるジンドウイカの成長と成熟. 東北底魚研究, 42, 37-40.
- 3) 時岡 駿・藤原邦浩・増田義男 (2024) ICT 機器データから見た仙台湾におけるジンドウイカの分布特性. 東北底魚研究, 44, 159-164.
- 4) Masuda Y., S. Tokioka, Y. Okamura and S. Katayama (2025) Age, growth and maturation of Japanese dwarf squid *Loliolus japonicus* in Sendai Bay. Fish. Sci., 91, 495-509.

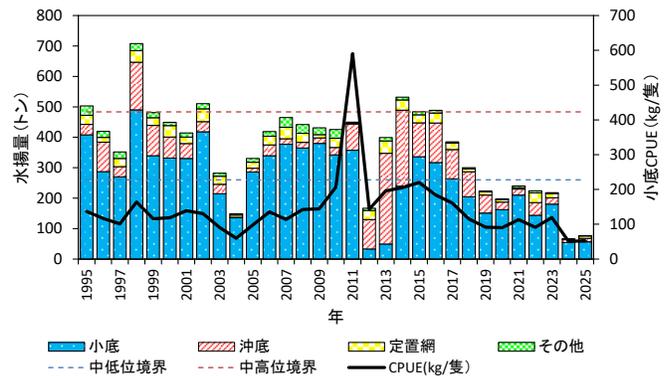


図1 宮城県におけるジンドウイカの水揚量の推移 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。





## マダコ (*Octopus sinensis*)

### 生態

- ① 寿命：本種においては有効な個体標識方法がなく、寿命は1年または1年4か月と推定されている。
- ② 成熟：津軽海峡では雄は体重100g～、雌は体重500g～とされている。
- ③ 産卵期：海域によって異なるが3～6月、9～10月とされ、年1回産卵の海域と年2回産卵の海域がある。
- ④ 分布：東アジア沿海の温帯・熱帯海域に広く分布する。日本の太平洋側では宮城県以南に主に分布し、津軽海峡域が北限と考えられている。
- ⑤ 生態：外房～三陸沿岸には、主に外房いすみ根海域で産出された浮遊幼生が、春から初夏にかけて北上暖水により福島から三陸沿岸へ来遊し、秋から冬にかけ南下回遊する、いわゆる「渡り群」と大きな回遊をせず一生を地先で過ごす「地着き群」が存在するとされ、本県のマダコは、「渡り群」が主体であると考えられているが、資源解析事例に乏しいのが実状である。

### 主な漁業と漁期

全国的には、主にかご漁業やたこつぼ漁業で漁獲される。本県では、主に10～12月にかご漁で漁獲されている。宮城県漁業調整規則で宮城県海面において4月1日から8月31日までの間、マダコの採捕を禁止している。

### 資源動向と水準

2017年から漁獲量が増加しており、近年の北上暖水の強勢を反映しているものと考えられる。2025年の水揚量は371トン、金額は6.3億円であった。かご漁業CPUEは水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は21kg/隻であった。

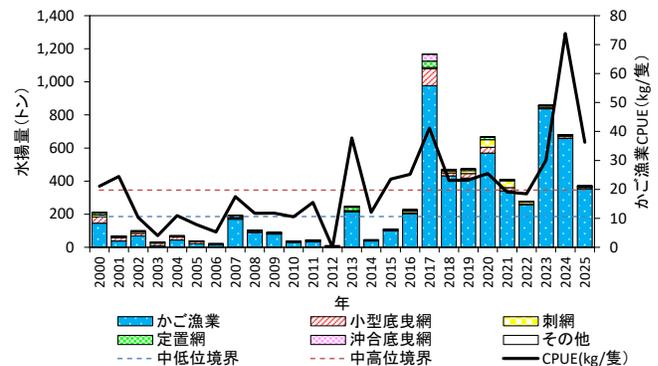
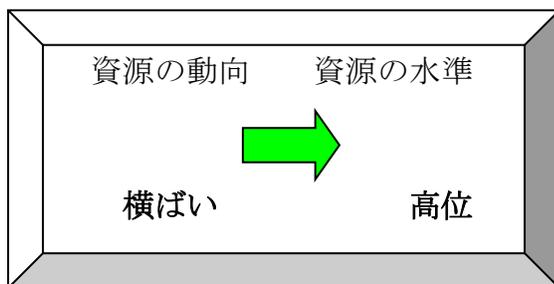


図1 宮城県におけるマダコの漁獲量の推移。高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした。



## トピックス

宮城県のマダコは「黒潮続流の4～6月の平均北限緯度」が高いほどその年の水揚量が増加する傾向がある。房総海域等で産卵されたマダコが浮遊幼生として4～6月に宮城県以北へ来遊することを反映していると考えられる。

2024年は岩手県でこれまで水揚げがほとんどなかった4～8月の水揚が増加した。宮城県では同期間は採捕が禁止されているため水揚げはなかったが、岩手同様に資源があったと推測される。2023～2024年にかけての冬季水温が特異的に高かったことから、南下せずにとどまる個体が増加したと考えられる。

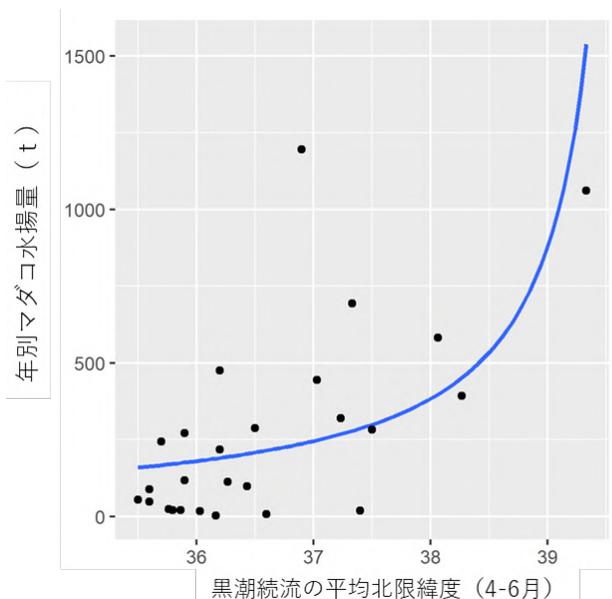


図2 黒潮続流の平均北限緯度 (4-6月) と水揚量の関係

## 参考文献

- 1) Leporati SC, Semmens JM, Pecl GT (2008). Determining the age and growth of wild octopus using stylet increment analysis. *Marine Ecology Progress Series*, 367, 213-222.
- 2) 上田拓 (2010) 関門地区におけるマダコの成熟ならびに成長. 福岡県水産海洋技術センター研究報告 20, 1-9.
- 3) 秋元義正, 佐藤照 (1980) マダコの生態-1 漁獲量の変動と移動. 福島水試研報, 6, 11-19.
- 4) 高橋 清孝 (2022) 海水温上昇による仙台湾と三陸沿岸の魚種交替. *JAFIC Technical Review No. 1*, 1-12
- 5) 野呂恭成 (2017) 津軽海峡に分布するマダコの生態. 青森県産業技術センター水産部門研究報告, 10, 8- 26.
- 6) 海洋生物環境研究所 (1991) 沿岸至近域における海生生物の生態知見 魚類・イカタコ類編 イカ・タコ類 (24) マダコ. 財団法人海洋生物環境研究所, 東京. 561- 594.
- 7) 坂口秀雄 (2006) 伊予灘東部海域におけるマダコの資源生物学的研究. 愛媛水試研報, 12, 25- 94.

## ミズダコ (*Enteroctopus dofleini*)

### 生態

- ① 寿命：不明（年齢形質未確定）。
- ② 成熟：雌 8.5 kg、雌 9.8 kg（津軽海峡）。
- ③ 産卵期：3～5月（津軽海峡）、5～7月（北海道）。
- ④ 分布：東北地方以北。
- ⑤ 生態：大型の寒冷性のタコ。漁獲される個体の多くは未成年体である。



### 主な漁業と漁期

周年沿岸小漁（カゴ漁）などにより漁獲されているが、6～7月に水揚げが多い。

### 資源動向と水準

震災後に漁獲量が減少傾向にある。2024年の水揚げ量は500トンであった。なお、水揚げデータには、本種に加えてヤナギダコ、アマダコ、クモダコが含まれていることに注意が必要である。2025年の水揚げ量は521トン、金額は2.4億円であった。

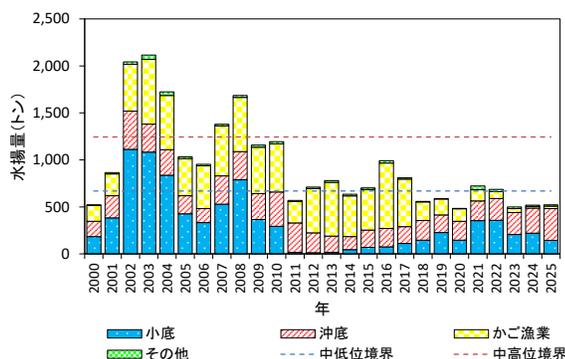
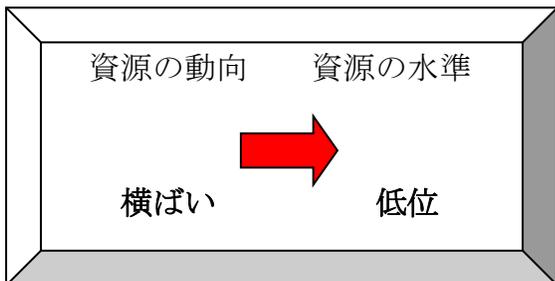


図1 宮城県におけるミズダコの漁獲量の推移。高位・中位・低位の判断は年漁獲量の範囲の3等分を基準とした。



### 参考文献

- 1) 野呂恭成, 桜井泰憲 (2014) 津軽海峡周辺海域におけるミズダコの性成熟と生殖周期. 水産増殖, 62 巻, 3 号, p. 279-287

# ガザミ (*Portunus trituberculatus*)



## 生態

- ① 寿命：2～3 歳。
- ② 成熟：ガザミは雌雄共生体型第 12 令または第 13 令で成熟し、雌では次の脱皮で腹部の形が三角形から丸味を帯びた形に変化し(成熟脱皮)交尾する。
- ③ 産卵期：産卵期は抱卵個体の出現状況でみると 4～9 月。
- ④ 分布：青森県以南の日本沿岸各地、台湾、中国、朝鮮半島(日本の主な産地は東京湾、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海)。
- ⑤ 生態：巻貝、二枚貝、多毛類、小型甲殻類等の底生生物を捕食し、夜間餌を求めて砂泥域から泳ぎ出て、はさみ脚で餌を捕らえる。

## 主な漁業と漁期

主に底曳網、刺網により漁獲される。主漁期は夏～秋。

## 資源動向と水準

ガザミの水揚量は、2015 年に 500 トン以上を示し、その後 600～700 トン台で推移したが、2019 年以降は 300 トン前後の中位～高位水準で推移していた。2025 年の水揚量は 302 トン、金額は 3.6 億円であった。

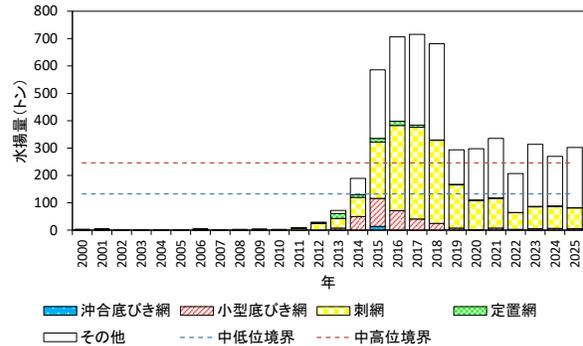
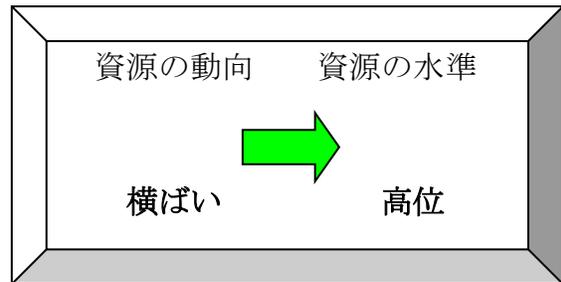


図 1 宮城県におけるガザミの水揚量の推移  
※上下 2 本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

- 1) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成18年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 193-196.
- 2) 矢倉浅黄 (2021) 仙台湾におけるガザミの漁獲と生態について. 宮城水産研報, 21, 10-14.



アカガイ (*Anadara broughtonii*)

## 生態

- ①分布：内湾及び沿岸浅海域の泥域に生息する二枚貝で、仙台湾では水深 20～30 m のシルト帯に生息する。
- ②年齢・成長：殻長は 2 齢で 40 mm、4 齢で 59.6 mm、6 齢で 73.4 mm、10 齢で 90.0 mm と推定される。
- ③成熟・産卵：2 齢で一部が成熟するが、若齢貝では雄の割合が高く 6 齢で雌雄比が 1 となる。
- ④食性：無水管の濾過食性で、微細藻類や有機懸濁物を摂取する。

## 主な漁業と漁期

貝桁網により漁獲される。7、8 月を除き周年漁獲される。

## 資源動向と水準

2001 年以降の漁獲量の平均値を基準に求めた漁獲水準としては 2025 年は低位水準であり、水揚量は 54 トン、水揚金額で約 2 億円であった。

本種はまひ性貝毒が基準値を超えた場合、出荷自主規制措置がとられるが、長期間毒成分を保持することから、年によって漁期が著しく短いことがある。このため、漁獲動向が必ずしも資源動向を反映しているとは限らない。2018、2020、2022 年はまひ性貝毒による出荷自主規制措置が長期化したことから水揚量が減少した。

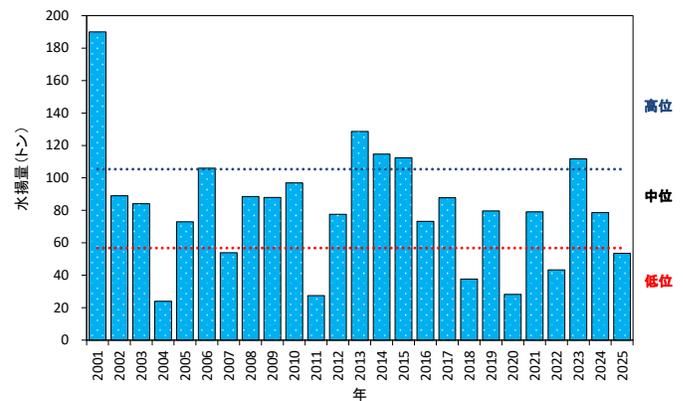


図 1 宮城県におけるアカガイの漁獲状況

## 参考文献

- 1) 吉良哲郎(1972)原色日本貝類図鑑. 保育社, 東京.
- 2) 渡邊一仁, 田邊徹, 鈴木矩晃(2012)仙台湾アカガイの資源状況と管理手法の検討. 宮城水産研報, 12, 13-21.
- 3) 佐々木良(1997)仙台湾におけるアカガイ加入初期過程に関する再検討. 宮城水開セ研報, 15, 69-79.

# タチウオ (*Trichiurus japonicus*)



## 生態

- ①寿命：8歳程度。
- ②成熟：1歳で40%、2歳で80%以上、3歳で100%が成熟する。
- ③産卵期：春と秋に分かれる。仙台湾では7月～10月に産卵がみられる。
- ④分布：北海道以南の本州沿岸から東シナ海、朝鮮半島西岸および黄海・渤海に分布し、日本各地の沿岸で広く分布する。近年西日本では減少しているが、静岡県以東では増加しており、海水温上昇によりタチウオの分布が北偏傾向にある。
- ⑤生態：肛門前長が200 mm以下の個体は小型甲殻類、中大型魚は小型魚類を捕食する。成長に伴い魚食性が強くなる。共食いも見られる。仙台湾では主にカタクチイワシを捕食し、日和見的に冷水性の魚類・イカ類も捕食している。

## 主な漁業と漁期

本県では定置網と小型底びき網による漁獲が多い。タチウオの来遊資源の増加に伴い、はえ縄等で狙う漁業者もいる。主漁期は夏秋期で沿岸の表面水温が20℃前後になると来遊し、10℃を下回るとほとんど見られなくなる。

## 資源動向と水準

水揚量は、1999年に300トンを超えたが、2014年までは100トン未満の低位水準であった。2015年以降増加し、2018年以降は100トンを超え、2020年以降は250トン以上の高水準で推移している。定置網CPUEも水揚量の増減と同様の推移となり、2025年は157 kg/隻で過去2番目の高水準であった。2025年の水揚金額は過去最高の579トン、水揚金額は4億円であった。

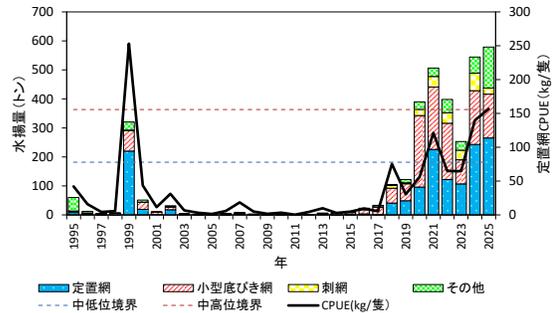
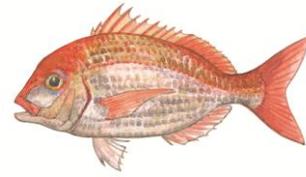


図1 宮城県におけるタチウオの水揚量の推移※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

- 1) 酒井ほか (2025) 令和6 (2024) 年度タチウオ日本海・東シナ海系群の資源評価. 東京, 20 pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_57.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_57.pdf)
- 2) 増田義男・片山知史 (2022) 仙台湾におけるタチウオの漁獲動向と生物特性. 黒潮の資源海洋研究, 23, 49-55.
- 3) 櫻井慎大・時岡 駿・増田義男 (2023) 仙台湾におけるタチウオの食性. 東北底魚研究, 43, 5-11.



チダイ (*Evynnis japonica*)

## 生態

- ① 寿命：雌雄ともに最高 16 歳の記録がある。
- ② 成熟：2 歳になると産卵を開始し、産卵期に 2 歳魚は 1 回、3 歳魚以上は 3 回の産卵を行うと推定されている。
- ③ 産卵期：宮城県沿岸では 5～9 月。低緯度の海域ほど産卵期が早い。
- ④ 分布：北海道南部から沖縄までの沿岸各地、朝鮮南部、東シナ海に分布する。
- ⑤ 生態：未成魚期は端脚類、アミ類、エビジャコ、キシエビ、多毛類、魚類稚仔、クモヒトデなどを捕食し、成魚期では端脚類、エビ類、キセワタ類、イカ類、オキアミ、多毛類、クモヒトデなどを捕食する。

## 主な漁業と漁期

主に底曳網、定置網により漁獲される。主漁期は夏～秋。

## 資源動向と水準

2016 年以降水揚量が増加し、2018 年以降は 174 トン～352 トンの高位水準で推移している。2025 年の水揚量は 297 トン、金額は 0.5 億円であった。小底 CPUE は水揚量の動向と同様の推移となり、2025 年は 183 kg/隻で過去 2 番目の高水準であった。

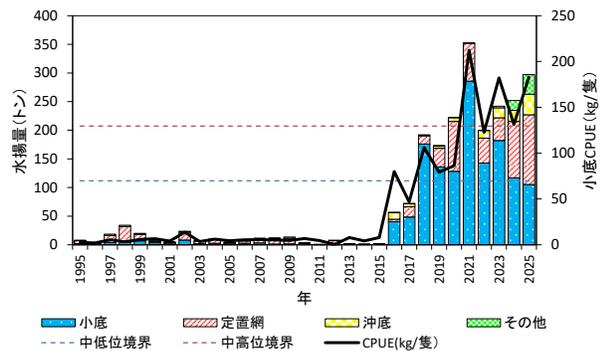
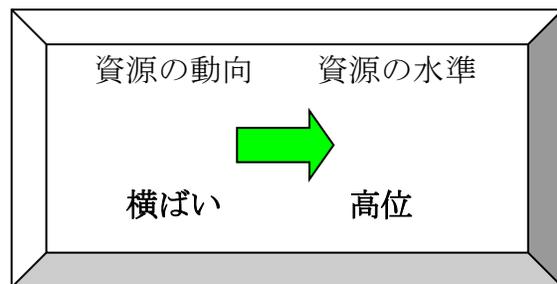
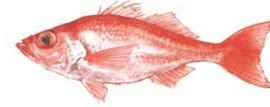


図1 宮城県におけるチダイの水揚量の推移  
※上下 2 本の破線はそれぞれ高位と中位の境界中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

- 1) 長岡生真 (2024) 宮城県沿岸域におけるチダイの生物学的特性. 黒潮の資源海洋研究, 26, 155-161.
- 2) Havimana, L., J. Ohtomi, Y. Masuda and M. Vazquez-Archdale (2020) Age and growth of crimson sea bream *Evynnis tumifrons* off the southwestern coast of Kyushu, Japan. *Fish. Sci.*, 86, 319-327.
- 3) 社団法人全国豊かな海づくり推進協会 (2006) 主要対象生物の発育段階の生態的知見の収集・整理報告 (平成 18 年度水産基盤整備調査委託事業報告書), 67-72.
- 4) 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次 (2007) 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野, 1262 p.



アカムツ (*Doederleinia berycoides*)

## 生態

- ①寿命：雄では5歳、雌では10歳とされている。宮城県のアカムツは雄が10歳、雌が15歳。
- ②成熟：雄では3歳で全長15cm前後、雌では3～4歳で全長20cm前後。
- ③産卵期：日本海では7月～9月。宮城県では9月～10月。
- ④分布：日本海・東シナ海は青森県～九州南岸、太平洋側は北海道～九州南岸。近年福島～宮城県海域で増加傾向にある。季節的には夏季に浅い水深帯に移動する。
- ⑤生態：仔稚魚期はカイアシ類、幼魚はオキアミやエビ類などの甲殻類、成魚は魚類やエビ類を捕食する。

## 主な漁業と漁期

主漁期は夏～秋季。以前は底びき網による漁獲が大半を占めていたが、近年は刺網による漁獲が多くを占めるようになった。刺し網では大型のアカムツを狙い操業し、高値で取引されている。

## 資源動向と水準

水揚量は、1997年に8.7トンを超えたが、1999年～2013年までは1トン未満の低位水準で推移した(図1)。2012年に卓越年級群が発生し、2015年に漁獲対象となって以降は高位水準で推移して増加傾向にあり、2024年は33トンで過去最高となった。2025年の水揚量は27トン、金額は1.4億円であった。沖底CPUEは沖底の水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は8kg/隻で過去2番目の高水準であった。

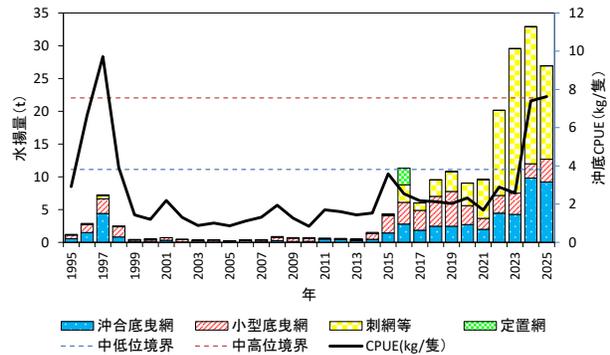
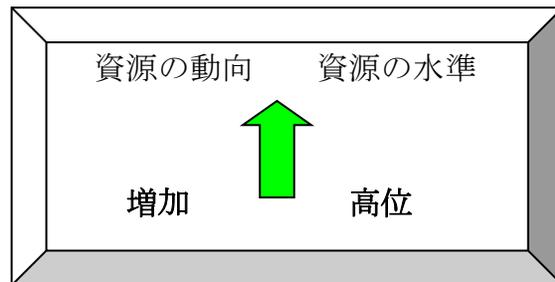


図1 宮城県におけるアカムツの水揚量の推移  
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所ほか (2025) アカムツ日本海系群(青森～山口). 令和6(2024)年度調査報告書.東京, 17pp, [https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/trends\\_2024\\_085.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/trends_2024_085.pdf).
- 2) 増田義男 (2023) 宮城県におけるアカムツの漁獲実態. 東北底魚研究43, 47-50.
- 3) 増田義男・時岡 駿・櫻井慎大 (2024) 宮城県沿岸域におけるアカムツの年齢と成長. 東北底魚研究, 44, 21-28.



# トラフグ (*Takifugu rubripes*)



## 生態

- ①寿命：10年以上。
- ②成熟：雄では2歳、雌では3歳。
- ③産卵期：産卵期は4～5月。本県で産卵しているかについては不明。
- ④分布：北海道～九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海。近年東京湾周辺海域で急増し、2021年の秋～冬季には福島～宮城県海域で漁獲が急増した。
- ⑤生態：仔魚期は動物プランクトン、稚魚期は端脚類、十脚類、多毛類、昆虫類を捕食する。未成魚期はイワシ類、その他幼魚、甲殻類、成魚期は甲殻類や魚類を捕食する。

## 主な漁業と漁期

ふぐはえ縄、小型底びき網などによって漁獲される。本県では定置網、小型底びき網、刺網等によって漁獲される。2020年までは4～6月がトラフグ漁期であったが、2021年からは県南部海域で10月～12月まではえ縄や刺網による狙い操業が行われて漁獲量が急増している。

## 資源動向と水準

トラフグの水揚量は、2009年までは3トン未満の低位～中位で推移した。震災のあった2011年を除く2010年～2014年までは中位～高位で推移し、2015年～2018年まではやや減少して中位水準となった。2019年以降は増加傾向となり、2025年の水揚量は31トン、金額は0.6億円であった。小底CPUEは2011年を除いて水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は19kg/隻で最高であった。

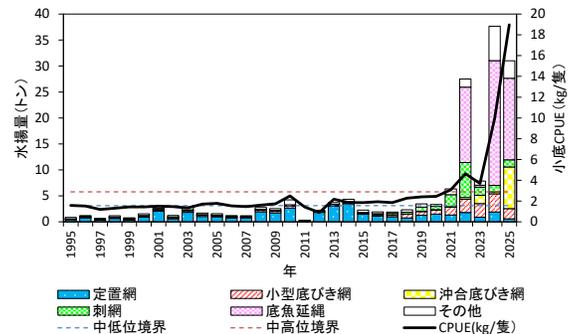


図1 宮城県におけるトラフグの水揚量の推移  
 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

1) 片町太輔・真鍋明弘・澤山周平 (2025) 令和6 (2024) 年度トラフグ伊勢・三河湾系群の資源評価.東京, 99pp,  
[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_74.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_74.pdf).

ケンサキイカ (*Uroteuthis edulis*)

## 生態

- ①寿命：1年。仙台湾では雄が8か月～11か月。雌が8か月～9か月。
- ②成熟：月齢約5ヶ月程度から成熟個体が出現し、8ヶ月でほぼ半数の雌が成熟する。
- ③産卵期：春～秋の長期間。本県では夏～秋に産卵する。
- ④分布：青森県以南から東南アジアおよびオーストラリア北部に分布する。
- ⑤生態：小型の魚類、軟体類、甲殻類を捕食する。

## 主な漁業と漁期

本県では沖合底びき網、小型底びき網、定置網等によって漁獲される。漁期は7月～11月。宮城県では2017年以降、夏秋季にケンサキイカが多獲されるようになり、沖合底びき網や小型底びき網をはじめとする沿岸・沖合漁業の重要魚種になりつつある。

## 資源動向と水準

水揚量は、2016年までは70トン未満の低位～中位で推移したが、2017年に急増し、以降高位で推移している。2022年は親潮系冷水が強かったことが影響し、1トンにまで激減した。2023年以降急増し、2024年は353トンで過去最高となったが、2025年は春に親潮系冷水が強かったことで再び減少し、水揚量は65トン、水揚金額は0.5億円となった。底びき網CPUEも水揚量と同様の推移となり、2025年は65kg/隻で前年の約5割となった。

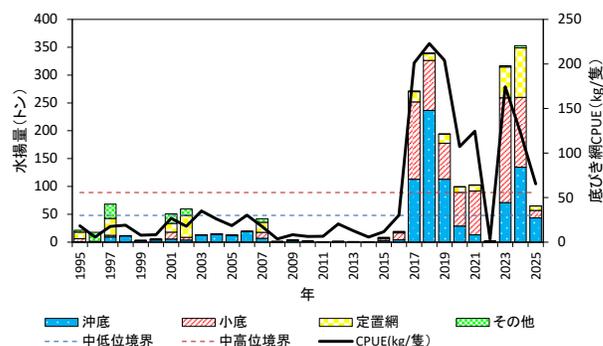
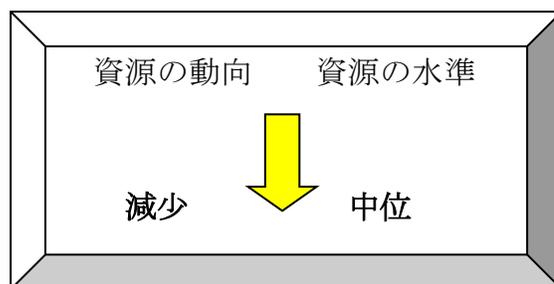


図1 宮城県におけるケンサキイカの水揚量の推移※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



## 参考文献

- 1) 佐々千由紀・酒井猛・依田真理 (2025) 令和6(2024)年度ケンサキイカ日本海・東シナ海系群の資源評価.東京, 29 pp,  
[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details\\_2024\\_79.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/details_2024_79.pdf)
- 2) 増田義男・時岡駿 (2021) 宮城県沿岸で漁獲されるケンサキイカの生物特性. 宮城水産研報, 21, 23-30.
- 3) 増田義男・時岡駿 (2025) 2023～2024年の海洋熱波状況下に宮城県沿岸域で漁獲されたケンサキイカの日齢, 成長および成熟. 黒潮の資源海洋研究, 26, 149-154.
- 4) Masuda Y. & S. Tokioka (2026) Biological and ecological responses of swordtip squid *Uroteuthis edulis* to the 2023-2024 marine heatwave off Sendai Bay, Northeastern Honshu, Japan. Fisheries Oceanography, <https://doi.org/10.1111/fog.70037>.

# ホウボウ (*Chelidonichthys spinosus*)



## 生態

- ①寿命：7歳程度。東シナ海・黄海産ホウボウの鱗による年齢査定では1歳で13 cm、2歳で20 cm、3歳で25 cm、4歳で29 cm、5歳で31 cm、6歳で33 cm、7歳で35 cm
- ②成熟：雌の50%成熟体長は23 cm。
- ③産卵期：東シナ海・黄海では3～5月。宮城県では不明。
- ④分布：北海道中部以南、東シナ海、黄海、渤海、南シナ海に分布する。水深5～615 mの泥や砂泥域に生息する。
- ⑤生態：魚類、シャコ類、エビ類を多く捕食する。

## 主な漁業と漁期

主漁期は夏～秋季。小底による漁獲が多い。近年は刺網による狙い操業が増加し、漁獲も増えている。

## 資源動向と水準

水揚量は、1995年～2013年までは概ね10トン未満の低位水準で推移していたが、2013年以降徐々に増加し、2024年に過去最高の88トンとなった(図1)。2025年の水揚量は前年よりやや減少して66トン、金額は0.5億円であった。小底CPUEは沖底の水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は22kg/隻で過去2番目の高水準であった。

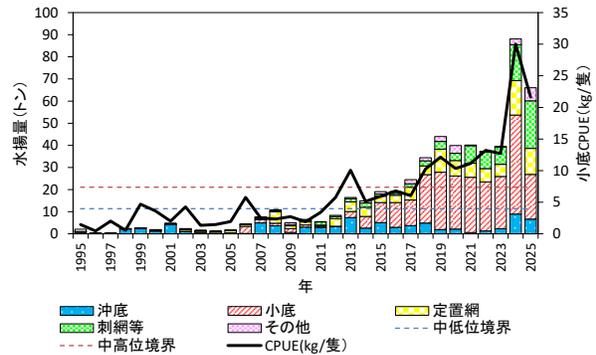


図1 宮城県におけるホウボウの水揚量の推移  
 ※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所ほか (2024) ホウボウ日本海西・東シナ海系群(山口～福岡). 令和5(2023)年度調査報告書.東京, 9 pp, [http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends\\_2023\\_173.pdf](http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_173.pdf).
- 2) 中島国重(1966) 東シナ海・黄海産ホウボウの年齢と成長について. 西海区水産研究所研究報告, 34: 133-147.



アオメエソ (*Chlorophthalmus albatrossis*)

## 生態

- ①寿命：1歳で8~9 cm、2歳で12~13 cm、3歳で14~15 cmに達し、寿命は4歳以上。
- ②成熟：成熟個体は未確認のため、成熟年齢や産卵場所は不明。
- ③産卵期：不明。
- ④分布：青森~九州の太平洋岸、新潟県以南の日本沿岸、東シナ海大陸棚縁辺域。水深45~600mの大陸棚縁辺から斜面上部に分布する。産卵場は黒潮の上流域に存在し、仔魚は黒潮に乗って日本列島に輸送される。東北海域では200 m以浅に大型個体が多く、200~300 mには小型と大型が混在、300 m以深では小型個体が多く分布する。
- ⑤生態：カイアシ類、オキアミ類、マルソコシラエビ、小型魚類等を主な餌としている。

## 主な漁業と漁期

主漁期は冬~春季。沖底のうち19トン未満の近海底びき網漁船による漁獲が多くを占める。石巻魚市場では目光（メヒカリ）として扱われている。

## 資源動向と水準

水揚量は、1997年に8.7トンを超えたが、1995年~2016年までは100トン未満の低位水準で推移していたが、2017年に急激に増加して203トンに達した（図1）。その後減少して2023年までは概ね100トン未満で推移したが、2024年に急激に増加して過去最高の443トンとなった。2025年の水揚量は374トン、金額は2億円であった。沖底CPUEは沖底の水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は225kg/隻で過去最高であった。

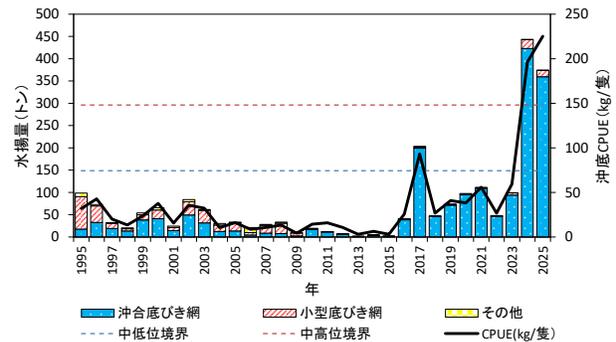
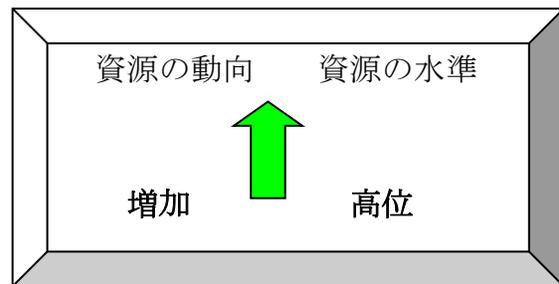


図1 宮城県におけるアオメエソの水揚量の推移  
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所ほか（2025）アオメエソ太平洋北部系群（岩手~千葉）. 令和6（2024）年度調査報告書.東京, 7 pp, [http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/trends\\_2024\\_117.pdf](http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2025/03/trends_2024_117.pdf).
- 2) 平川直人・鈴木直樹・成松庸二（2008）東北海域におけるアオメエソの加入機構. 海洋と生物, 179, 740-748.
- 3) 阪地英男（2008）土佐湾におけるメヒカリの生活史と漁業. 海洋と生物, 179, 749-754.



アカカマス (*Sphyraena pinguis*)

## 生態

- ①寿命：鹿児島湾の年齢査定結果によると雄では11歳、雌では8歳とされている。
- ②産卵期：6月～8月。
- ③分布：オホーツク海を除く日本各地の沿岸。
- ④生態：主にカタクチイワシを捕食している。

## 主な漁業と漁期

主漁期は夏～秋季。以前は小底や定置網による漁獲が多い。近年は小底が仙台湾内で狙い操業し、大型のアカカマスは1,000円/kg以上の高値で取引されている。

## 資源動向と水準

水揚量は、2007年と2008年に40トンを超えたが、2020年までは概ね20トン未満の低位水準で推移した(図1)。2021年に小底と定置網による漁獲が増加し、2024年に過去最高の116トンとなった。2025年の水揚量は78トン、金額は約0.5億円であった。沖底CPUEは沖底の水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は96kg/隻で過去2番目の高水準であった。

## 参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所ほか  
(2024) ヤマトカマス・アカカマス太平洋中・南部系群(千葉～宮崎). 令和5(2023)年度調査報告書.東京, 7pp,  
[http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends\\_2023\\_189.pdf](http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_189.pdf).
- 2) 増田育司・酒匂貴文・松下剛・白石哲朗・切通淳一郎・神村祐司・小澤貴和(2003) 鹿児島湾産アカカマスの年齢、成長および年級群組成. 日水誌, 69, 709-716.

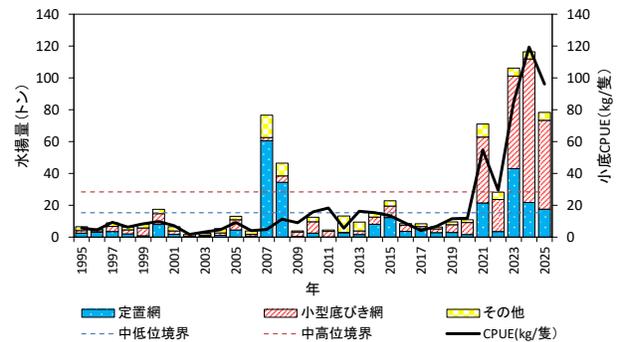


図1 宮城県におけるアカカマスの水揚量の推移  
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



メダイ (*Hyperoglyphe japonica*)

## 生態

- ①寿命：6歳
- ②成熟：雌は3歳から成熟が始まり、4歳以上で大部分が成熟する。
- ③産卵期：伊豆諸島海域では12月～翌年2月。
- ④分布：北海道～九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海、東シナ海大陸棚縁辺～斜面域、九州～パラオ海嶺など
- ⑤生態：幼魚はカイアシ類、未成魚や成魚は浮遊性カイアシ類、クラゲ類などの大型プランクトンを捕食する。

## 主な漁業と漁期

主漁期は秋季。沖底による漁獲が主体であったが、2025年にはアカムツやホウボウとともに刺し網による漁獲が急増した。

## 資源動向と水準

水揚量は、2004年に367トンの過去最高となったが、2024年までは100トン未満の低位水準で推移した。2025年は刺し網による漁獲が急増して水揚量は183トンになった。刺し網の漁獲物は箱詰めによる単価上昇に伴って、金額は1.3億円となった。沖底 CPUE は沖底の水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は4kg/隻で低水準であった。

## 参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所ほか (2024) メダイ太平洋中・南部系群(千葉～宮崎). 令和6(2024)年度調査報告書. 東京, 10 pp, [http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends\\_2023\\_269.pdf](http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_269.pdf).
- 2) 河野光久・繁永裕司 (2011) 山口県日本海沿岸域におけるメダイの成熟および産卵. 山口水研報, 9, 99-103.
- 3) 東京都 (1969) 昭和45年度指定調査研究総合助成事業底魚資源調査報告書 メダイ昭和43～45年総括. 東京都水試研要報, 89, 1-15.

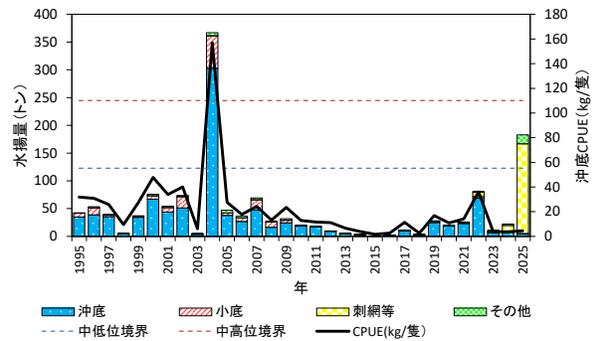
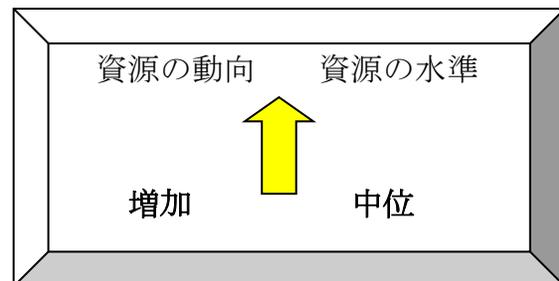


図1 宮城県におけるメダイの水揚量の推移  
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。



アオリイカ (*Sepioteuthis lessoniana*)

## 生態

- ①寿命：約1年
- ②成熟：GSIが4以上で産卵可能とされる。
- ③産卵期：大型個体は4月から、小型個体でも6月から9月に産卵する。
- ④分布：インド・太平洋域に広く分布し、日本では北海道南部から沖縄にかけて連続的に分布する。
- ⑤生態：エビ類や魚類を捕食する。

## 主な漁業と漁期

主漁期は秋季。海洋熱波年の2024年は春に大型親魚も漁獲された。主に定置網で漁獲される。

## 資源動向と水準

水揚量は、2005年と2010年に5トン以上の高位水準となったが、2022年までは5トン未満の中低位水準であった。2023年秋に漁獲が急増して過去最高の14.8トンとなり、2024年も14.5トンの高位水準であった。2025年は大きく減少して水揚量は2.7トン、金額は4百万円であった。定置網CPUEは水揚量の動向と同様の推移となり、2025年は9kg/隻で過去5番目の高水準であった。

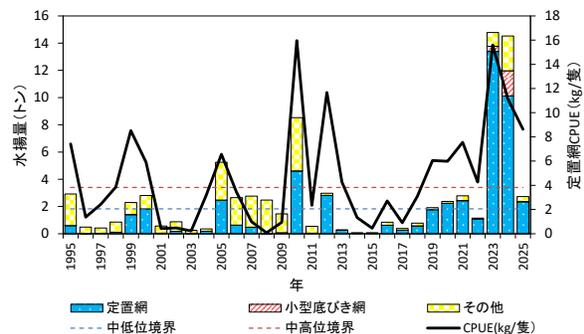


図1 宮城県におけるアオリイカの水揚量の推移  
※上下2本の破線はそれぞれ高位と中位の境界、中位と低位の境界を表す。

## 参考文献

- 1) 水産研究・教育機構水産資源研究所ほか (2024) アオリイカ九州沿岸系群 (福岡～鹿児島). 令和6 (2024) 年度調査報告書. 東京, 4 pp, [http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends\\_2023\\_119.pdf](http://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_119.pdf).
- 2) 上田幸男 (2000) 徳島県産アオリイカの資源生物学的研究. 徳島水産研報, 1, 1-80.



主要魚種の資源水準動向一覧

2025年宮城県主要魚種資源水準動向一覧

No.	魚種	動向	水準	備考	No.	魚種	動向	水準	備考
1	クロマグロ*	↑	低位	暖水種	29	スズキ	↑	高位	
2	カツオ	→	低位	暖水種	30	サワラ	→	中位	暖水種
3	メバチ	→	低位		31	アイナメ	→	低位	
4	キハダ	→	低位	暖水種	32	マアナゴ	↑	中位	
5	ビンナガ	→	低位	暖水種	33	ケムシカジカ	→	低位	冷水種
6	メカジキ	→	低位	暖水種	34	メダイ	↑	高位	暖水種
7	サンマ*	→	低位	冷水種	35	カナガシラ	↑	高位	
8	サケ	→	低位	冷水種	36	ウマヅラハギ	↑	高位	
9	マイワシ*	→	中位		37	ヒラメ**	→	中位	
10	マサバ*	↓	低位		38	マコガレイ	↓	低位	
11	ゴマサバ*	↑	低位	暖水種	39	マガレイ	↓	低位	冷水種
12	マアジ*	↑	高位	暖水種	40	ホシガレイ	→	中位	
13	スケトウダラ*	↓	低位	冷水種	41	ジンドウイカ	↓	低位	
14	マダラ*	→	低位	冷水種	42	マダコ	→	高位	暖水種
15	サメガレイ**	→	低位		43	ミズダコ	→	低位	冷水種
16	ババガレイ	→	中位	冷水種	44	ガザミ	→	高位	暖水種
17	キチジ	↓	高位		45	アカガイ	↓	低位	
18	キアンコウ	↑	高位		46	タチウオ	↑	高位	暖水種
19	イラコアナゴ	→	低位		47	チダイ	→	高位	暖水種
20	イトヒキダラ	→	中位		48	アカムツ	↑	高位	暖水種
21	ユメカサゴ	↑	高位		49	トラフグ	↑	高位	
22	ヤリイカ	→	高位		50	ケンサキイカ	↓	中位	暖水種
23	スルメイカ*	↑	低位		51	ホウボウ	↑	高位	
24	カタクチイワシ*	↑	低位	暖水種	52	アオメエソ	↑	高位	
25	ブリ	→	低位	暖水種	53	アカカマス	↑	高位	暖水種
26	イカナゴ	↓	低位	冷水種	54	メダイ	↑	中位	暖水種
27	ツノナシオキアミ	↓	低位	冷水種	55	アオリイカ	↓	高位	暖水種
28	サヨリ	↑	高位						

※55種のうち、高位水準は20魚種、中位水準が9魚種、低位水準が26魚種となっている。

※冷水種10種のうち9種が低位水準となっている。

※暖水種20種のうち12種が中位～高位水準となっている。また、暖水種のうち、広域性の魚種は低位の割合が多い。

\*はTAC管理魚種、\*\*はTAC管理候補種

# 主要魚種の水揚量の推移

2000年~2025年宮城県主要魚種の水揚量の推移

単位：トン ※サケの単位：千尾

魚種	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
1 クロマグロ	7,441	2,821	3,270	694	2,733	844	1,814	569	463	1,050	310	356	344
2 カツオ	61,783	68,227	55,324	77,584	49,605	100,188	69,951	67,934	73,465	32,240	67,497	18,546	34,877
3 メバチ	5,036	4,631	6,347	5,755	5,957	3,157	4,437	5,006	4,000	3,757	4,112	3,270	3,408
4 キハダ	3,443	1,911	2,362	2,861	1,347	1,058	2,107	1,453	1,616	1,246	1,626	1,281	2,710
5 ビンナガ	9,810	8,126	13,663	11,021	7,735	7,670	6,826	12,470	14,986	11,351	7,100	3,125	9,946
6 メカジキ	5,232	4,409	4,449	4,242	4,439	4,198	4,890	4,361	3,652	3,656	2,945	1,214	2,132
7 サンマ	53,349	79,857	45,122	71,494	51,643	59,777	63,765	75,922	98,555	76,618	48,734	13,463	31,770
8 サケ	1,357	1,871	2,301	2,361	1,881	2,198	2,356	2,569	3,444	3,220	1,849	1,482	1,456
9 マイワシ	13,020	30,029	11,316	8,610	2,219	1,753	5,575	6,502	1,958	431	3,413	1,325	1,868
10 マサバ	18,667	27,831	9,181	15,629	31,309	48,362	86,691	34,938	43,052	47,777	40,989	5,811	10,126
11 ゴマサバ													
12 マアジ	794	825	580	638	356	373	304	962	707	628	417	265	1,009
13 スケトウダラ	7,144	6,523	4,767	5,275	11,674	3,863	5,231	4,129	6,797	4,571	5,992	4,322	5,706
14 マダラ	14,548	13,729	6,094	10,382	13,599	26,210	17,136	21,871	10,182	16,501	13,505	3,992	5,156
15 サメガレイ	152	120	223	228	257	300	202	127	215	237	176	84	153
16 ハバガレイ	212	225	212	244	191	150	192	152	157	128	143	108	180
17 キチジ	207	177	219	391	313	376	488	341	377	375	326	229	357
18 キアンコウ	220	307	267	256	292	156	341	168	164	132	170	121	132
19 イラコアナゴ	677	643	783	782	1,480	2,337	3,247	4,037	2,944	2,281	2,081	1,809	2,411
20 イトヒキダラ	20,965	15,077	9,862	11,997	7,971	8,724	14,766	12,404	9,172	7,948	6,721	705	1,025
21 ヌメカサゴ	11	10	8	8	10	5	4	4	5	30	55	18	19
22 ヤリイカ	624	1,648	855	550	421	233	558	886	1,410	313	784	358	483
23 スルメイカ	14,203	13,684	20,470	11,306	12,491	12,128	9,860	19,807	12,481	18,971	14,820	8,422	4,670
24 カタクチイワシ	5,134	11,442	4,849	17,481	16,200	13,034	13,657	5,592	9,770	10,258	16,120	4,763	4,644
25 プリ	5,461	3,365	596	425	338	1,448	1,497	1,354	1,526	2,477	3,957	1,987	3,442
26 イカナゴ	9,724	10,672	2,659	6,656	6,906	8,697	5,335	1,786	9,258	2,327	3,909	167	479
27 ツノナシオキアミ	29,158	22,510	20,586	22,352	20,942	20,123	18,938	18,411	19,035	14,645	17,693		7,170
28 サヨリ	10	10	8	11	2	6	6	10	11	10	8	6	6
29 スズキ	86	97	110	104	99	103	114	79	102	94	138	49	32
30 サワラ	66	73	60	87	40	262	139	534	336	118	375	23	53
31 アイナメ	152	135	151	130	126	90	101	93	79	98	80	31	54
32 マアナゴ	479	417	363	372	474	317	441	553	421	369	325	170	392
33 ケムシカジカ	38	35	101	48	43	50	69	65	41	32	46	23	32
34 マダイ	137	96	155	118	119	75	139	80	43	124	122	118	182
35 カナガシラ	18	32	22	13	10	11	49	18	37	44	41	12	104
36 ウマヅラハギ	147	174	169	53	61	88	227	109	45	54	161	12	17
37 ヒラメ	111	115	117	117	95	99	196	191	192	232	223	179	197
38 マコガレイ	319	240	259	212	217	152	224	238	229	247	233	116	184
39 マガレイ	383	194	216	263	465	381	537	570	528	489	401	232	557
40 ホシガレイ	5	6	4	3	2	2	4	4	5	6	8	2	4
41 ジンドウイカ	449	414	510	282	149	331	419	465	442	431	426	450	167
42 マダコ	211	68	99	31	69	38	21	191	103	89	37	43	9
43 ミズダコ	522	865	2,043	2,116	1,724	1,033	953	1,380	1,685	1,158	1,194	568	711
44 ガザミ	3	4	1	0	0	0	3	2	2	3	2	9	28
45 アカガイ		190	89	84	24	73	106	54	89	88	97	27	78
46 タチウオ	51	10	32	4	1	1	4	7	2	1	1	1	2
47 テダイ	8	5	23	7	10	4	9	12	12	14	3	1	8
48 アカムツ	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
49 トラフグ	1	2	1	2	1	1	1	1	2	2	3	0	2
50 ケンサキイカ	5	51	60	13	15	13	19	42	1	4	2	1	2
51 ホウボウ	2	5	2	2	1	2	4	8	11	5	7	6	8
52 アオメエソ	65	24	84	62	30	33	21	28	33	10	19	12	7
53 アカカマス	17	7	2	2	5	13	4	77	46	4	12	4	13
54 メダイ	76	54	74	6	367	47	36	69	27	32	20	18	10
55 アオリイカ	3	1	1	0	0	5	3	3	2	1	9	1	3

単位：トン ※サケの単位：千尾

魚種	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1 クロマグロ	485	418	964	1,245	1,787	1,528	1,394	1,685	1,747	1,782	1,912	2,028	2,406
2 カツオ	37,871	35,596	40,776	24,203	29,016	24,723	28,550	19,962	45,882	11,883	29,920	44,872	8,846
3 メバチ	2,827	3,748	2,555	2,421	2,035	2,627	2,344	2,565	2,469	1,644	3,120	2,124	1,915
4 キハダ	1,316	1,290	1,854	2,962	1,336	1,799	1,453	426	2,134	432	1,284	1,673	842
5 ビンナガ	8,984	7,905	13,784	9,514	6,433	11,466	3,206	17,696	7,261	1,328	12,481	5,336	13,803
6 メカジキ	2,375	2,395	2,583	2,978	2,700	3,096	2,394	3,088	2,284	2,119	2,349	2,226	1,983
7 サンマ	23,791	51,368	21,448	27,370	19,244	32,851	9,951	9,631	3,465	3,565	4,926	7,427	14,697
8 サケ	2,403	2,083	1,620	1,002	951	1,016	275	188	37	47	10	9	4
9 マイワシ	12,701	9,648	13,770	19,727	42,947	47,356	45,317	69,951	68,078	63,219	66,809	51,021	52,684
10 マサバ	25,500	45,383	53,505	69,190	61,755	64,908	64,922	55,034	51,825	48,400	32,653	26,566	13,802
11 ゴマサバ													
12 マアジ	1,344	1,112	985	727	581	762	896	502	450	617	673	1,416	1,128
13 スケトウダラ	5,198	5,428	4,942	2,196	2,151	1,767	1,873	1,143	2,377	6,184	1,319	92	698
14 マダラ	13,289	14,413	12,446	6,793	3,644	2,833	3,145	2,611	3,267	2,767	1,969	930	854
15 サメガレイ	100	73	89	146	153	162	118	135	56	126	51	70	717
16 ハバガレイ	208	439	268	239	179	209	274	163	188	120	203	155	157
17 キチジ	134	96	114	115	120	167	154	147	117	351	104	96	277
18 キアンコウ	194	429	251	373	491	295	353	338	365	420	438	473	570
19 イロコアナゴ	943	633	1,159	848	1,126	1,056	502	527	376	821	850	383	714
20 イトヒキダラ	401	337	952	1,124	809	1,204	771	295	117	610	180	88	632
21 ヨメカサゴ	11	16	11	11	21	48	63	56	65	48	36	39	59
22 ヤリイカ	366	1,333	461	1,204	1,632	1,771	1,757	1,698	1,551	1,349	1,936	1,369	1,164
23 スルメイカ	6,469	5,131	4,413	2,786	3,065	1,925	1,223	2,998	1,219	940	1,574	2,480	2,789
24 カタクチイワシ	6,825	2,831	1,433	959	827	343	647	1,138	1,156	1,224	1,527	1,621	1,298
25 プリ	3,603	3,107	5,177	3,886	6,472	2,723	3,577	3,889	1,847	1,992	1,476	2,084	1,577
26 イカナゴ	2,823	3,485	3,546	2,201	2,899	972	71	0	0	35	0	0	0
27 ツノナシオキアミ	13,032	10,023	14,598	8,055	7,408	2,249	9,816	460	1,489	5,720	5,481	0	4,282
28 サヨリ	10	12	10	8	3	5	17	20	23	22	30	13	46
29 スズキ	0	0	29	176	164	202	214	207	228	181	258	610	349
30 サワラ	117	295	164	311	175	109	258	190	131	71	88	266	74
31 アイナメ	66	94	87	83	84	79	66	51	41	45	47	34	51
32 マアナゴ	531	498	448	381	460	425	325	235	205	258	246	349	447
33 ケムシカジカ	30	26	21	14	13	11	8	5	3	2	2	2	3
34 マダイ	413	246	251	172	121	199	126	151	248	188	288	584	425
35 カナガシラ	130	149	233	367	386	284	215	166	126	170	202	246	217
36 ウマヅラハギ	77	69	29	37	83	91	100	131	125	99	101	95	148
37 ヒラメ	961	1,509	1,671	1,034	1,216	748	778	666	545	662	608	718	707
38 マコガレイ	208	240	439	375	352	322	270	182	126	126	89	61	58
39 マガレイ	832	866	906	789	1,053	567	287	110	79	57	48	33	18
40 ホシガレイ	6	11	15	14	20	18	22	17	9	7	8	9	7
41 ジンドウイカ	399	532	484	489	385	300	223	198	240	224	218	67	77
42 マダコ	248	46	109	226	1,169	471	473	667	409	277	858	740	371
43 ミズダコ	780	634	702	991	810	559	588	483	722	687	500	514	521
44 ガザミ	72	189	586	707	716	681	293	298	335	207	314	270	302
45 アカガイ	129	115	112	73	88	38	80	28	79	43	112	79	54
46 タチウオ	7	6	12	23	33	105	122	390	506	398	253	544	579
47 チダイ	1	1	1	57	72	192	174	222	352	200	242	252	297
48 アカムツ	0	2	4	11	6	10	11	9	10	20	30	33	27
49 トラフグ	3	4	2	2	2	2	3	3	5	26	6	38	31
50 ケンサキイカ	1	1	8	19	271	339	194	99	103	1	317	353	65
51 ホウボウ	16	15	19	19	24	34	44	40	40	37	40	88	66
52 アオメエン	2	5	2	41	203	48	74	97	111	48	99	443	374
53 アカカマス	9	15	23	8	8	6	10	11	71	28	106	116	78
54 メダイ	5	3	0	2	11	3	28	20	26	81	11	22	183
55 アオリイカ	0	0	0	1	0	1	2	2	3	1	15	15	3